

特274
340

教練指導
教案卜計畫
全



0047558-000

特274-340

教案卜計畫

兵書刊行会

昭和3

AHH

特274
340

緒言

青年訓練ハ周到ナル計畫ノ下ニ指導員ノ献身の努力ト適切ナル指導法トニ依リ僅少時間内ニ其效果ヲ發揚セサルヘカラス然ルニ軍事教育ニ到リテハ地方ノ狀況ニ依リ必スシモ豊富ナル經驗ヲ有スル者ヲ得ル能ハサルモノアラン斯ノ如キハ折角ノ努力モ效果ノ之ニ伴ハサルハ勿論ニシテ一步ヲ誤レハ却テ後害ヲ貽スコトナシトセス本教育ニ従事スル者細心ノ注意ナカルヘカラサル所以ナリ本書ハ主トシテ教練ノ指導要領ト之カ計畫トヲ述ヘ本教育ノ參考ニ資センカ爲多年軍隊教育ニ經驗ヲ有シ現ニ本教育ニ従事シテ有力ナル指導員カ各訓練所ノ實情ト所

見トヲ考慮シテ編纂シタルモノナレハ指導員ノ爲好個ノ指南者タルヲ
確信ス

昭和三年十月

編者識

指導教案ト計畫目次

第一章 指導ノ一般

第一節 教官ノ動作

- 一、位置ノ選定……………一
- 二、態度嚴正ナルコト……………二
- 三、全般ノ監視ヲ閉却セザルコト……………二
- 四、説明簡易ナルコト……………三
- 五、獎勵訓戒ヲ適當ニ行フ……………三
- 六、寬嚴宜シキヲ得ルコト……………三
- 七、課目ノ配合、實施時間ヲ適當ニスルコト……………四
- 八、精神ヲ以テ教育ニ當ルコト……………四

第二節 各個教練ニ於ケル隊形ノ選擇

- 一、一列横隊……………五

二、二列 橫隊	五
三、一步間隔一列 橫隊	五
四、二步間隔一列(二列) 橫隊	五
五、凹形、圓形、隊形	五
六、側面縱隊(各列)	五
第三節 訓練生ノ素質	五
一、體 質	五
二、素 行	六
三、職 業	六
第四節 訓練場ノ地形	六
一、平 坦 地	六
二、不 齊 地	六
第五節 訓練ノ準備	六
一、訓練ノ計畫	七
二、訓練場ノ準備	七

第二章 各個教練ノ指導

第一節 各個教練ノ目的精神及諸注意	八
第二節 徒手教練	八
第一款 不動ノ姿勢	八
第二款 左(右)向、半右(左)向及後向	八
第三款 行 進	八
第三節 執銃教練	三〇
第一款 不動ノ姿勢	三〇
第二款 右(左)向、半右(左)向及後向	三〇
第三款 擔へ銃及立銃	三〇
第四款 射擊姿勢	三六
第五款 行 進	四三
第六款 折敷、伏	四四
第四節 戰鬥ノ各個教練	四四
第一款 運	四四

第二款	射擊ノ爲地物ノ利用	三五
第三款	戰鬪各個教練ノ綜合動作	三六
第五節	夜間ノ動作	三七
第六節	記號ニ依ル動作	三八
第三章	部隊教練ノ指導	三九
第一節	部隊教練ノ目的	四〇
第二節	密集教練ノ指導	四一
第一款	集合解散	四二
第二款	整頓	四三
第三款	右(左)向、半右(左)向、後向	四四
第四款	橫隊ノ方向變換	四五
第五款	側面縱隊ノ方向變換	四六
第六款	隊形變換	四七
第七款	橫隊ノ行進	四八
第八款	側面縱隊ノ行進	四九

第九款	射擊	五〇
第十款	突擊	五一
第十一款	又銃及解銃	五二
第十二款	敬禮	五三
第三節	疎開教練ノ指導	五四
第一款	疎開教練ノ目的	五五
第二款	分隊疎開教練ノ指導	五六
一、	橫隊若クハ側面縱隊ヨリ一列側面縱隊ノ作方	五七
二、	一列側面縱隊ノ運動	五八
三、	散開ノ方法	五九
四、	散兵ノ運動	六〇
五、	突擊、集合併合、記號運動	六一
第三款	小隊疎開教練	六二
一、	側面縱隊ノ運動	六三
二、	一線疎開	六四
三、	二線疎開	六五

第四款 小隊戰術教練ノ指導

一、一般ノ概要

二、各課目ノ指導

第四章 陣中勤務ノ指導

要旨

第一節 方位ノ判定及警戒ノ判斷

第一款 方位ノ判定

第二款 警戒ノ判斷

第二節 視力ノ養成

第一款 視力ノ養成

第二款 聴力ノ養成

第三節 傳令連絡

第一款 傳令

第二款 連絡

第四節 搜索、警戒

第一款 搜 索(斥候)

一、一般ノ要領

二、各種地形ニ於ケル斥候ノ躍進搜索

三、斥候ノ偵察及報告

四、駐軍間ノ斥候

五、行軍間ノ斥候

六、特種斥候

七、指 導

一、情況ノ例

二、指 導ノ例

第二款 警 戒(歩哨)

歩哨教育指導ノ要旨

第一回 歩哨教育

1、歩哨ノ任務及守則ノ概念

2、位置ノ設備、姿勢、銃ノ保持法

3、歩哨ノ監視、徵候ノ注意、敵兵發見

4、距離測量、地形、暗識……………	一四
5、步哨線ノ通過ヲ許スモノノ處置……………	一四
第二回 步哨教育……………	一五
1、復習……………	一四
2、報告動作……………	一四
3、射撃スル場合……………	一四
第三回 步哨教育……………	一五
1、復習……………	一五
2、問答法……………	一五
3、隣歩哨ノ連絡……………	一五
4、斥候トノ連絡……………	一五
5、步哨ノ交代法……………	一五
6、軍使降參人ニ對スル動作……………	一五
第四回 步哨教育……………	一六
復習……………	一六
2、三(四)人哨(三年次)……………	一六

3、步哨掛(四年次)……………	一六
銃前哨……………	一六
5、下士哨及小哨ノ動作……………	一六
敵襲ニ對スル動作……………	一六
夜間步哨ノ動作……………	一六
第五節 遠足……………	一六
第一款 出發前ノ注意……………	一八
第二款 集合前ノ注意……………	一八
第三款 途中ノ注意……………	一八
第四款 休憩前ノ注意……………	一八
第五款 軍歌……………	一八
第六節 夜間動作ノ指導……………	一八
第一款 視力ノ養成……………	一八
第二款 聴力ノ養成……………	一八
第三款 傳令、連絡、搜索、警戒……………	一八

第四款 露	營	一八九
第五章 距離測量		一九九
第一節 要旨		一九九
第二節 繩測量		二〇〇
第三節 步測量		二〇一
第四節 目測量		二〇二
第五節 音響測量		二〇三
第六節 器械測量		二〇四
第六章 旗信號		二〇五

教練教案ト計畫 目次終

教練教案ト計畫

第一章 指導ノ一般

第一節 教官ノ動作

一、位置ノ選定

- イ、横隊ノ場合ニアリテハ正三角形ノ頂點
- ロ、側面縦隊ニアリテハ行進方位ト先頭ノ左(右)前方四十五度ノ方向
- ハ、凹形、半圓形ニアリテハ其續邊ノ中央
- ニ、對向横隊ニアリテハ一端ノ中央
- ホ、半方形ニアリテハ其一隅
- ヘ、對個人ニアリテハ正面前、行進ニアリテハ側面



二、態度嚴正ナルコト

イ、服装端正ナルコト

ロ、動作敏活ニシテ模範タルヘキコト

ハ、温容親切ナルコト

ニ、人格ヲ重シテ粗野ナラサルコト

ホ、沈着ニシテ先見ノ明アルコト

三、全般ノ監視ヲ閉却セサルコト

イ、自習其他命セラレタル動作ヲナシアルヤ否ヤ

ロ、各人ニ教ニシタル點ニ特ニ留意シアルヤ否ヤ

ハ、素リニ其位置ヲ離レ若ハ談話シアルヤ否ヤ

ニ、常ニ健康特ニニ注意ス

他ノ班ノ動作ト格別スル如ク行フコト

ヘ、部隊教練ニシテ精神緊張シアルヤ否ヤ

四、説明簡易ナルコト

イ、言語ハ努メテ平易ナルコト

ロ、教練等ハ説明ニシテ時間ヲ徒費セサルコト

ハ、可成一項毎ニ説明シ合同説明セサルコト

ニ、各人ニ示スヘキ事項ト全般ニ示スヘキ件ヲ判然区別セサルコト

ホ、説明中ハ努メテ休止ノ姿勢ヲ取ラシムルヲ可ト然レトモ簡單ナルモノニアリテハ不勤ノ姿勢ノ儘行フコトアリ特ニ緊張ヲ要スル事項ニ於テ然リトス

五、獎勵訓戒ヲ適當ニ行フ

イ、動作ノ良好ナルモノノ精神ノ緊張シアルモノヲ賞ス

ロ、訓戒ハ努メテ少ク獎勵ヲ多クス

ハ、賞罰ノ方法、時期ヲ過ラサルコト

ニ、賞ハ公明ニ罰ハ陰密ニ行フコト

ホ、獎勵ノ方法等ハ努メテ物質的ナラサルコト

六、寛嚴宜シキヲ得ルコト

イ、過度ノ嚴格ニ失スルハ却テ嫌惡心ヲ誘發ス

- ロ、放縱ヲ避ケ絶エス研究心ヲ助長スルコト
- ハ、指揮掌握ヲ確實ナラシメ衆心ヲ引キ附クルコト
- ニ、談笑ノ間ニ興味ヲ喚起セシムルコト
- 七、課目ノ配合、實施時間ヲ適當ニスルコト
 - イ、課目ノ變換頻繁ナラサルコト
 - ロ、同一課目ノ時間短少ニ失セサルコト、
 - ハ、課目ノ配合ハ動靜相半ハスルコト
 - ニ、着眼點ヲ明示シ其達成ニ努ムルコト
 - ホ、定メラレタル時間内ニ全般ノ教示ヲ完了スル如ク進捗ヲ圖ルコト
- 八、精神ヲ以テ教育ニ當ルコト
 - イ、熱心誠實ヲ旨トスルコト
 - ロ、懇切丁寧ナルコト
 - ハ、常に誠實ヲ緊張シ生徒ヲシテ自己ノ人格内ニ完全ニ抱擁スルコト

第二節 各個教練ニ於ケル隊形ノ選擇

- 一、一列横隊、停止及行進間ノ動作ヲ行フニ適ス
- 二、二列横隊、伍ノ動作ヲ行フ場合ニ用フ
- 三、一步間隔一列横隊、初歩ニ於テ各人ニ動作ノ自由ヲ與ヘ自修ヲ行ハシムル時及人員少ニシテ間隔ヲ廣クスルモ監視容易ナル時
- 四、二步間隔一列(二列)横隊、普通體操ヲ行フ時
- 五、凹形、圓形ノ隊形、特別ノ場合例ハ説明ヲ行フ時等
- 六、側面縱隊(各列)主トシテ行進間ノ動作ヲ行フ時

第三節 訓練生ノ素質

一、體 質

- イ、筋骨質 體力旺盛ニシテ進ンテ訓練ニ從事スル傾キアリ
- ロ、榮養質 體力弱ク訓練ヲ忌避スル傾キアリ

ハ、心性質、前者ニ比シ一層其度強シ

二、素行

イ、勤勉家、研究心強ク熱心ナリ

ロ、放漫家、最モ多數ヲ占メ自負心強ク雷同性ニ富ミ指導上最モ注意ヲ要ス

ハ、遊蕩家、遊惰ヲ好ミ眞摯ノ氣風乏シク倦怠ノ風アリ監督ヲ要ス

三、職業

イ、農業者、最モ着實ニシテ良好ナリ

ロ、勞働者、恒心乏シク着實ヲ缺ク風アリ

ハ、商業家、才智ニ富ミ勤勞ヲ厭フ風アリ

其他各職業ニ應ジ各々其素質ヲ異ニシ指導上注意ヲ要スヘキモノ多カラス

第四節 訓練場ノ地形

一、平坦地

イ、校庭、營庭、基礎的訓練ニ適ス

ロ、練兵場、原野、疎開教練、野外教練ニ適ス

ハ、不齊地

イ、開豁地、疎開教練、陣中勤務ニ適ス

ロ、掩蔽地、局地戦、露營ニ適ス

第五節 訓練ノ準備

一、訓練ノ計畫 (附表第二其一乃至其四)

イ、年度計畫、前年度末期ニ於テ計畫立案ス

ロ、月別(週別)計畫、年度計畫ニ依リ細部ノ計畫ヲ立案ス(第三其一)

ハ、訓練教案、月(週)別計畫ニ依リ日課ノ細部ニ關スル指導法ヲ(要スレハ現地偵察ヲナシ)計畫ス

其一例附表第二其二(略式)及附表第四(綿密)ノ如シ

二、訓練所ノ準備

イ、清掃、訓練場ヲ清潔神聖ナラシム

- ロ、器材 訓練ニ必要ナル材料ヲ豫メ準備ス
- ハ、整列位置ノ決定
- ニ、出場者ノ點呼及異動調査
- ホ、各指導員ノ協定

第二章 各個教練ノ指導

第一節 各個教練ノ目的精神及諸注意

各個教練ノ目的ハ規律ヲ重シ節制ヲ守リ、精神ヲ統一シ服従心ヲ養成シ、姿勢容儀ヲ正シ且ツ諸制式及諸法則ニ熟シ、部隊教練ノ確乎タル基礎ヲ作ルモノテアル

各個教練ヲ行フニハ必ス青年ニ其目的精神ヲ説明シ其心得ヲ要點ヲ會得セシメ、之ヲ實行ノ上ニ現ハサセルコトカ最モ緊要テアル、若シ然ラサルトキハ教練ハ形式トナリ終ニ實際ノ用ニ適セサルニ至ルモノテアル

各個教練ハ基礎的動作ナレハ之ニ依ツテ生シタ惡習ハ之ヲ除去スルコトカ困難テアル、各個教練ノ

不完全ナルモノハ部隊教練ニ於テ矯正スルコトモ不可能テアル故ニ各個教練ハ綿密嚴格ニ之ヲ行ヒ要スレハ其動作ヲ分ケテ丁寧懇切ニ教育シ之ヲ充分吞ミ込メタ後次ノ動作ニウツルカヨイ、然シナズニ分解其度ヲ過キテ複雑トナリ却テ弊害トナラナイコトニ注意スルカヨイ

各個教練ヲ青年ニ教育スルニハ其能力ト體力トニ依テ其手段ヲ異ニスルカヨイ、然レトモ要ハ巧妙ニ行ハルルコトヲ望ンテハナラヌ、熟練ニ重キヲ置クベキテアル、熟練ハ教育ノ懇篤適切ナルト復習ヲ厭ハナイトニ依ツテ目的ヲ達シ得ルモノテアル

青年ニ各個教練ノ目的精神ヲ説明シ、又其模範動作ヲ實施シテ之ニ習ハシムルコトハ最モ必要テアルカ、動モスレハ之カ爲多クノ時間ヲ費シ實施ノ時間ヲ少クスルコトカアル、斯ノ如キハ熟練ヲ第一トスル主義ニ反スルカラ其邊ノ加減ヲ誤ラヌコトカ必要テアル

各個教練ハ一度教育シテ要領ヲ會得シテカラトテ満足シ復習ヲ怠ルコトハヨクナイ、部隊教練ヲ始メタ後テモ教育ノ各時期ニ於テ絶エス之ヲ行フコトカ必要テアル

各個教練ハ共ニ體操ヲ屢々實施シ各個教練ニ於ケル惡癖ヲ除キ身體ノ凝固ヲ解クコトカ必要テアル

第二節 徒手教練

第一款 不動ノ姿勢

一、目的精神

磐石不動ノ心身ヲ養ヒ精神ヲ統一シ已ラ空シクシテ絶エス變ニ應スルノ用意アラシメ規律自制ノ習性ヲ養ヒ且ツ威容ヲ整ヘシムルヲ目的トスル

二、着 眼

イ、服従心ヲ養成ス

ロ、如何ナル號令ニモ直ニ應シ得ル如ク心身ヲ緊張セシムルコト

ハ、不動ノ心ヲ養フヘキモノテ丹田ニ力ヲ込メ如何ニ出來事ニ對シテモ沈著シテ動セス恐ラズ

堅確ナル態度ヲ鍛ヘルコト

ニ、眼ヲ動かス者ハ心ノ動キヲ現ハスモノナレハ注意ヲ要ス

三、指導要領

イ、不動ノ姿勢ヲ取ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

「氣ヲ着ケ」

不動ノ姿勢正面圖



不動ノ姿勢側面圖



- 1、兩踵ヲ一線上ニ揃ヘテ之ヲ着ケ
 - 2、兩足ヲ約六十度ニ開イテ齊シク外ニ向ク
 - 3、兩膝ハ凝ラスシテ之ヲ伸ハシ
 - 4、上體ハ正シク腰ノ上ニ落着ケ、背ヲ伸シ且少シク前ニ傾ケ
 - 5、兩肩ハ稍々後ロニ引キ一様ニ之ヲ下ケ
 - 6、兩臂ハ自然ニ垂レ掌ヲ股ニ接シ指ハ輕ク伸ハシテ之ヲ竝ヘ中指ヲ概ネ袴ノ縫目ニ當テ
 - 7、頸及頭ヲ眞直ニ保テ
 - 8、口ヲ閉テ兩眼ハ正シク開キ前ノ方ヲ直視ス
- ロ、教育要領

1、先ツ生徒ニ一通リノ目的精神及要領ヲ説明シ助手ノ模範ニ依リ若干細部ノ説明ヲナシ各自自習スヘキ事項ヲ示シ然ル後一人宛命シタル姿勢ヲ取ラシメ矯正ス(以下之ニ準ス)

2、教育ハ概ネ次ノ如ク分解シテ實施ス

第一回 足ノ揃ヘ方ト眼及口

足ハ基礎テアルカラ先ツ之ヲ習熟セシメルノテアル上體ノ動搖ヲ防ク爲小指ニ力ヲ入レルコトカ必要テアル

眼ヲ正シク開イテ各自一點目標ヲ目ノ高サノ少シ上ニ選ミ之ヲ直視サセルコト

口ヲ閉ツル爲ニハ口唇丈ヲ閉チルノテナク齒ヲ輕ク喰ヒ締メル習慣ヲツケルコトカ必要テアル

第二回 臍ヲ凝ラスシテツケルコト及腰ノ落着ク方

臍ハ着カナイ者カアルカラ之ハ體操ヲ漸次矯正スルカヨイ、腰ハ臍ヲ着ケ足尖ニ力ヲ入レハ自然ニ落着クモノテアル

第三回 上體ノ姿勢及臂ト掌

腰ヲ少シ引ク氣持チニシ上體ヲ少シ前ニ傾ケル胸ヲ張ル氣持チニシテ兩肩ヲ後ロニ引ク胸カ

ラ上ヲ少シ反ル氣持チニシテ背ヲ伸ハス

臂ハ自然ニ垂レテ凝ラナイカヨイ、掌ハ服ノ袴ノ縫目ノ所へ中指ヲ當テルノテアルカラ和服ナラハ股ノ眞側面ト心得レハヨイ

第四回 頸及頭ノ姿勢

頸スチヲ伸ハシ腮ヲ後ロニ引ク氣持チニシテ頭ヲ眞直ニスル帽子ハ其下邊カ水平ヨリ少シ後ロカ下ル位カヨイ大キ過キル帽子ヲ深ク冠セルトキハ仰ク癖カ起ル

以上テ全部完成シタノテアルカ體格ヤ職業等ノ關係テ正シイ姿勢ノ取レル者ハ殆ントナイモノテアル懇切ニ矯正スルノ外教練ノ進ムニ從ツテ自分ノ癖ヲ自覺サセ「ソラ又左ノ肩カ上ツタ」トカ「頸カ傾イテ居ル」トカ注意ヲ與ヘ自分テ直ス習慣ヲ養フカヨイ而シテ遂ニハ「又癖カ出タ」ト謂ヘハ氣カツイテ直シ最後ニハ謂ハレナクトモ正シイ姿勢カ取レル様ニナルノヲ目的トスル尙ホ以上ノ訓練中正面カラ丈テ側面カラモ矯正セナケレハナラヌ、又右(左)向ケノ訓練ト連繫シテ實施スルコトモ適當テアル

着裝ノ不正ハ姿勢ニ大影響カアルカラ常ニ正シイ服裝ヲスルコトニ慣レサセルコトカ必要テアル然シテ下シテ直シテヤルコトハ親切テヨイカイツモ直シテモラフモノト考ヘサセル様ナコ

トカアツテハナラヌ

四、休憩

目的精神

緊張シタ心身ニ一時休憩ヲ與ヘ更ニ爾後ノ動作ニ精神ノ緊張ヲ要求スルニアル

着 眼

イ、休憩中ト雖モ不謹慎ナコトヲ許サナイ片足ハ必ス舊ノ位置ニ置キ上體ノ姿勢ハ著シク變シナイコト

ロ、許可ナク談話ヲサセヌコト

監視ナク長ク休憩サセル場合(指導員助教助手ヲ集メ訓練上ノ命令ヲ下ストキノ如キ場合)ニ於テハ青年ハ自然ニ話カ始マルモノテアル、此種風ガヤカテ時ヲ選ハス話ヲナスニ至ルノテアルカラ、寧ロスノ如キ場合ニハ「小聲テ話ラシテモヨク」ト許可ヲ與ヘテヤルノモ適當デアル、然シ許可セヌトキハ如何ニ長時間テモ絕對ニ話サヌ風習ニスルカヨイ

指導要領

イ、不動ノ姿勢中休憩ヲナサシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

「休ム」

1、先ツ左足ヲ出ス

2、爾後片足ハ必ス舊ノ位置ニ置キ其場ニ立チテ休憩ス

・休憩中許可ナク話スコトヲ禁ス

ロ、教育要領

1、目的精神等ノ説明前ニ準ス

2、不動ノ姿勢ト關連シテ行フヘシ分解教育ノ必要ナシ

第二款 左(右)向、半右(左)向及後向

一、目的精神

所望ノ方向ニ正確ニ向クコト

二、着 眼

イ、訓練稍々輕キ課目ナリ

ロ、所望ノ方向ニ向キタル後ノ不向ノ姿勢正シキコト

ハ、動作中腰ヲ以テ上體及脚ヲ同時ニ回ハス氣持ニテ實施スルコト

ニ、轉回ニハ膝ヲ曲ケ腰及肩ニテ反動ヲ取ラサルコト
 ホ、後向ケノ第一動ニテ右踵ヲ地ヨリ離シ又ハ膝、腰ヲ曲ケサルコト
 ヘ、執銃ニ在リテハ銃ノ保持正シキコト

三、指導要領

- 1、右(左)向或半右(左)向ヲ成サシムルニハ次ノ號令ヲ下ス
 「右(左)向け 右(左)」或ハ「半右(左)向け 右(左)」
- 1、右足尖ハ右足トヲ少シク上ケ
- 2、左踵テ九十度或ハ四十五度右(左)ニ向ク
- 3、右踵ヲ左踵ニ着ケテ同線上ニ揃フ
 ロ、後向ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
 「廻れ 右」
- 1、右足ヲ其方向ニ行キ足尖ヲ僅ニ左踵ヨリ離シ
- 2、兩足尖ヲ少シク上ケ兩踵ニテ後ロニ廻ハリ
- 3、右踵ヲ左踵ニ引着ク

ハ、教育要領

1、教育ハ概ネ次ノ如ク分解シテ實施ス

右(左)向、半右(左)向

第一回 足ノ動作ヲ主トス角度ヲ正シクスルコト

初メハ上體ハ多少不正ナルモ止ムヲ得サルニ付先ツ足ノ動作ニ重キヲ置キ訓練ス
 角度ヲ正シクスル爲メ地上ニ方向ヲ畫キテ實施スルヲ可トス

第二回 上體ノ姿勢ヲ足脚ト共ニ正シク保チテ向クコト

後向

第一回 右足ノ引き方

引き過キ、引き足ヲヌコトナキコト

引ク方向正シキコト

第二回 踵ニテ後ロニ廻ルコト

廻リタル方向正シキコト

廻ル際腰ニ力ヲ込メ體、腰、脚ノ運動ヲ別々ニナラサル如ク注意スルコト

廻ル動作ハ敏捷ニシテ足尖ヲ速ニシ且ツ踏ミ縮メル如ク地ニ着ケルコト
方向正シキコト

第三回 右足踵ヲ左踵ニ引着ケルコト

右踵ヲ少シク地ヨリ離ス氣味ニテ速ニ左踵ニ引着ケルコト

踵ノ一線ニ揃フコト足ノ向ノ正シキコト

第三款 行 進

一、目的 精神 (行進全般ニ就キ)

衆心一致ノ精神ヲ涵養シ紀律嚴正團結鞏固ナル團體ヲ練成スルノ基礎ナルヲ以テ特ニ威風堂々勇
往邁進水火モ辭セサル氣慨ヲ養成スルヲ目的トス

二、着 眼 (進全般ニ就キ)

行進ハ勇往邁進ノ氣概ヲ練リ潤達敢爲ノ性ヲ養ヒ且整正ナル歩法ニ慣レシムルヲ主トス

三、速歩發進及歩法

イ、着 眼

1、步調齊正ニシテ目標ニ向ヒ直進スルコト

2、後ナル脚ニテ推進スルノ要領ヲ會得セシムルコト

3、上體脚及手ノ調和一致ヲ圖ルコト

4、體重ヲ踏ミ着ケタル足ニ移スコト

5、脚ノ運ヒ方元氣ニシテ威容アルコト

6、不活潑ヲ特ニ戒ム

ロ、速歩一步ノ長サハ踵ヨリ踵マテ七十五種ヲ其速度ハ一分時間二百十四歩ヲ基準トスル
ハ、速歩行進ヲ起サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

「おへ進メ」

進行歩速



脚ニ就キ示シタ如ク右脚ヲ前ニ出シテ踏ミ着ケテ行進ヲ續行スル

4、頭ヲ眞直ニ保チ兩臂ヲ自然ニ振ル

1、左股ヲ少シク上ケ脚ヲ前ニ出シ

2、右足ヨリ七十五種ノ所ニ脚ヲ伸ハシツツ踏ミ着
ケ同時ニ概ネ 臍ヲ伸シ全ク體ノ重ミヲ之ニ移ス

3、左足ヲ踏ミ着クルト同時ニ右足ヲ地ヨリ離シ左

ニ、教育要領

- 1、目的精神等ノ説明前ニ準ス
- 2、教育ハ概ネ左ノ順序ニ分解教育ス

第一回 脚ノ上ケ方ト踏ミ着ケ方

脚ヲ上ケルニハ膝ヨリ下ノ力ヲ抜キ足尖ハ少シ下ニ垂レ脚ハ膝ヨリ下ニ於テ殆ト垂直トナルヲ可トス

脚ヲ上ケル高サハ概ネ圖ニ示セル位ヲ可トス

踏ミ着ケル際ニハ活潑ナルヲ要ス然シ故ラニ地ヲタタクハ良シクナイ

脚ハ踏ミ着ケタ際伸ヒテ居ルノカ良イ、伸ヒナイ者ハ體操ノ補助ニ依テ伸スコトニ勉ムヘキテアルカ立ツタトキニ伸ヒテ居ル脚テアレハ、要領サヘ會得スレハ伸ヒナケレハナラヌ筈テアル、ツマリ固クナツテ要領カ會得出來ヌ者カ多イノテアルカラ、無暗ニ針金テモ伸ス様ナ考テ無理ナ運動ヲスルノモ弊害カアル

第二回 上體ノ保チ方

上體ハ不動ノ姿勢ヨリハ少シク前ニ傾ケルノテアル

腰ノ上ニ上體ヲ落着ケル要領ハ不動ノ姿勢ト大差ハナイ

第三回 頸^{シヤウ}及頭ノ保チ方及手ノ振り方

頸及頭ハ不動ノ姿勢ノ儘ト思ヘハ良シイ

手ノ振り方ハ自然テナケレハナラヌ而シテ肘カラ折レルノハ良シクナイ、又最初ワサト振

ロウトシテ脚ノ運動ト同シ方ノ手ヲ振ル者カアル固クナツテ居ル證據テアル

第四回 目標ニ向ヒ直進スルコト

以上テ出來上カツタノテアルカ行進ハ眞直ニ前進セナケレハナラヌカラ、目標ヲ指示或ハ自ラ選定サセテ之ニ直進サセルノテアル

四、速歩ヨリ停止

イ、着 眼

1、停止後ノ不動ノ姿勢確實ニシテ體ノ動搖セヌコト

2、勝手ニ姿勢ヲ直シタリ眼球ヲ動カシタリセヌコト

ロ、停止セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

「分隊 止レ」

後ノ步ヲ一步前ニ蹈ミ出シ次ノ足ヲ引着ケテ止ル
ハ、教育要領

之ハ分解教育スル必要ハ認メヌ又要領ヲ示シテ直ニ實施ニ移レハヨイ

五、行進間右(左)向及半右(左)向

イ、目的精神

- 1、所望ノ方向ニ前進スル爲其方向ニ正シク向フコト
- 2、正確事ヲ處シ果斷決行ノ習性ヲ養フ

ロ、着 眼

- 1、轉回確實ニシテ節度アルコト
 - 2、正シク新方向ニ轉回スルコト
 - 3、新方向ノ第一歩特ニ狭クセサルコト
- ハ、行進間右(左)向ケテ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
「右向テハ進メ」

左(右)足ヲ約半歩前ニ足尖ヲ内ニ蹈ミ着ケ體ヲ右(左)方ニ向ケ右(左)足ヨリ新方向ニ行進ス

ニ、行進間斜行進ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

「斜ニ右(左)ハ進メ」

左(右)足ヲ約半歩前ニ足尖ヲ内ニシテ蹈ミ着ケ體ヲ半ハ右(左)方ニ向ケ右(左)足ヨリ新方向ニ行進ス

直行進ニ復セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

斜ニ左(右)ハ進メ

斜行進ヲ爲スト同法ヲ以テ直行進ニ復ス

ホ、教育要領

- 1、目的精神等ノ説明
 - 2、教育ハ概ネ左ノ方法ニ依ル
 - 第一回 停止間ニ於テ要領ヲ會得セシムルコト
 - 停止間ヨリ約半歩前ニ足尖ヲ内ニシテ蹈ミ着ケ所望ノ方向ニ轉回スル要領ヲ教ヘル
- 第二回 行進間ニ實施

六、速步行進「步調取レ」「步調止メ」

イ、目的精神

歩法ヲ容易ニス

ロ、着 眼

1、行進ヲ容易ナラシムルモノニシテ休憩ノ意味ニアラサルコト

2、姿勢態度ヲ崩スコトヲ禁シ正規ノ歩法ヲ守ラナイ丈テ速歩ノ歩長ト速度ニハ變リナイコト

ハ、速歩行進間行進ヲ容易ナラシルニハ左ノ號令ヲ下ス

「歩調止メ」

正規ノ歩法ヲ守ルコトナク速歩ノ歩長ト速度トテ姿勢ヲ崩スコトナク行進ス

再ヒ正規ノ速歩ニ復スルニハ左ノ號令ヲ下ス

「歩調取レ」

七、「折敷」「伏セ」

イ、目的精神

速ニ姿勢ヲ低クスルヲ目的トス

ロ、着 眼

比較的整正確實ヲ要求セヌ課目ナルモ迅速ニ號令ニ應スルコトニ熟セシムルヲ要ス之ニ依リ機敏性ヲ養成スルコトカ出來ル

折敷(伏セ)ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

「折敷(伏セ)」

折敷



伏臥



1、行進間ニ折敷ヲ爲スニハ右足ヲ踏ミ左足ヲ約半歩右足尖ノ前ニ足尖ヲ僅ニ内ニシテ踏ミ出スト同時ニ上體ヲ半ハ右ニ向ケ左手ヲ以テ劍鞘ヲ前ニ拂ヒ右脚ヲ曲ケ其股ヲ地ニ着ケ臀ヲ右足ノ後テ地ニ着ケ左脚ヲ立テ兩手ヲ握リ右手ヲ右股ノ上ニ左手ノ前臂ヲ左膝ノ上ニ置ケ

2、伏臥ヲ爲スニハ右足ヲ折敷ノトキノ如ク

踏ミ出スト同時ニ上體ヲ半ハ右ニ向ケ右膝ヲ地ニ着ケ次テ左膝ヲ地ニ着ケ左手ヲ體ノ前ニ出シ地ニ着ケ伏臥シ兩手ヲ握リ右前臂ヲ左前臂ニ載セル

3、停止間モ此要領ヲ行フ
4、折敷(伏臥)ヲ長ク其姿勢ヲ續ケルトキハ其儘テ休憩サセルコトカアル

ニ、教育要領

1、目的精神等ノ説明
2、本教育ハ元來アマリ整正確實ヲ要求セナクトモヨイノテアルカラ分解教育モ左程綿密テナクトモ良シカラウト思ハレル從テ概ネ次ノ要領ヲ實施スル

第一回 停止間ノ動作

停止間ノ動作ヲ模範ヲ示シツツ一節度毎ニ實施セシメ了解シタル後號令ヲ以テ一節度宛各個ニ行ハシメ次ヲ綜合動作ヲ實施ス

第二回 行進間ノ動作

概ネ綜合動作ヲ實施セシム

ホ、折敷(伏セ)ニ在ルトキ起立セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

「起テ」

1、折敷ニ在ルトキハ上體ヲ上ケ、右脚ヲ立テ、右足ヲ左足ニ引キ着ケ(伏セノトキハ右脚ヲ

曲ケ兩膝ヲ地ニ着ケタママ左手テ上體ヲ起シ)左足ヲ約一步前ニ蹈ミ出シテ立チ右步ヲ左足ニ引着ケル

教育要領折敷(伏セ)ニ準ス

八、駈 步

イ、目的精神

持久力ヲ主トシ實用ニ適スルヲ目的トス

ロ、着 眼

1、徒ニ外形ノ齊一ヲ要求スルノ必要ナキモ歩長、歩度ハ概シテ操典ノ制式ニ適ヒ部隊内ニ於テ不齊一トナラサルコトニ注意シテ訓練スヘシ

2、口ヲ閉チ鼻テ呼吸スルコト

駈歩一步ノ長サヲ踵ヨリ踵マテ約八十五釐トシ其速度ハ一分間ニ約百七十歩トス

駈歩行進ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

「駈歩 進メ」

駢 步



- 1、豫令テ右手ヲ握リ腰ノ高サニ上ケ肘ヲ後ロニスル
ト共ニ左手テ劍韋ヲ握ル
- 2、動令テ左脚ヲ前ニ出ス其方法左ノ如シ
兩脚ヲ少シク屈メテ僅ニ左股ヲ上ケ右足ヨリ約八十

五種ノ所ニ蹈ミ著ケ

左脚ト同法ニ依リ右脚ヲ前ニ出ス

常ニ體ノ重ミヲ蹈ミ着ケタ足ニ移シ兩臂ヲ自然ニ振り續テ行進スル

九、駢步間停止及駢步ヨリ速歩

イ、駢步間停止セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

「令 隊 止レ」

1、號令テ二歩前進シタ後、後ノ足ヲ一歩前ニ蹈ミ出シ次ノ足ヲ引着ケテ止ル

2、右手ヲ下スト共ニ劍韋ヲ放ツ

ロ、駢步ヨリ速歩行進ニ移ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

「速歩 進メ」

二歩前進シタ後速歩ニ移リ右手ヲ下ロスト共ニ劍韋ヲ放チ續イテ行進スル

十、駢步行進間ノ諸動作

イ、駢步行進ノ右(左)向、半右(左)向、後向、折敷、伏セ等ノ動作ハ速步行進ノ要領ニ準シテ行

フ、但シ速歩ノ動作ヨリモ二歩多ク前進シタ後動作スルモノテアル

ロ、教育ノ要領モ速歩ニ準シ速歩間動作ニ一通リ熟シテカラ行フカ良ロシイ

十一、足踏及踏替

此動作ハ歩兵操典テハ部隊教練ノ部ニ規定サレテ居ルカ各個教練ニ準シ教育シ應用サセルコトヲ便宜トスル

足踏ノ方法左ノ如シ

足踏ヲナスニハ進ムコトナク少シ膝ヲ屈メ交ル交ル兩足ヲ踏ミ着ケテ調子ヲ取ル、速度ハ速歩

駢步共ニ其速サヲ變ヘナイ

踏替ハ歩カ右左他ノ者ト違ツタトキ之ニ合セル爲行フモノテ其方法ハ左ノ如シ

速歩間ニ踏替ヲ爲スニハ後ロノ足ヲ前ノ足ニ引キ着ケ前ノ足ヨリ行進ス

駢步行進間ニ踏替ヲ爲スニハ片足テ二步行進スル

足踏間ノ踏替ハ片足ヲ二步踏ミ着ケル

第三節 執銃教練

第一款 不動ノ姿勢

一、目的精神

徒手教練ニ同シ銃ヲ確實ニ保持スルコト

二、着 眼

1、右手ヲ以テ確實ニ銃ヲ握ルコト但シ過度ニ力ヲ入レルコトハ弊害ヲアル之カ爲體カ凝固トナリ姿勢カ崩レ易イ

2、銃ヲ垂直ニ保タシムルコト

3、徒手ノ不動ノ姿勢尙ホ未熟ノ時ニ實施スルトキハ惡癖ヲ生スル原因トナル

三、不動ノ姿勢ノ要領

1、徒手ノ不動ノ姿勢ト同シ姿勢ヲ取ル

執銃不動ノ姿勢正面圖



執銃不動ノ姿勢側面圖



2、右手ヲ以テ確實ニ銃ヲ握ル、其法腕關節ヲ稍々前ニ出シ、銃身ヲ拇指ト食指トノ間ニ置キ、其他ノ指ハ食指ト共ニ揃ヘテ閉チ輕ク屈メテ銃床ニ添ヘ、銃口ハ右臂ヨリ一握程(約十糎)ヲ隔テ、銃身ヲ後ロニシ、床尾踵ヲ右歩尖ノ傍ニ置キ、銃身ヲ概ホ垂直ニ保ツ

四、教育 要領

1、目的精神等ノ説明

2、徒手ノ不動ノ姿勢ヲ取ラシメ之ニ銃ヲ持タシム

3、脈部ヲ腰ニ支ヘル要領ヲ會得セシム

右手ヲ銃ヲ保持スル要領ハ各個ノ體格ニ依テ多少異ナルモノテアルカラ注意シテ教育セナケレハナラヌ

「休メ」ハ徒手ノ場合ニ準スル唯銃ニ注意シ特ニ照星ヲ據ラナイヨウニ注意サセル

第二款 右(左)向半右(左)向及後向

一、目的精神

徒手教練ニ同シ但シ銃ト體トノ一致ニ注意

二、著眼

- 1、銃ノ爲其動作不確實トナリ易ク且ツ姿勢ヲ崩シ易シ
- 2、銃ト體トノ調和ヲ缺カサルコト

三、右(左)向、半右(左)向、後向ノ要領

右(左)向、半右(左)向、及後向ノ方法ハ徒手教練ニ同シ但シ右手ヲ少シ銃ヲ上ケ腰ニ支ヘ動作カ終レハ靜ニ之ヲ下ス

四、教育要領

最初ハ節度毎ニ若干ノ時間ヲ置キ實施シ漸次正規ノ速度トナス

第三款 擔銃及立銃

一、目的精神

擔銃ハ前進ノ準備動作ニシテ擔銃其物丈獨立シテ用ヲナスヘキ動作ニアラス、故ニ行進間ニ於テモ擔銃ノ銃ノ保持確實ナルコトヲ精神トス

二、著眼

- 1、銃ノ保持確實ナルコト之カ爲右上膊ヲ體ニ接シ右手ノ銃ノ握リ方確實ナルヲ要ス
- 2、迅速確實ニ擔ヒ終ルコト
- 3、途中ノ動作ヨリ擔ヒ後ノ動作ニ重キヲ置クコト
- 4、擔銃後ノ姿勢ヲ崩サヌコト
- 5、持久力アルコト

三、指導要領

立銃ヨリ擔銃ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

〔擔ヘ銃〕

- 1、右手ヲ以テ銃ヲ上ケ概ネ銃身ヲ右ニ且ツ之ヲ垂直ニシ拳ヲ略ク肩ノ高サニスルト同時ニ左手ヲ以テ照尺ノ下ヲ握ル
- 2、銃身ヲ半ハ前ノ方ニ向ケ少シク銃ヲ上クルト同時ニ右手ヲ伸ハシテ食指ト中指トノ間ニ床



第二卸ノ中央ニスル

4、左手ヲ下ロス

四、教育要領

イ、目的精神等ノ説明
ロ、左ノ如ク分解教育ス

第一回 第一節度

前項(1)ノ動作ヲ訓練ス

第二回 第二節度迄

前項(2)ノ動作迄

尾踵ヲ置ク如ク床尾ヲ握ル

3、右手ヲ以テ銃ヲ右肩ニ擔ヒ銃身ヲ上ニスルト
同時ニ左手ヲ遊底ノ上ニ置キ、右上膊ヲ輕ク體
ニ接シ床尾ノ銀ヲ體ヨリ一握程離シ銃ハ上衣ノ
卸ノ線ト平行セシメ槓桿ノ高サヲ概ネ其第一、

第三回 第三、第四節度

前項(3)ノ動作迄

右完成後節度毎ニ若干ノ時間ヲ置キテ綜合動作ヲ訓練、逐次正規ノ速度ニ至ラシム、然シ此
ノ動作ハ途中ノ動作ニ餘リ重キヲ置ク必要ハナイ出來上リカ一重要テアルカラ分解教育モ
過度ニ途中ノ動作ニ注意スルコトハ不必要テアル、又全般ニ於テ舊ノ様ニ重ク見ラレタ訓
練テナイコトニ注意スルコトカ必要テアル

五、擔銃銃ヨリ立銃

イ、目的精神

擔銃ト同シク立銃其モノカ獨立シテ用ヲナスモノテナイ行進中停止スレハ立銃カ伴フモノテア
ル確實ニ銃ヲ卸スコトヲ目的トスル

ロ、著眼

概ネ擔銃ニ同シ但シ銃ヲ地ニ衝突サセナイ注意カ肝要テアル

ハ、指導要領

擔銃ヨリ立銃ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

「立テ銃」

1、右手ヲ伸ハシ銃ヲ下ケ銃身ヲ半ハ右ニ向ケ概ネ之ニ垂直ニスルト同時ニ左手ヲ以テ照尺ノ下ヲ握ル

2、銃ヲ下ケ銃身ヲ右ニスルト同時ニ右手ヲ以テ木被ノ所ヲ握リ其拳ヲ略ミ肩ノ高サニス

3、銃身ヲ後ロニシ之ヲ下ケ腰ニ支ヘ同時ニ左手ヲ下ロス

4、靜ニ銃ヲ地ニ着ク

教育方法ハ概ネ擔銃ニ準スル

第四款 射擊姿勢

射擊ハ青年訓練テハ姿勢ヲ訓練スレハヨイノテアル實彈射擊迄ヤレハ誠ニ趣味モ多クテ結構タカ經濟ノ上カラモ時間ノ上ニ其迄ハ出來ナイカ將來ハ段々ト其所迄要求セラレル時代カ來ルテアラウ、射擊ハ軍隊ニ於テ最モ大切ナ課目テアル其基礎ハ矢張り射擊姿勢テアルカラ、指導員モ青年モ之ニ思ヲ致シ本動作ノ訓練ニハ重キヲ置クコトカ必要テアル
良好ナ射擊姿勢ハ命中ヲ良好ナラシムルノ基礎ヲナスモノテアル、故ニ常ニ堅確テ而モ凝ルコトナク自然ノ狀態ニ在ルヲ要スル

一、目的精神

射擊ハ歩兵ノ主要ナル戰闘手段テアル、故ニ其基礎タル射擊姿勢ハ各人ノ體格ニ適應シ堅確且動作自由ニシテ持久力アルヲ主トシ射擊準備ヲ迅速ニ完了スルヲ目的トス

二、著眼

1、立射ノ兩足ノ位置正シク上體ノ方向正シキコト其方向ハ約六十度ヲ可トス

2、立射ニテ上體ノ反ラサルコト

3、膝射ノ姿勢ハ特ニ體格ニ適應セシムルコト

4、膝射ノ左前臂ト左脚トハ成ルヘク同平面ニ在ラシムルヲ可トス

5、伏射ノ姿勢ニ於ケル體ノ方向ハ約三十度ナルコト

6、伏射ノ左肘ノ位置適度ニシテ胸ヲ扛起シ據銃照準容易ナルコト

三、指導要領

1、射擊ノ姿勢ヲ取ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

「立射ノ様ヘ銃」

「膝射ノ様ヘ銃」

「伏射ノ様」
「連射ノ様」

不動ノ姿勢ニ在ルトキ立射ノ姿勢ヲ取ルニハ



勢姿ノ射立

- 1、示サレタ目標ニ正對シ、頭ヲ其方向ニ保チタル儘
- 2、右足尖ヲ以テ半ハ右ニ向キツツ左足ヲ約半歩左前ニ踏ミ出シ、同時ニ右手ヲ以テ銃ヲ上ケツツ前ニ倒シ、左手ヲ以テ概ネ銃ノ重點ノ所ヲ握リ其臂ヲ體ニ着ケ指ハ銃床ノ溝ニ置キ、銃口ヲ概ネ眼ノ高サニシ床鼻ヲ右乳ヨリ少シク下ニシ床尾ヲ體ニ接シ

- 3、(裝填ヲナス)
 - 4、右手ヲ以テ概ネ右側ヨリ銃把ヲ握リ
 - 5、目標ニ注目ス
- 不動ノ姿勢ニ在ルトキ膝ノ姿勢ヲ取ルニハ
- 1、示サレタル目標ニ正對シ頭ヲ其方向ニ保チタル儘

勢姿ノ射膝



- 2、左足ヲ約半歩右足尖ノ前ニ足尖ヲ僅ニ内ニシテ踏ミ出スト同時ニ、上體ヲ半ハ右ニ向ケ
- 3、左手ヲ以テ劍韋ヲ前ニ拂ヒ、右脚ヲ曲ケ、其股ヲ目標ノ方向ト殆ト直角ナル如ク平地ニ着ケ、臂ヲ右足ノ後方ニ於テ地ニ着ケ、左脚ヲ立テ同時ニ右手ヲ以テ銃ヲ前ニ倒シ、左手ヲ以テ立射ノ如ク之ヲ保チ其前臂ヲ左膝ノ上ニ置キ、床尾飯ヲ右股ノ内部ニ當テ

- 4、(裝填ス)
 - 5、右手ヲ以テ右側面ヨリ銃把ヲ握リ
 - 6、目標ニ注目シ上體ヲ自然ノ方向ニ概ネ眞直ニ保ツ
- 不動ノ姿勢ニ在ルトキ伏射ノ姿勢ヲ取ルニハ
- 1、示サレタル目標ニ正對シ頭ヲ其方向ニ保チタル儘
 - 2、左手ヲ以テ彈藥盒ヲ左右ニ開キ
 - 3、左足ヲ膝射ト同シ要領ヲ踏ミ此ト同時ニ上體ヲ半ハ右ニ向ケ

伏射ノ姿勢



ニ傾ク

射撃姿勢ヲ取ツタトキ逆射ノ外ノ姿勢テハ銃口ヲ概ネ目ノ高サニシ、又何レノ姿勢ニ在ツテモ右手ノ食指ヲ用心臓ノ内ニ入レテ伸ハス

4、左膝ヨリ逐次地ニ着ケ
5、左手ヲ前ニ出シ地ニ着ケ體ヲ射撃方向ニ對シ約三十度ニシテ伏臥シ左手ヲ以テ立射ニ於ケルカ如ク銃ヲ保チ

6、(裝填ス)

7、右手ヲ以テ稍々下方ヨリ銃把ヲ握リ

8、目標ニ注目シ、銃把ヲ腮ノ稍々前ニ在ル如クシ兩肘ヲ地ニ支フ不動ノ姿勢ニ在ルトキ逆射ノ姿勢ヲ取ルニハ

1、飛行機ノ飛行方向ニ平行ニ仰臥シ得ル如ク體ヲ向ケ

2、膝射ノ要領ニ依リ髻ヲ地ニ着ケツツ左手ヲ以テ銃ノ左側面ヨリ木被ノ所ヲ、右手ヲ以テ銃把ヲ握リ、仰臥シ床尾ヲ右腋下ニシテ床嘴ヲ地ニ着ケ、銃口ヲ上ニシ、銃ヲ地面ニ對シ約三十度ニ保チテ體ヲ飛行機ノ方向

射撃姿勢ヲ取ツタ後不具合ヲ感スルトキハ其姿勢ノ儘速ニ修正シ、膝射ノ姿勢ニ在ツテハ體格ニ依ツテ髻ヲ右足ニ載セテモヨイ

ロ、教育要領

1、目的神情等ノ説明

2、教育ハ先ツ徒手テ行フヲ良シトスル而シテ此動作ハ出來上ツタ姿勢ハ堅確テナケレハナラヌカ途中ノ動作ハ左程迄ニ確實齊一ヲ要シナイ、從テ分解教育ハ其順序方法ヲ會得セシムルニ必要ナ程度ニ於テ行フカヨイ、而シテ模範ヲ示シツツ一節度毎ニ之ヲ習ヒ動作セシメツツ説明シ、且ツ不解シタ後モ一節度毎ニ若干ノ時間ヲ置テ實施セシメ、遂ニ正規ノ速度ニ到ラシメルカヨイ

姿勢ヲ取ツタ後不具合ナ場合ニ自己修正ヲ許シテアルノハ射撃姿勢丈テアルカラ、其點ニモ注意シテ他ノ動作ニ此癖ヲ及ホサスコトハヨロシクナイ

四、撃方止メ

射撃ヲ止メシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

「撃方止メ」

- 1、(注目シテ銃ヲ安全装置ニシ、照尺ヲ舊位ニ復シ)
 - 2、頭ヲ目標ノ方向ニシ
 - 3、立射ニ在ツテハ右手ヲ以テ木被ノ所ヲ握リ、左踵ヲ舊方向ニ向キツツ右足ヲ左足ニ引キ着ケテ不動ノ姿勢ヲ取ル
 - 4、膝射ニ在ツテハ臀ヲ地ヨリ離シ、右手ヲ以テ木被ノ所ヲ握ツテ起チ、目標ノ方向ニ向キツツ右足ヲ左足ニ引キ着ケテ不動ノ姿勢ヲ取ル
 - 5、伏射ニ在ツテハ其姿勢ヲ取ツタトキハ概ネ反對ノ順序ヲ以テ上體ヲ起シ、左足ヲ約一步前ニ踏ミ出シテ起チ右足ヲ左足ニ引キ着ケテ不動ノ姿勢ヲ取ル
- 逆射ニ在ツテハ右手ヲ以テ地面ヲ壓シテ體ヲ起シ、其姿勢ヲ取ツタトキト概ネ反對ノ順序ヲ以テ起チ右足ヲ左足ニ引キ着ケテ不動ノ姿勢ヲ取ル

教育要領ハ概ネ射撃姿勢ヲ取ルトキニ準ス

第五款 行 進

一、目的 精神

徒手ノ行進ニ同シ

二、着 眼

- 1、銃ノ保持ヲ確實ニスルコト
- 2、行進間右臂ヲ體ヨリ離シ銃ノ動搖甚シキニ至ルコトアリ
- 3、床尾鉞ノ握リ方ヲ確實ニスルコト

三、指 導 要 領

1、行進及停止ノ要領

執銃ノ行進ハ豫令ヲ擔銃ヲ爲シ、動令ヲ發進ヲ起スモノテアル、但シ駈步行進ハ擔銃ヲ爲シタ後劍鞘ヲ握ル「止レ」ノ動令ヲ停止シテ立銃ヲナス

銃ヲ擔フコトナク行進スル場合ニハ右手ヲ以テ少シク銃ヲ上ケ腰ニ支ヘル、駈歩ヲ行フトキハ劍鞘ヲ握ル

停止セハ直ニ不動ノ姿勢ヲ取ル

ロ、教育要領

- 1、目的精神等ノ説明
- 2、徒手ノ速歩、擔銃ノ動作カ充分出來レハ難ナク出來ル筈テアルカラ面倒ナ教育法ハ不要テ

第六款 折敷、伏セ

一、目的精神

一時姿勢ヲ低クスルヲ目的トス

二、着眼

動作ノ齊一ヲ要求セス寧ロ迅速ナルヲ可トス

三、指導要領

1、折敷(伏セ)ノ要領

1、行進間ニ在ツテハ折敷(伏臥)ヲ爲スニハ「折敷」ノ號令テ、徒手教練ノ要領テ姿勢ヲ取り、立銃ノ要領テ銃ヲ下ロシ之ヲ右膝ノ前ニ立テ銃身ヲ後ロニシ右手ヲ以テ木被ノ所ヲ握リ左前臂ヲ左膝ノ上ニ置ク

2、「伏セ」ノ號令テ徒手教練ノ要領テ右膝ヲ地ニ着ケ、銃ヲ下ロシツツ左膝ヲ地ニ着ケ、左手ヲ體ノ前ニ出シ地ニ着ケ伏臥シ木被ノ所ニ就キ左前臂ニ載セ槓桿ヲ上ニス

3、停止間ニ在ツテモ之ニ準ス

4、折敷(伏臥)ニ在ルトキ「起テ」ノ號令テ、徒手教練ノ要領テ起テ不動ノ姿勢ヲ取ル

ロ、教育要領

徒手教練ノ要領テ節度毎ニ若干ノ時間ヲ置キ訓練セハヨロシイ重要ナ課目ヲナイカラ動作ノ齊一等ニ領分ノ力ヲ用ヒルノ必要ハナイ

第四節 戦闘ノ各個教練

一、目的精神

1、戦闘ノ各個教練ハ散兵ノ動作ニ必要ナ基礎ヲ會得セシムルノカ目的テアル

2、攻撃精神ノ養成

二、着眼

1、戦闘ノ各個教練ニハ敵ノ状態ニ應シ地形、地物ノ價值ヲ判別シ之ヲ利用シテ行進シ停止ス(射撃シ突撃スル)ルコトニ熟セシムルト共ニ攻撃精神ヲ養成シ常ニ自ラ信シテ戦闘シ得ルノ能力ヲ與フルヲ要ス

2、戦闘ノ教練ヲ行フニハ青年ヲシテ常ニ戦況中ノ人トナルコトカ必要テアル、之カ爲豫メ所

要ノ準備ヲ整ヘタ後實施スルカヨイ

3、諸種ノ運動ハ各別ニ教育シ漸次習熟スルニ從ツテ綜合シテ訓練スルカヨイ

第一款 運動

一、一般ノ説明

運動ノ教育ニハ青年ノ行動ヲシテ能ク狀況ニ適合シ特ニ發進及停止ノ動作ヲ機敏ニシ敵ヲシテ有利ナ目標ヲ捕ヘル暇カナイヤウ訓練スルヲ要スル、之カ爲地形、地物ヲ利用スルハ勿論散兵壕、交通壕及障礙物又ハ其破壞部或ハ砲彈ノ破裂ヨリ生シタ彈痕等ヲ設ケ適切ナ姿勢ト歩度トヲ以テ運動シ得ルヤウ周到ナ教育ヲ施スコトカ必要テアル

二、前進ノ諸動作

カ、前進スルニハ銃ヲ右手ヲ木被ノ所ヲ確實ニ握リ銃口ヲ上ニシテ提ケ、速歩駈歩又ハ早駈ノ中、狀ニ適スル歩度ヲ前進スル

歩度ノ選擇ハ敵火ノ狀態、地形及運動ノ目的等ニ依テ異ルカ敵彈下ニ在ツテハ通常駈歩ヲ用フルモノテ、敵火ノ效力カ著シイトキハ早駈ヲ用ヒ一地點カラ一地點ヘ躍進スルヲ可トスル、然シ敵ノ有效射撃ヲ被ラナイトキハ速歩ヲ用フルヲ可トスルコトカアル

ロ、躍進ノ距離、駈歩、若ハ早駈テ一躍前進スヘキ距離ハ土地ノ景況、敵火ノ強弱等ニ依テ一定ハ出來ヌカ通常五十米ヲ越ヘナイカヨイ、若シ前進カ愈々困難ナトキハ更ニ短距離トスルヲ必要トスルコトモアルカ過度ニ之ヲ短縮シテ前進ノ氣勢ヲ減殺シテハヨロシクナイ

三、前進

イ、目的精神

1、敵ニ近ツク動作テアル故ニ最モ勇往邁進ノ氣慨カ必要テアル

2、機敏性ヲ養フ

ロ、着眼

1、勇往邁進ノ氣慨及機敏性ヲ養成スヘシ

2、敵ニ對スル注意心ヲ養成ス

ハ、指導要領

1、射擊中ノ者ヲ駈歩(早駈)テ前方(斜方向)ニ前進セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

〔駈歩(早駈)〕

〔前へ(斜ニ右(左)へ)〕

「駈歩」「早駈」ノ號令ヲ前進準備ヲ整ヘル

「前へ」「斜ニ右(左)へ」ノ號令ヲ直ニ駈歩(早駈)ヲ前進ス

此際準備ノ爲著シク姿勢ヲ變化シテ敵ニ前進ヲ察知セラレ無益ノ損害ヲ受ケヌコトニ注意ス

2、速歩ヲ前方(斜方向)ニ前進セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

「前へ」「斜ニ右(左)へ」

速歩ヲ前進ス

3、行進間斜行進(斜行進間直行進)ヲナサシムルニハ次ノ號令ヲ下ス

「斜ニ右(左)へ」「斜ニ左(右)へ」

號令ニテ直ニ示サレタ方向ニ行進スル

ニ、教育要領

1、目的精神等ノ説明

2、教育ハ概ネ左ノ如ク分解シテ實施ス

第一回 發進、伏臥ヨリノ前進

發進ノ用意 「駈歩」「早駈」ノ號令ヲ發進ノ用意ヲスル其法右脚ヲ曲ケ左手ヲ地ニ着ク用

意ヲナス

發進 「前へ」「斜ニ右(左)へ」ノ號令ヲ發進スル、其法ハ兩膝ヲ地ニ著ケタマ、左手ヲ上體ヲ起シ左足ヲ前ニ踏ミ出シテ起チツツ前進ス

第二回 同右 膝射ヨリ前進

發進ノ用意 前項ト同シ號令ヲ右脚ヲ起スノ用意ヲナス

發進 前項ト同シ號令ヲ上體ヲ上ケ右脚ヲ立テ右足ヲ前ニ踏ミ出シテ前進スル

速歩ヲ發進スル場合ニハ以上ノ動作ヲ「前へ」「斜ニ右(左)へ」ノ號令ヲ連續實施スルノテアル

第三回 行進ノ動作

勇往邁進ノ態度ノ充實ニ注意ス

敵ニ注意シアリヤ

歩度適當ナリヤ

以上ヲ駈歩、早駈、速歩ニテ行フ

執銃ニ在ツテモ進度ニ伴ヒ概ネ右ニ準シテ實施ス

四、停止

イ、目的精神

- 1、迅速ニ停止シ速ニ射撃ノ準備ヲ終ルコト
- 2、射撃ノ爲メ停止スルトキハ地形、地物ノ利用ハ射撃效力ヲ發揚スルヲ主眼トシ、身體ノ遮蔽ヲ第一トス

ロ、着眼

- 1、停止ハ迅速機敏ニシテ地形、地物ノ判斷適切ナルコト
- 2、射撃ノ爲メ停止ト射撃目的ヲ有セスシテ停止スルトキトノ區別ヲ充分明確ニ了解セシムルコト

ハ、指導要領

- 1、射撃ノ爲メ停止セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

「止」

青年ハ射撃ノ爲メ利用セントスル地形、地物ヲ臨時ニ選擇シ之ニ適應スル射撃姿勢ヲ取ル（伏

射、膝射、立射及其外ノ應用姿勢等）速ニ射撃準備ヲ完了ス、此際地形、地物ノ選擇利用ノ爲躊躇スルコトハ良シクナイ

- 2、射撃ノ目的ヲ有セスシテ停止セシムルニハ次ノ號令ヲ下ス

「伏セ」（折敷）

兵卒ハ敏活ニ地形、地物ヲ利用シテ伏臥（折敷）ヲ爲シ敵ノ目視ヲ避クルヲ必要トス

伏臥ニ際シ照星及銃口ニ注意スヘシ

ニ、教育要領

- 1、目的精神等ノ説明
- 2、教育ハ最初平坦地ニ於テ單ニ止ル動作ヲ教育シ、次テ各種ノ地形、地物ヲ應用シテ停止シ之ニ適スル射撃姿勢ヲ取り或ハ敵ノ目視ヲ避ク（射撃ノ目的ヲ有セスシテ止ルトキ）ル動作ニ及フモノトス

射撃ノ爲止ルトキト射撃ノ目的ヲ有セスシテ止ルトキトノ區別ヲ判然セシムル如ク教育ス

ヘシ

五、各種地形、地物ト行進法

イ、目的精神

敵ニ向テ直進スルヲ目的トス然レトモ各種ノ地形、地物ヲ利用シ或ハ障碍ヲ避クル爲一時各種ノ行進法ヲ應用スルニ在リ

ロ、着 眼

1、速ニ敵ニ近ツクコト、敵彈ノ損害ヲ減少スルコト、敵ノ目視ヲ避クルコトノ三條件ヲ基礎トシテ各種地形、地物ニ應スル行進法ヲ定ムヘキテアル

ハ、指導要領

1、直進スル場合

地形、地物ノ状態カ右左各殆ント等シキ場合及多少有利ナルモノアルモ隣兵ノ妨害トナルトキニアリテハ概ネ直進スヘキテアル

2、障碍物ノ通過

障碍物ハ之ヲ超エテ通過シ得ル場合ト、僅ニ方向ヲ偏移スレハ通過シ得ル場合ト全ク通過出来ヌ場合トカアル
第一ノ場合ハ跳越シ得ヘキ小堤、小壕、小樹等横過シ得ヘキ崖、廣キ壕、堤防等各種ノ地物

ニ就キ一通リ訓練スルヲ要スル

第二ノ場合ハ一時方向ヲ偏移シテ再ヒ元ノ方向ニ向フ動作ヲ訓練ス

3、身體ヲ屈シテ地形、地物ヲ巧ニ利用スル動作

堤防、小凹地、堆土等ヲ利用スヘキ場合少ナカラス

第二款 射撃ノ爲地物ノ利用

一、全般ニ就テ

イ、目的精神

銃ノ最大威力ヲ現スラ主トシ次ニ遮蔽ノ效用ヲ顧慮スルニアリ

ロ、着 眼

目的精神ノ越旨ニ基キ目標ノ景況ニ應シ諸種ノ地形、地物ニ就キ其價值ヲ判別シ、之ヲ利用シテ射撃スルコトニ熟セシムヘシ、何レノ場合ニ於テモ其射撃姿勢ヲシテ兵卒ノ體格ニ最モ能ク適應セシムルコトヲ緊要テアル

青年訓練ニアツテハ射撃迄ノコトハ要求カナイカ常ニ之ニ到ル道程テアルコトヲ忘レ或ハ無視

シタ教育ハ價值カナイ

二、地皺及土塊ノ利用

イ、目的精神

小ナルモノハ姿勢ノ堅確ニ利用シ、稍々大ナルモノハ併せて銃ヲ依托スルニ利用ス

ロ、著 眼

地皺及土塊ノ如キハ戰場到ル處ニ現在スルモノテアル少シク注意スレハ常ニ利用スヘキ物ヲ發見出來ル、校庭等ノ如キ平坦ナ地形ハ戰場ニハ殆ント無イノテアル

ハ、指導要領

1、地皺ノ利用

- (一) 伏射ニ於ケル左肘ノ位置、右肘ニ比シ稍々高イ方カヨイ尙ホ肘ヲ入レルニ適シタ小凹地カ或ハ前臂ヲ托スルニ適スル土地ガアレハ更ニヨロシイ
 - (二) 伏射ニ於ケル右肘ノ位置、右肘ヨリハ少シク低クシテ小凹地ナルヲ可トス
 - (三) 伏射ニ於ケル腹部ノ位置、腹部ヲ入レルニ適シタル僅ニ凹窪ノ土地ヲ可トス
- 2、土塊ノ利用 土塊ハ小ナレハ左前臂ヲ依托スルニ利用シ或ハ右肘ノ滑走ヲ防クヘシ、土塊稍々大ナレハ銃ノ依托ニ利用シ兼テ身體ヲ遮蔽ス

三、胸墻ノ據リ方

イ、目的精神

胸墻(散兵壕ノ射撃ノ際ニ據ル處)ニ據ル法ハ地物利用ノ基本教育ノ如キモノテアル

ロ、著 眼

右ノ如クテアルカラ體格ニ適應スル如ク綿密ニ教育スルカヨイ

ハ、指導要領

立射散兵壕ニ據ルニハ高サカ身長ニ適合スル場合ニハ身體ノ前部ヲ内斜面ニ接シ兩肘ヲ臂坐ニ置ク如クシ、少シ低過キルトキハ身體ノ左側ヲ内斜面ニ接シ左肘ヲ臂坐ニ置クコトカ多クノ者ノ體格ニ適合スル、然シ例外モアルカラ各人ニ就テ注意スヘキテアル、銃ハ胸墻ニ托シテ射撃スルモノテアル

四、樹木ノ後ロニ於ケル膝射、立射ノ利用

イ、目的精神

樹木ヲ利用シテ射撃效力ヲ發揚セントスルニ在ル

ロ、著 眼

樹木ハ敵彈ノ貫通容易ナルカラ銃ノ依托ト敵ノ目視ニ遮蔽スルコトハ出來ルカ敵彈ノ損害ヲ避ケルコトハ殆ント望マレナイ、故ニ樹木ノ利用ハ其樹ノ根元ヲ伏射ノ依托ニ利用出來レハ先ツ之ニ依リ膝射、立射ヲナケレハ利用出來ナイ時ニノミ利用スヘキモノテアル樹木カアレハ必ス其後ロテ膝射、立射ヲヤラナケレハナラヌト誤解サセテハナラナイ

ハ、指導要領

樹木ノ後ロテ立射若ハ膝ヲナスニハ左手ノ前臂ヲ樹木ニ托スルヲ通常トスル

五、膝射ノ應用姿勢

イ、目的精神

地形、地物ニ適應スル爲ニ用フルモノテアル

ロ、着 眼

右ノ趣旨ニ基キ教育スヘキテアル之カ爲正規ノ姿勢ヲ崩シテハナラナイ之ヲ實施スルニ當ツテモ之ニ適スル土地ヲ行フカヨロシイ

ハ、指導要領

1、右足尖ヲ立テ臀ヲ踵ノ上ニ載セ或ハ臀ヲ右足(右踵)ヨリ上ケル姿勢之ハ前ニ高イ物カアツ

テ正規ノ姿勢テハ照準ノ出來ナイトキニ用フル姿勢テアル

2、兩膝ヲ開キテ地ニ着ケタル姿勢

之ハ(1)ノ場合テ而モ地形カ敵ノ方ニ少シ上ツテ居ル場合ニ用ヒルヲ便トスル立射ノ姿勢ヲ膝テ取ツタ様ナ形テアル

3、兩脚ヲ前ニ出シ或ハ兩膝ヲ立テ兩肘ヲ其上ニ置キ臀ヲ地ニ着ケル姿勢
地形カ前ニ下ル時ニ應用スヘキモノテアル

4、右ノ各種ノ場合ノ中テ照準高ノ關係テ(1)ノ初メノ姿勢ノ如キハ左手ノ掌ヲ用心鐵ニ接シテ内方ニ向ケ或ハ姿勢ヲ高クシ脚ヲ前ニ出ス等テ左肘ヲ膝ノ上ニ置カレナイトキハ立射ノ要領ニ據ルノテアル

六、敵ニ對シ左右ニ傾斜セル土地ノ伏射

1、右ニ傾斜セル場合

少シク角度ヲ小ニシ右肘ヲ内側ニ寄せ右肘ヲ曲クルヲ可トス

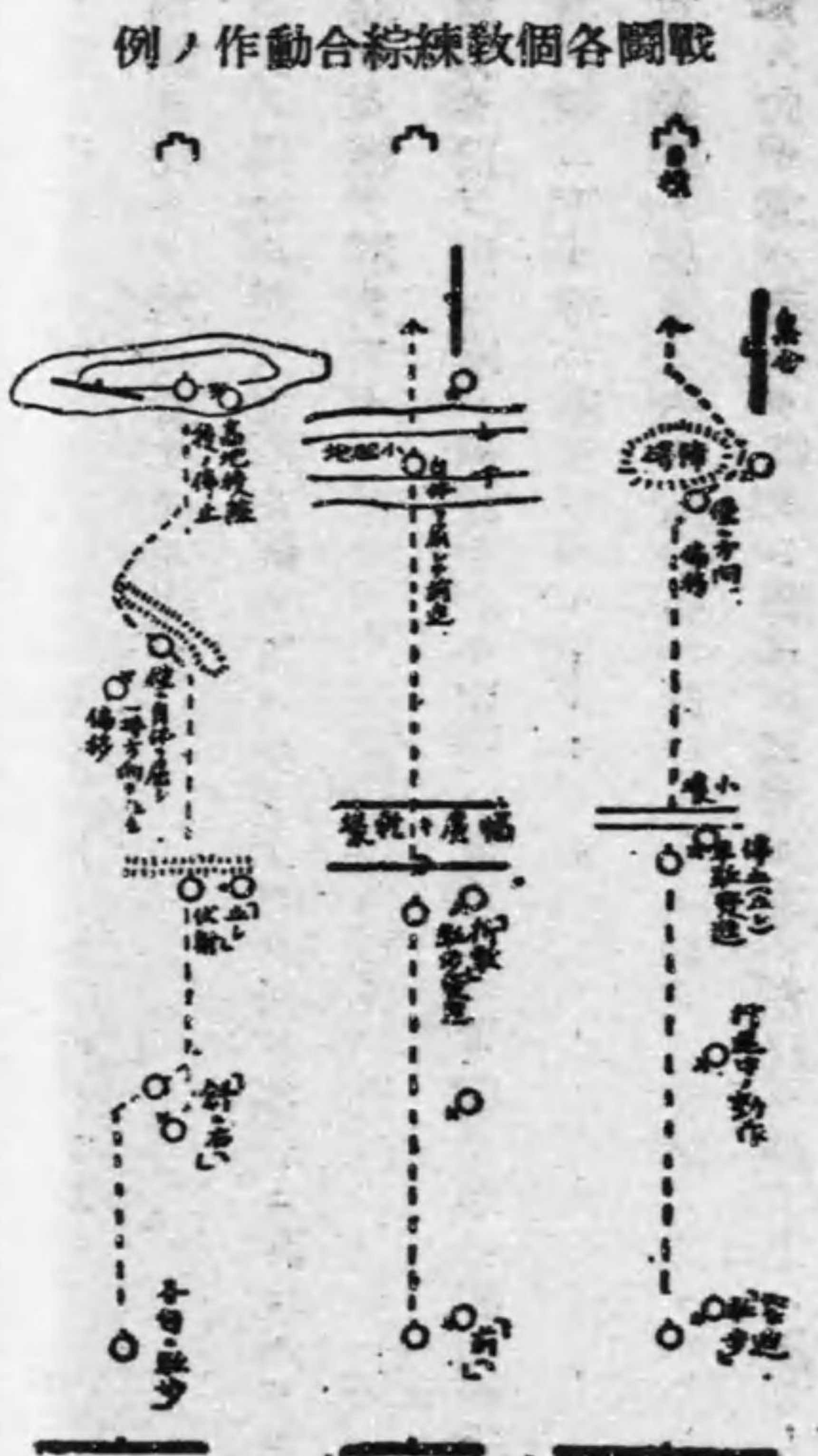
2、左ニ傾斜セル場合

少シク角度ヲ大ニシ右肘ヲ開キ要スレハ左脚ヲ曲ク

第三款 戰闘各個教練ノ綜合動作

戰闘ノ各個教練ハ狀況特ニ地形、地物ニ依ツテ多種多樣ノ應用、獨斷ノ動作カ多イノヲ總テノ場合ニ適合スル如ク細部ニ互ツテ豫メ教育スルコトハ中々困難テアルカラ以上記述シタ位ノ所テ土地ノ狀況、時間ノ多少等ニ依テ取捨シテ基礎的ノ教育ヲスレハヨイト思フ執銃ニ依ル本教練ノ如キハ銃カ豐富ニナケレハ行フノ必要ハナイテアラウ

左ニ綜合動作ヲ行フ數例ヲ圖示シテ參考トナス



第五節 夜間ノ動作

一、夜間動作ノ必要ナル理由

航空機ノ發達ニ依リ敵ノ眼ヲ避ケテ行進スルノ必要益々増加シ火器ノ威力ノ増大ハ損害ヲ避ケテ夜間敵ニ近接スルノ必要カ増大シタノテアル、殊ニ我國情ト國民性トハ夜間ノ戰闘ニ依テ戰捷ヲ得ナケレハナラヌ場合カ少クナイノテアル

二、一般ノ教育指導要領

夜間ノ動作ハ最初ハ熟レタ土地テ晝間、薄暮又ハ月明ノ夜等ニ於テ教育シ逐次暗夜、不熟ノ土地テ行フノカヨイ、而シテ各種ノ土地テ行フカヨロシイ

三、速ニ敵ヲ發見シ其兵力、行動ヲ判定スル訓練

イ、目標精神

注意心ヲ養成シ速ニ對敵準備ヲ敵ニ先シテ完成センカ爲ナリ

ロ、著 眼

視力ノ養成、徽候ノ判斷ト相俟ツテ教育スルヲ要ス

ハ、指導要領

六〇

- 1、夜間野外ニ於テ假想シタル敵方ニ面シテ集合シ豫メ助教、助手、右年次生等ヲ使用シテ前方ニ出シアル假設敵ヲシテ記號或ハ約束ニ依リ諸種ノ行動ヲナサシム
 - 2、發見シタル者ハ手ヲ揚ケシム
 - 3、某ヲ指命シテ兵力行動等判斷シタル事ヲ答ヘシム
 - 4、逐次、斥候、傳令、部隊等ヲ現ハシ判斷セシム
- 四、晝夜ニ於ケル地形、地物ノ價值ノ變化及距離目測ニ及ホス影響
他ノ夜間演習ノ序、或ハ往復路、露營ノトキ等ニ教育スヘシ

五、行進方向ノ維持

方向ノ維持ハ頗ル困難ナル左ニ簡易ニ實施シ得ル二三ノ例ヲ述フ

- 1、延長物體ニ依ル法
堤防、道路、鐵道、河川、地類界等ノ行進方向ヲ延長スルトキハ之ニ基準ヲ取ツテ前進スル
- 2、目標ニ依ル法
晝間目標ヲ認識シ置キ其記憶ニ依リ某地點迄前進シ目標ヲ發見セハ之ニ向ツテ前進ス

夜間テモ遠方カラ見エルヤウナ高イ物(高地、大樹、煙突等)カ行進方向ニ存在スレハ之ニ向ツテ前進スル

前方ニ目標カ無ケレハ後方ニ目標ヲ選ビ行進中時々中間目標ヲ自分ト目標ノ間ニ選ヒ其延長方向ニ行進スル

1、風向ニ依ル法

平坦地ナレハ風ノ吹ク方向モ行進方向ヲ定メル爲ノ補助トナルモノテアル、例ヘハ行進方向ニ對シ右側面カラ風カ吹イテ居ルナラハ常ニ風ヲ右側面カラ受ケル如クシテ前進スルトキハ大體ニ於テ望ム方向ニ前進カ出來ルモノテアル

4、據ルヘキモノナキトキ

磁石(夜光磁石ヲ可トス)ニ依リ方向ヲ定メツツ前進ス
薄暮、綱、繩、或ハ認識シ易キ物體ヲ行進方向ニ標示シ之ヲ便リニ前進スル
晝間前地ヲ認識シ置キ其記憶ニ依テ前進スル

六、靜肅行進

イ、準備

六一

夜間ノ行動ノ爲ニハ武裝ヲ堅確ニシ、音ヲ發シ易イ物ニハ特ニ注意シ覆ヲ施ス等ノ方法ヲ取ル
ロ、歩 法

要領ハ俗ニ「拔キ足差シ足」ト稱スル歩法ヲ各種ノ地形ニ依テ左ノ要領ニ依テ行進スル

1、堅キ土地

平坦地ニ在ツテハ脚ヲ普通ニ上ケ足尖ヨリ靜カニ踏ミ着ケ上リ阪ハ足尖カラ踏ミ着ケル

下リ阪ハ踵ヨリ靜ニ踏ミ着ケル

2、草 地

短イ草地ハ足尖ヨリ先ニ踏ミ着ケル

長イ草地ハ脚ヲ高ク上ケ草ヲ踏ミ倒スヤウニ踵カラ踏ミ着ケル

3、軟イ土地

足尖ヨリ踏ミ着ケ多少速度ヲ増シテモヨイ

4、砂利交リノ土地

足尖ヨリ踏ミ着ケ靜ニ行進スル

ハ、教育要領

1、先ツ晝間ニ於テ要領ヲ説明スル

2、夜間平易ナ土地ニ於テ行フ

3、漸次不齊地ニ於テ行フ

七、前進、停止ノ動作

イ、前 進

前進ヲ起スニハ靜ニ立チ、銃ヲ靜ニ擔ヒ、劍鞘ヲ握ツテ發進ス

ロ、停止ノ動作

停止セハ靜ニ銃ヲ下ロシ情況ニ依リ伏セ或ハ折敷ヲナス

ハ、教育要領

靜肅行進ニ少シ熱シタルトキ之ト連繫シテ教育スルヲ適當トス

第六節 記號ニ依ル動作

一、記號ハ之ヲ以テ號令及命令並報告ニ代ヘ又一般ニ連絡ノ爲記號ヲ
用フルコトカ多イ

記號ハ左ノ如ク定メラレテ居ル必要ニ應シ之ヲ繰返シ行フモノテアル

一 前進 片手ヲ高ク舉ケ次テ之ヲ其進ムヘキ方向ニ伸ハス

停止 片手ヲ高ク舉ケ直ニ下ロス

駈歩 前進ノ記號ヲ迅速ニ數回連續ス

散開 兩手ヲ左右ニ肩ノ高サニ舉ク

武器ヲ以テ行フ場合モ之ニ準スル

此外必要ニ應シ臨時定ムルモノテアル

二、教育要領

號令テ動作スヘキコトヲ記號ニ依テ行フ丈テ要ハ記號ノ記憶テアル

第三章 部隊教練ノ指導

第一節 部隊教練ノ目的

部隊教練ノ目的ハ衆心一致恰モ一體ノ如キ行動ニ慣レ以テ綱紀ヲ守リ秩序ヲ重シ協同ヲ尙フノ習慣ヲ養成スルニアル

第二節 密集教練(分隊小隊)ノ指導

第一款 集合解散

目的

機敏快活ノ性格ヲ練リ教練間ニ於ケル心氣轉換ヲ圖リ部隊ノ團結力ヲ鞏固ナラシム

着眼

イハ示サレタル隊形ニ迅速ニ整頓シ得ルコト

ロ、喧嘩ナラサルコト

ハ、指揮官ニ注意シ自己ノ位置ヲ判定スルコト

指導要領

イ、所要ノ説明ヲナス

ロ、初メ易ニ漸次繁ニ行フ

一列ヨリ二列

横隊ヨリ側面縦隊

間隔ヲ漸次擴大ス

初メノ隊形ト次ノ隊形トノ關係ハ混雜セサル如ク行フ

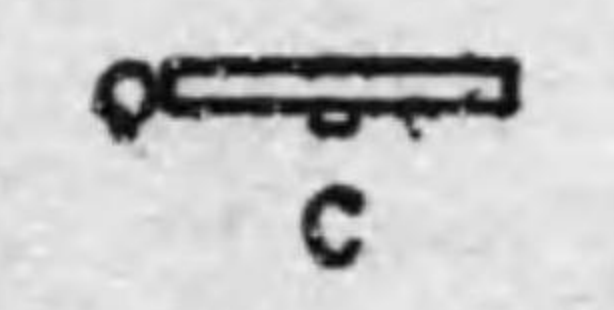
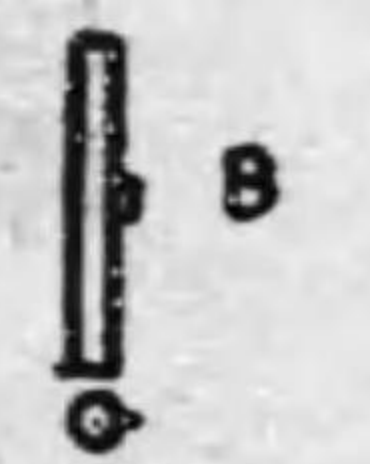
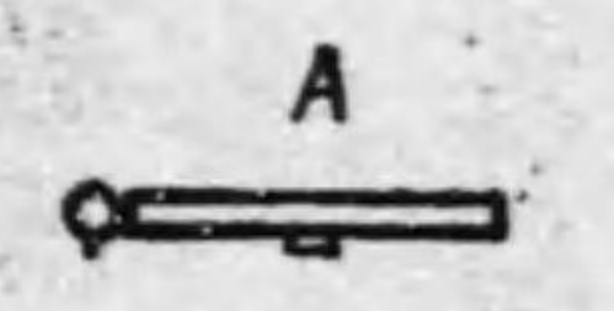
ハ、解散後直チニ集合セシ

ムル時ハ豫メ隊形ヲ示シ

列中ノ者ヲシテ素リニ動

搖セシメサルコト

ニ、助手ヲ右翼ニ置キ集合位置ヲ規正ス



等

ホ、課目變換等ノ時期ヲ利用シ時々行フ

第二款 整頓

目的

規律、秩序ノ觀念ヲ養フ

着眼

イ、姿勢ヲ變セサルコト

ロ、整頓線ト兩肩ノ線一致スルコト

ハ、基準ノ整頓線ニ準フコト、責任觀念ヲ養成ス

ニ、正シク身長ノ配列ヲ行ヒ前後列ノ重ナリニ注意ス

指導要領

イ、要領ヲ説明シ模範ヲ示ス

ロ、整頓翼ニ助手ヲ置キ之ニ準ハシム

ハ、初期ニアリテハ一、二人宛各個ニ教育シ漸次増員ス

ニ、整頓ハ常ニ整正ニ行ハシメ不齊ヲ許サス

ホ、兩翼ニ嚮導ヲ置クハ整頓ノ要領ヲ會得セル後行フ

ヲ可トス

ヘ、初メ一列横隊次ニ二列横隊ニ及ホシ

初メ四、五名ヨリ逐次分隊、小隊ニ及ホス



第三款
 右向……停止間、行進間
 左向……
 半右(左)向
 後向

目的

協同、團結、規律、節制ノ精神ヲ養フ

着眼

イ、衆心一致一體ノ如ク一齊ニ動作セシム

ロ、番號ト伍ノ重復分解ニ注意ス

ハ、各人ノ動作ヲ嚴正ニス

ニ、側面縦隊ノ間隔距離ニ注意ス

ホ、押伍、缺伍、翼分隊長ノ動作

指導要領

イ、目的精神及動作ニ就キ所要ノ説明ヲナシ模範ヲ示ス

ロ、停止間ヨリ初メ行進間ノ動作ニ及ホス

正面隊形ノ右向ヨリ初メ後左向、背面向ニ及ホス

ハ、最初ハ三、四伍ノ分隊ヨリ初メ動作ノ齊一ヲ期スルニ至リ逐次人員ヲ增加ス

ニ、一動作毎ニ正否ヲ判定シ其實施ヲ獎勵ス

第四款
 横隊ノ方向變換(停止間、行進間)

目的

前ニ同シ

着眼

イ、軸翼ノ者又ハ翼分隊長ハ直角ニ或ハ示サレタル目標方向ニ面ス其他ハ半右(左)向ヲナシ捷路

ヲ經テ逐次新線ニ至ル

ロ、小角度ノ時々目標ヲ示シタル後號令ヲ下シ其他ハ前ニ同シ

指導要領

- ハ、列中ノ者新線ニ到リタル時逐次整頓ス
- イ、直角方向變換ノ要領ヲ説明ス
- ロ、單獨又ハ一伍ツツ其動作ヲ行ハシメ逐次人員ヲ増加ス
- ハ、教育順序ニ停止間ノ直角——小角度——駢歩ノ方向變換ヲ行ヒタル後
- 行進間ノ動作ニ移ル
- ニ、指導者ハ正面ノ説明ニ便ナル位置
- 或ハ一側ノ指導ニ便ナル地ニ位置ス



第五款 側面縱隊ノ方向變換 (停止間 行進間)

目的

前二同シ

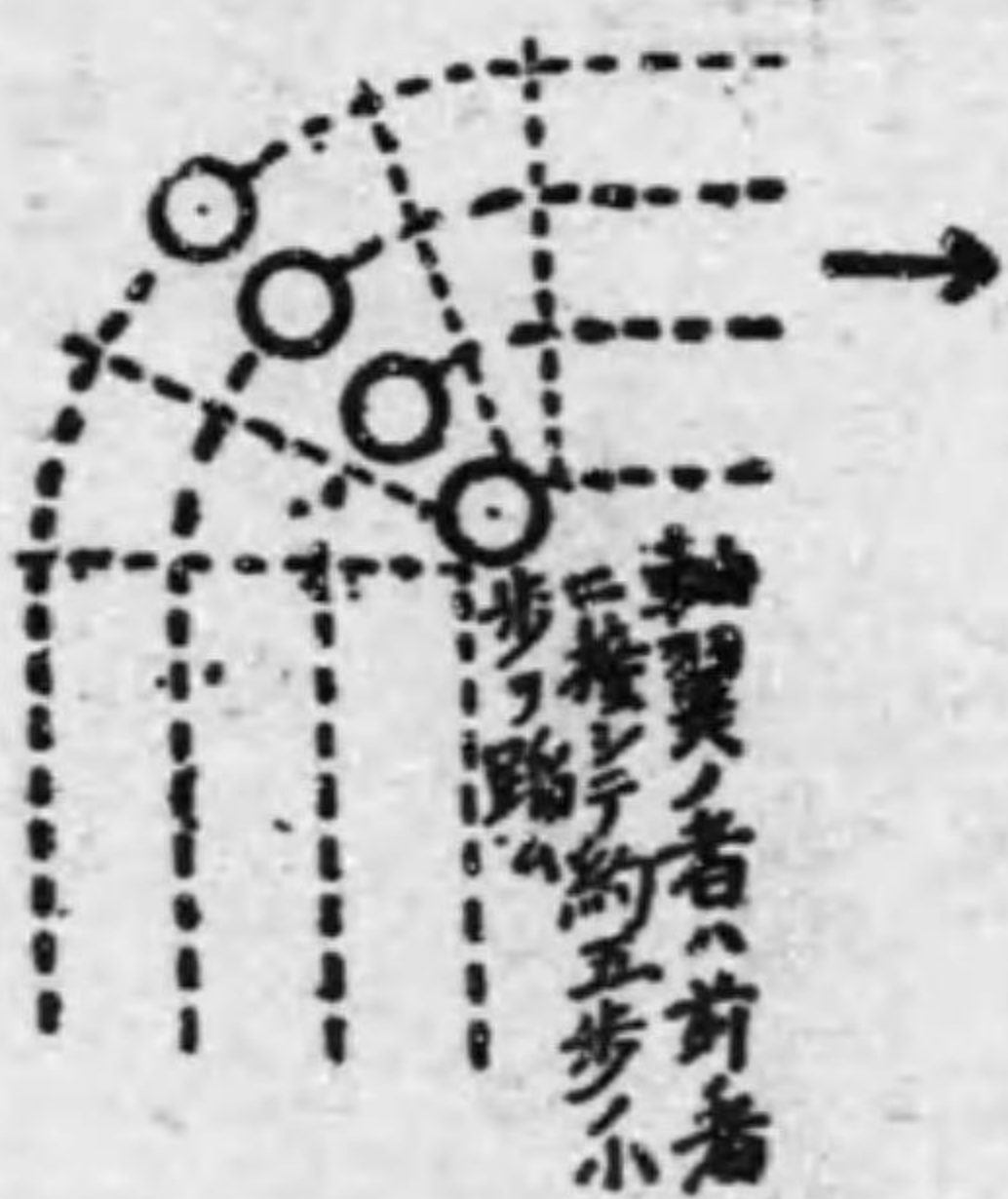
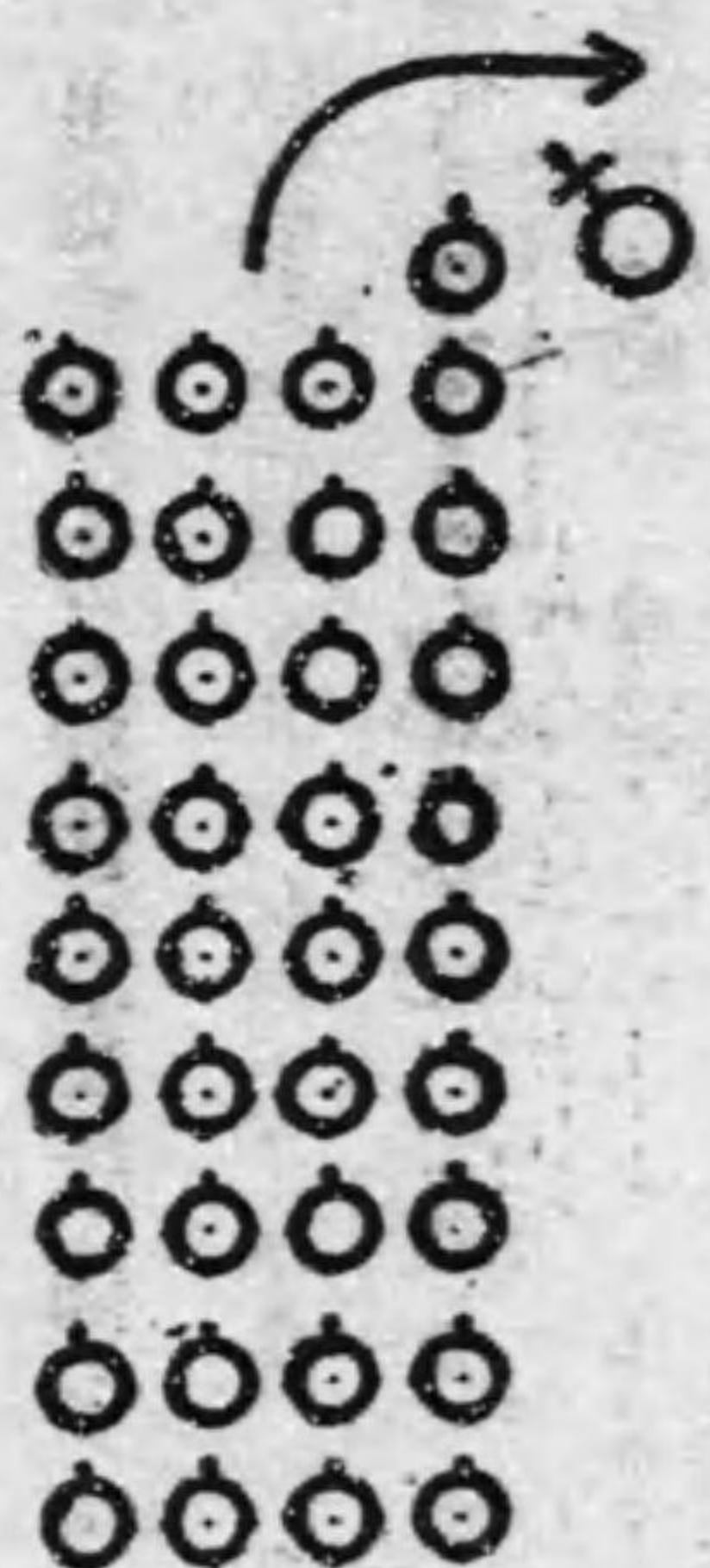
着眼

- イ、變換軸ニアル者ハ五、六歩、小歩ヲ踏ミ前ノ者ノ後ニ從ヒ一組ノ變換終リタル時直行ス

- ロ、他ノ三名ハ軸翼ニ從ヒ逐次(小歩ヲ踏ミ)新方向ニ轉ス
- ハ、先頭基準(翼分隊長)ノ方向、角度正シキコト

指導要領

- イ、説明、模範ハ前二同シ
- ロ、停止間ノ動作ヲ先ツ演練シ各組ノ入換ヲナシ各人ヲシテ各列ノ動作ヲ習得セシム
- ハ、四人ノ一組ニ棒ヲ保持セシメ轉廻セシムル時ハ其動作容易ナリ
- ニ、外翼ハ多ク大幅ニナリ易キヲ以テ注意ヲ要ス



第六款 隊形變換左(右)並進メ

目的

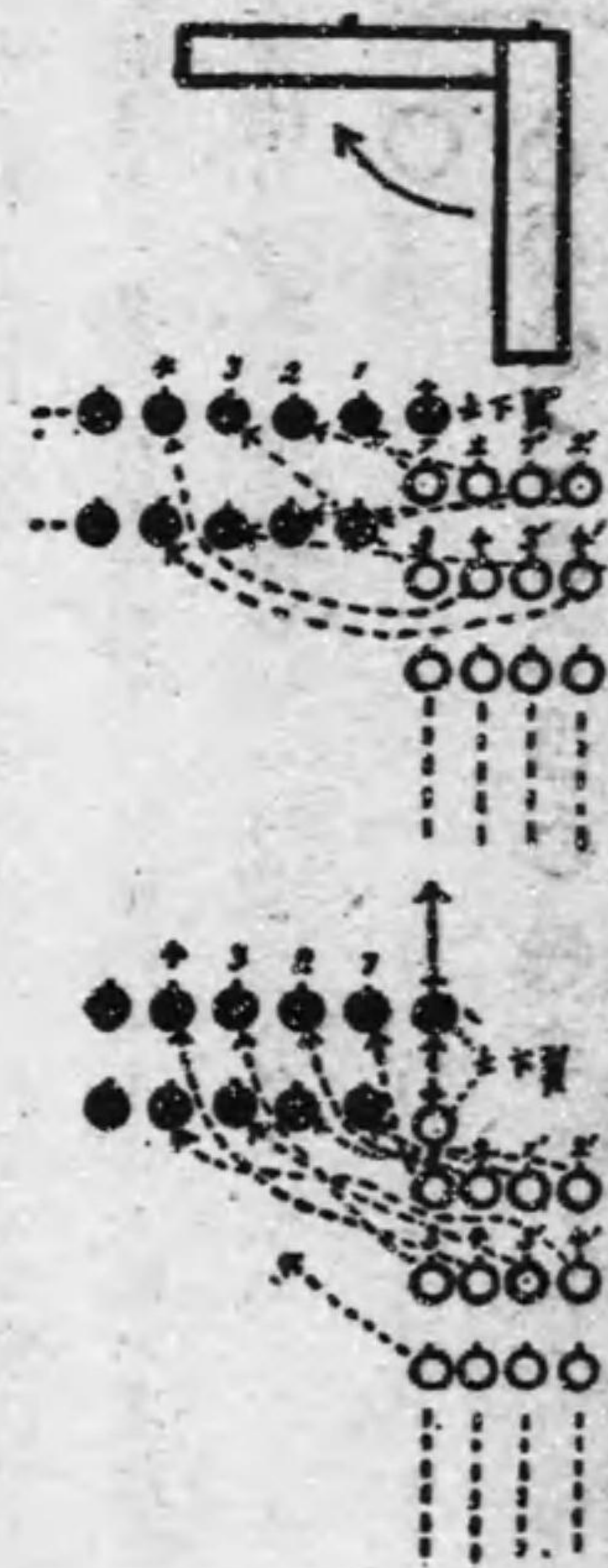
前ニ同シ

着眼

イ、停止間ニ於テ一組ツツ分解實施特ニ伍ハ行進中ニ分解スルコトニ注意ス
ロ、其他横隊ノ方向變換ノ動作ニ同シ

停止間

行進間



指導要領

イ、説明、模範ハ前ニ同シ
ロ、先ツ二列ヨリ初メ後四列ニテ行フ

目的

勇往邁進ノ氣象ヲ練リ潤達敢爲ノ性ト協同團結ノ精神ヲ養成ス

着眼

第七款 横隊ノ行進(速歩)

イ、密集教練ノ目的達成ニ最モ重要ナル課目ナルヲ以テ訓練上細密ノ注意ヲ要ス
ロ、行進間守ルヘキ動作

歩長及歩度ノ齊一ト間隔及距離ノ保持ニ注意スルコト

常ニ頭ヲ正シク保チ嚮導ノ方ニ整頓スル爲頭ヲ廻スコトナク整頓スヘキ方ニ在ル隣兵竝前方ノ者ニ注意スルコト

整頓翼ヨリ押シ來ルトキハ之ニ從ヒ反對ノ方ヨリ押シ來ルトキハ之ヲ支フルコト

整頓線ヨリ進ミ或ハ後レ又ハ間隔ノ大小ヲ生シタルトキハ漸次ニ之ヲ恢復ス

障碍物ニ遭遇シ行進シ能ハサルトキハ直ニ左右ニ避クルコトナク足踏ヲナシ隣兵等ニ妨ナキニ

至リ速ニ舊位置ニ復歸スヘシ、足踏ヲナスニハ進ムコトナク少シク膝ヲ屈メ交々兩足ヲ踏ミ若

クテ調子ヲ取ルモノトス

若シ歩ノ速ヒタルトキハ踏替ヲナシ速ニ整頓翼ノ方ニアル隣ノ者ニ準フヘシ、踏替ヲナスニハ

後ノ足ヲ前ノ足ニ踏ミ着ケ前ノ足ヨリ行進ス、蹶歩ニ在ツテハ片足ヲ二步行進スル、足踏間ハ

蹶歩間ノ方法ニ準スル

ハ、歩法ハ活氣ヲ呈シ姿勢ヲ變セサルコト

指導要領

- イ、分隊教練ニ在リテハ整頓ノ如ク助手ヲ右翼ニ置クヲ可トス
- ロ、先ツ一列横隊ヨリ初メニ列横隊ニテ行フヲ可トス
- ハ、目標ヲ近ク選定シ漸次遠ク定ム
- ニ、行進距離ハ要領ヲ知ルニ從ヒ延伸ス
- ホ、行進間ノ動作ヲ併セ行ヒ漸次熟達セシム
- ヘ、指揮官ハ可成隊ノ正面前ニアリテ指導スルヲ可トス

第八款 側面縦隊ノ行進 速歩 近途 歩歩

目的

速歩行進ニ同シ

着眼

- イ、横隊ノ行進ニ準ス
- ロ、常ニ伍頭ニ準フコト

- ハ、常ニ前方ニ正シク重ナルコト
- ニ、列ヲ開カサルコト

指導要領

- イ、側面縦隊ノ成立ニ就テ説明ス
- ロ、指揮官ハ全般ノ監視容易ナル側方前ニ位置ス
- ハ、行進間ノ諸動作ト連繫教育シ其配合ハ漸進的ナラシム
- ニ、行進動作ハ應用ノ範圍最モ廣キヲ以テ各種ノ機會ニ訓練ヲ實施スルヲ要ス

第九款 射撃 射撃姿勢 裝填抽出

目的

各個ノ動作ヲ主トシ沈着シテ敏活ニ動作スルニアリ

着眼

- イ、示サレタル方向、目標、姿勢、並照尺等ニ對シ正確ナルヤ否ヤ
- ロ、部隊正面ハ目標ニ正對シアルヤ否ヤ

- ハ、射撃軍紀ハ正確ナルヤ否ヤ
- ニ、前後列ノ關係位置良好ナルヤ否ヤ
- ホ、射撃動作特ニ裝填抽出確實ナルヤ
- ヘ、飛行機ニ對スル射法正確ナルヤ

指導要領

- イ、部隊トシテ射撃動作ヲ説明シ模範ヲ示シタル後實施ス
- ロ、伏射ハ一列ニテ行フ若シ前列ノミ行ハシムルトキハ豫メ二歩前進セシム(後列ハ伏姿ヲ取ラシム)
- ハ、可成標的ヲ設置シテ行フ
- ニ、極度ニ疲勞シ沈着ヲ缺ク時ハ沈靜ヲ待テ行フ然レトモ漸次疲勞時ノ射撃ニ慣レシム
- ホ、二種ノ照尺ヲ用フル射撃及飛行機ノ射撃ハ其要領ヲ教育ス

第十款 突 撃

目 的

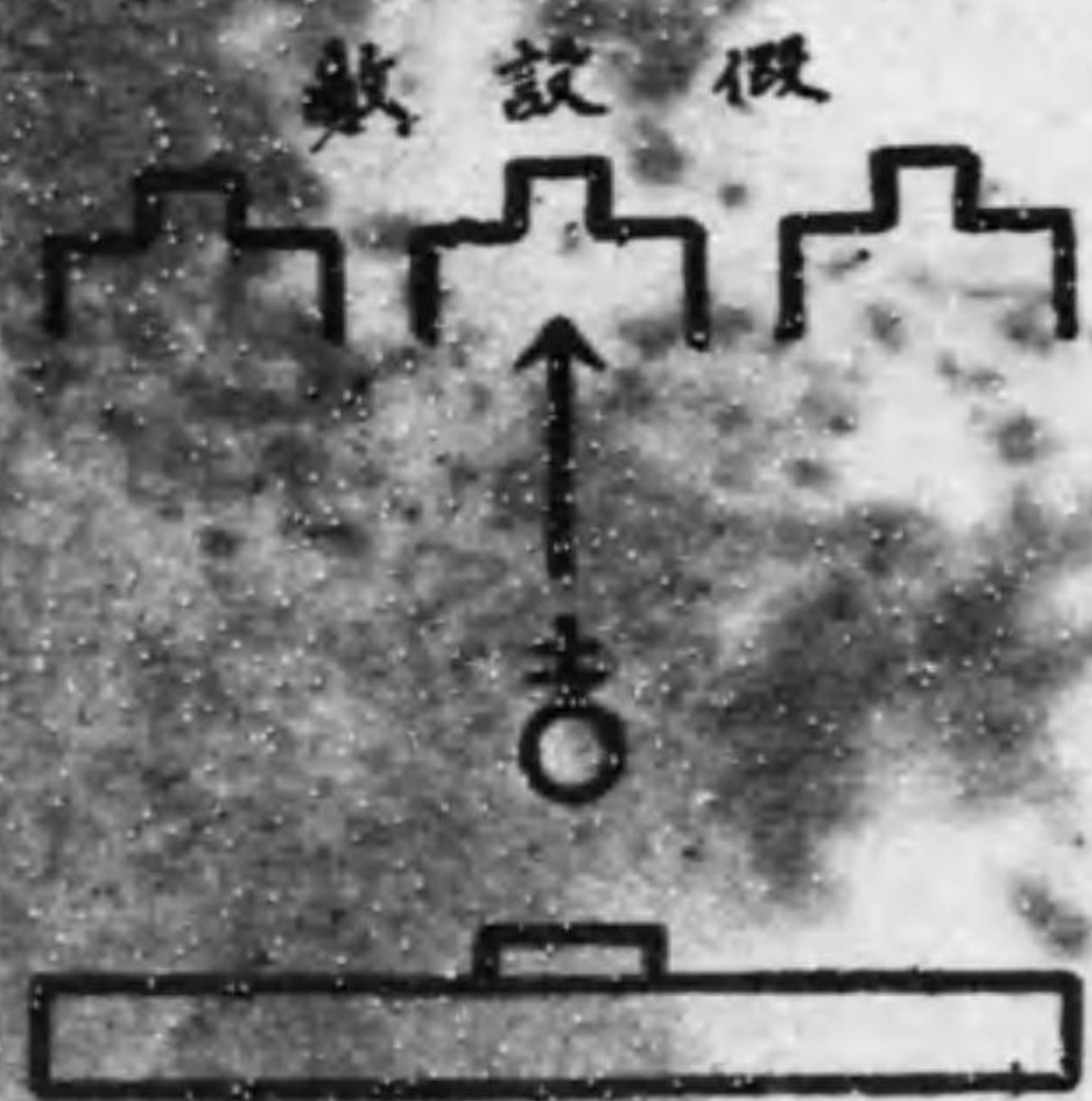
部隊トシテノ鞏固ナル團結ヲ發揮セシム

着 眼

- イ、氣勢ノ充溢シアルコト
- ロ、突込メノ號令ヲ下ス時機ト位置ニ注意スルコト
- ハ、指揮官自ラ率先氣勢ヲ充溢シテ範ヲ示ス
- ニ、喊聲ノ發聲法ハ最モ勇壯ニシテ且連續的ナルコト
- ホ、銃ヲ構フル時機ヲ失セサルコト

指導要領

- イ、模範ヲ示シ説明ヲ行フ
- ロ、假設敵ヲ設ク
- ハ、突込ハ約四、五十米銃ヲ構フルハ約二、三十米突
- ニ、對抗演習ニ於テハ對抗軍ノ約二十米前ニ於テ停止シ標的ニ對シテハ突入スル動作トヲ區別シテ教育ス
- ホ、隊形ハ初メ一列横隊ヲ以テシ後ニ列横隊及側面縱隊ヲ突撃ヲ演練ス



ハ、最初ノ時機若ハ銃ヲ所持セサル時ハ、徒手ニテ行フ但シ、所持スル銃ヲ其姿勢ノ適當ニ演習シ、演習ノ時ハ、銃劍術構備及刺突動作ヲ演練ス

第十一款 又銃及解銃

目的

休憩又ハ作業等ヲナス時銃ヲ手ヨリ離ス時ニ行フモノニテ、銃ヲ倉庫スル時ハ、其姿勢ニ於ケル唯一ノ方法ナリ

着眼

- イ、前後列ノ者ノ床尾飯ノ出シ方其位置ニ注意ス
- ロ、又銃ハ確實ナラシメ顛倒セシメサルコト
- ハ、解ケ銃ニ於ケル四人ノ協同動作ニ注意スルコト
- ニ、着劍又銃ニ於テハ着劍ヲ確實ナラシムルコト

指導要領

- イ、所要ノ説明ト模範説明ヲナス
- ロ、初メ分解教育ヲ行ヒ後四人同時ニ行ヒ又其位置ヲ變換シテ各位置ニ於ケル動作ヲ演練ス

ハ、其要領ヲ會得セハ特ニ演練スルコトナク休憩時等ヲ利用シテ實施ス

第十二款 敬

禮 止 間
行 進 間
閱 兵 分 列

目的

禮節ヲ尙ヒ長上ヲ敬ヒ團結ノ基礎ヲ鞏固ナラシメ以テ訓練ノ精華ヲ發揚スルニアリ

着眼

- イ、號令ニ依リ頭ノ右、左ハ齊一ナルコト
- ロ、頭ノ向ケ方ト眼ノ方向ハ一致スルコト
- ハ、姿勢、態度、威容完備シアルコト
- ニ、頭右(左)ノ爲行進方向ヲ偏移セサルコト
- ホ、執銃ノ場合ニ在リテハ棒銃立銃ノ節度確實ナルコト

指導要領

- イ、停止間ニ於テ頭右(左)ノ動作及肩迎目送ヲ演練シ、進間ニ於テ頭右(左)ノ動作及肩迎目送ヲ演練ス
- ロ、隊形ハ初メ横隊ニ於テ實施スルヲ便トシ、後ハ縦隊ニ於テ實施スルヲ便トシ、後ハ縦隊ニ於テ實施スルヲ便トス

ハ、演習ノ初メ終リニ於テ常ニ實施演練スルヲ可トス
ニ、人員ヲ報告スル場合ハ總人員「指導員以下何名」ト稱スルヲ可トス

第三節 疎開教練ノ指導

第一款 疎開教練ノ目的(小隊分隊)

志氣ヲ旺盛ニシ自主、自省、協同、責任觀念ヲ高潮ニ判斷活用ノ能力ヲ練リ、上ノ意圖ヲ付シ各自ノ任務ヲ遂行シテ團隊トシテノ任務ヲ達成スルノ習性ヲ作り且身體ヲ強健ナラシムルニアル

第二款 分隊疎開教練ノ指導

一、横隊若クハ側面縦隊ヨリ一列側面縦隊ノ作り方

着 眼

イ、一列側面縦隊ハ前方ニ進ミ隊形ヲ作ル

ロ、號令ハ分散ニ在リテハ「開ケ」或ハ「一列側面縦隊作レ」ノ何レヲ用フルモ可ナリ但シ其精神ニ於テ最初各個ノ動作ヲ演練スル時ハ「一列側面縦隊作レ」ノ號令ヲ用ヒ小隊内ノ一分隊トシテ各

種ノ分散法ヲ演練スル時ハ「開ケ」ノ號令ヲ用フルカヨイテアラウ

ハ、一列側面縦隊トナリタル時ハ分隊長ハ直チニ番號ヲツケサセル

ニ、縦隊ハ分隊長自ラ誘導スルヲ本則トスルカ教育上助手ヲシテ誘導セシムルコトアリ

ホ、列中ノ者ハ號令ト同時ニ分隊長ノ直後ニ續行シ特ニ分隊長ニ注意スルヲ要ス

ヘ、心身ヲ敏活ニ働カシメ絶エス敵方ニ注意ス

指導要領

イ、最初停止間ノ立姿ヨリ速歩ノ速度ニテ實施ス

ロ、最初小隊内ノ基準分隊トシテ行フ

ハ、逐次基準分隊以外ノ分隊トシテ實施シ又駈歩ヲ以テ隊形ヲ作ル

ニ、最初ノ隊形ハ横隊ヨリ次テ側面縦隊ヨリ行ヒ姿勢ハ立姿ヨリ

フヲ可トス

ホ、地形ハ最初平地ヲ選ミ次テ不齊地ニ於テ演練ス

ヘ、基準以外ノ分隊ノ動作ヲ行フ時ハ他ノ分隊ハ

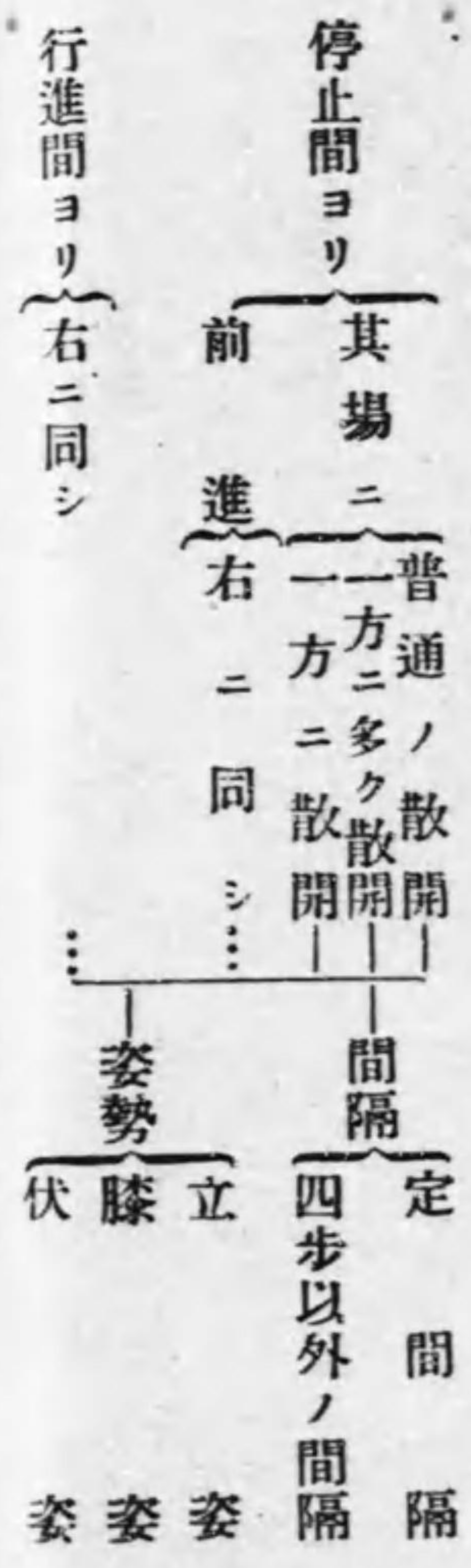
二、一列側面縦隊ノ運動

- イ、各種ノ散開ニ於テ順序正シク迅速靜止
- ロ、分隊長ノ意圖ニ即ク所望ノ位置ニ散開シ得
- ハ、散兵ノ間隔、左右ノ連繫適當ナル事否ヤ
- ニ、散開ノ爲ノ基準

- 一、列側面縱隊ニアリテハ先頭ノ者
- 二、列側面縱隊ニナリテハ先頭伍ノ右ノ者
- 横隊ニアリテハ分隊長ヨリ基準ヲ示ス
- ホ、散開後ノ前進ニハ分隊長ハ中央ニ基準ヲ示ス

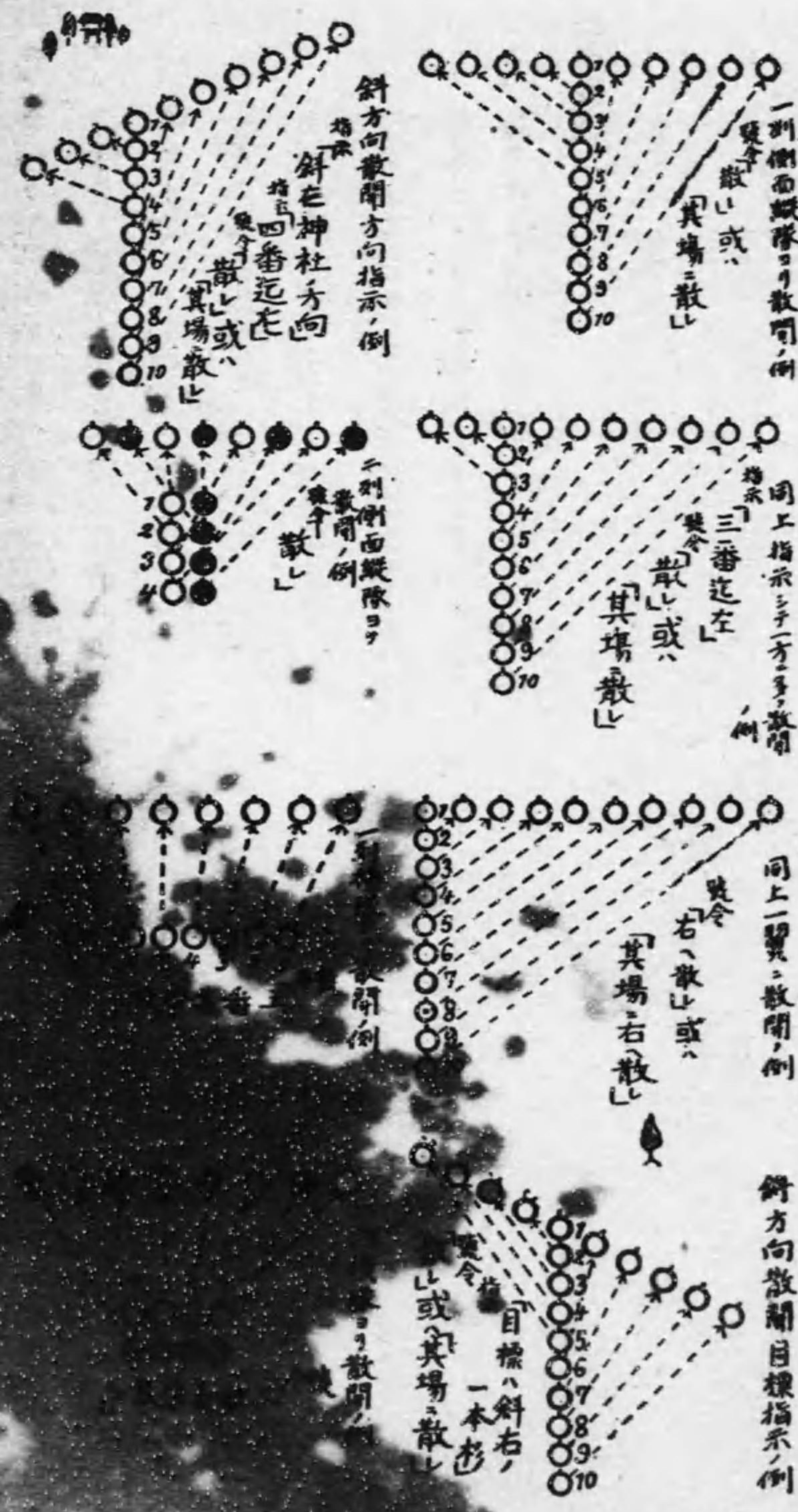
指導要領

イ、模範ヲ示シ説明ス其實施順序ハ概ネ次ノ如クスルヲ可トス



最初ハ停止間ヨリ其場ニ兩翼平均——定間隔——立姿ニ於テ行フ如クス
隊形ハ一列側面縱隊——二列側面縱隊——横隊ノ順序トス

各種散開法ノ例



ロ、斜方向ノ散開法

指示「目標斜右ノ一軒屋」

號令「散レ」

ハ、四歩以外ノ間隔ニ散開セシムルトキ

指示「前ノ二本松」

號令「其場ニ二歩ニ散レ」

ニ、一方ニ多ク他方ニ少ク散開セシムルトキ

指示「目標斜右ノ一本松」(斜左神社ノ方向)

號令「四番迄左ヘ散レ」

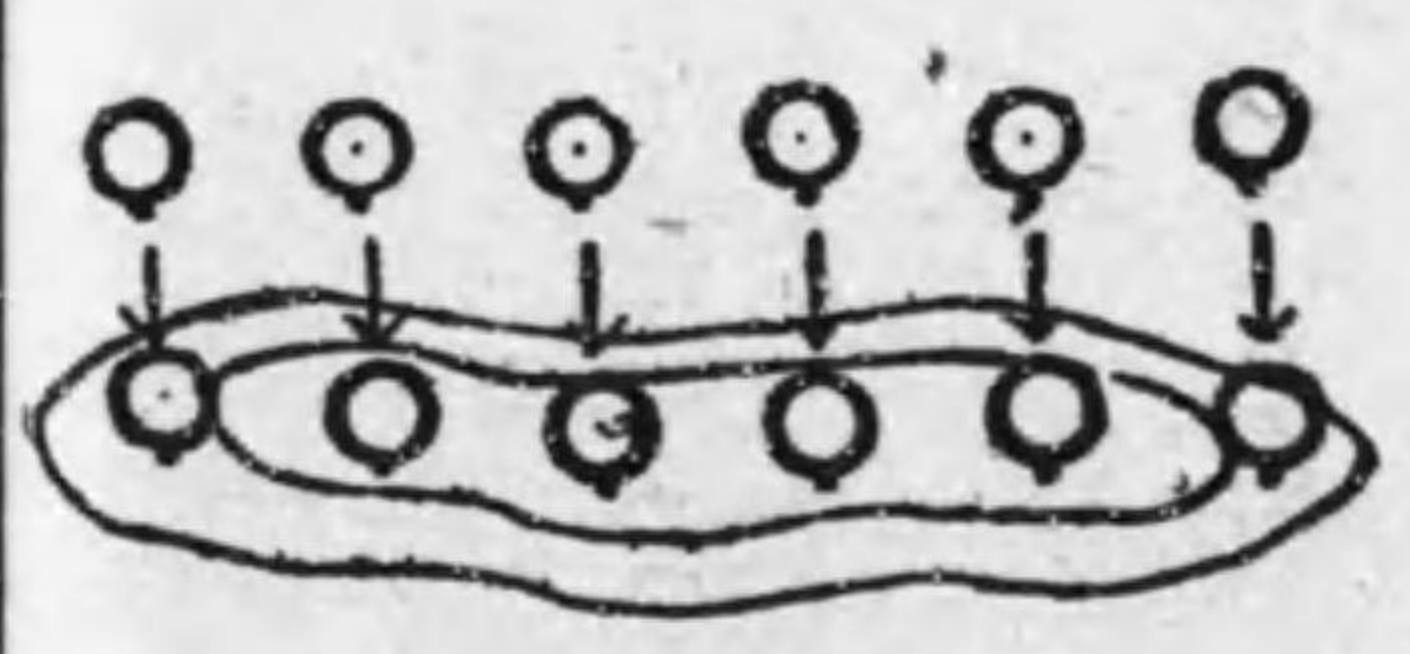
ホ、最初ハ平坦開豁地ニ於テ實施シ逐次困難ナル錯雜地ニ於テ行フ

高地

稜線ノ後方ニ於ケル散開ハ後方ニ於テ行フ

凹地ニ於ケル散開ハ低地ニ於テ行フ

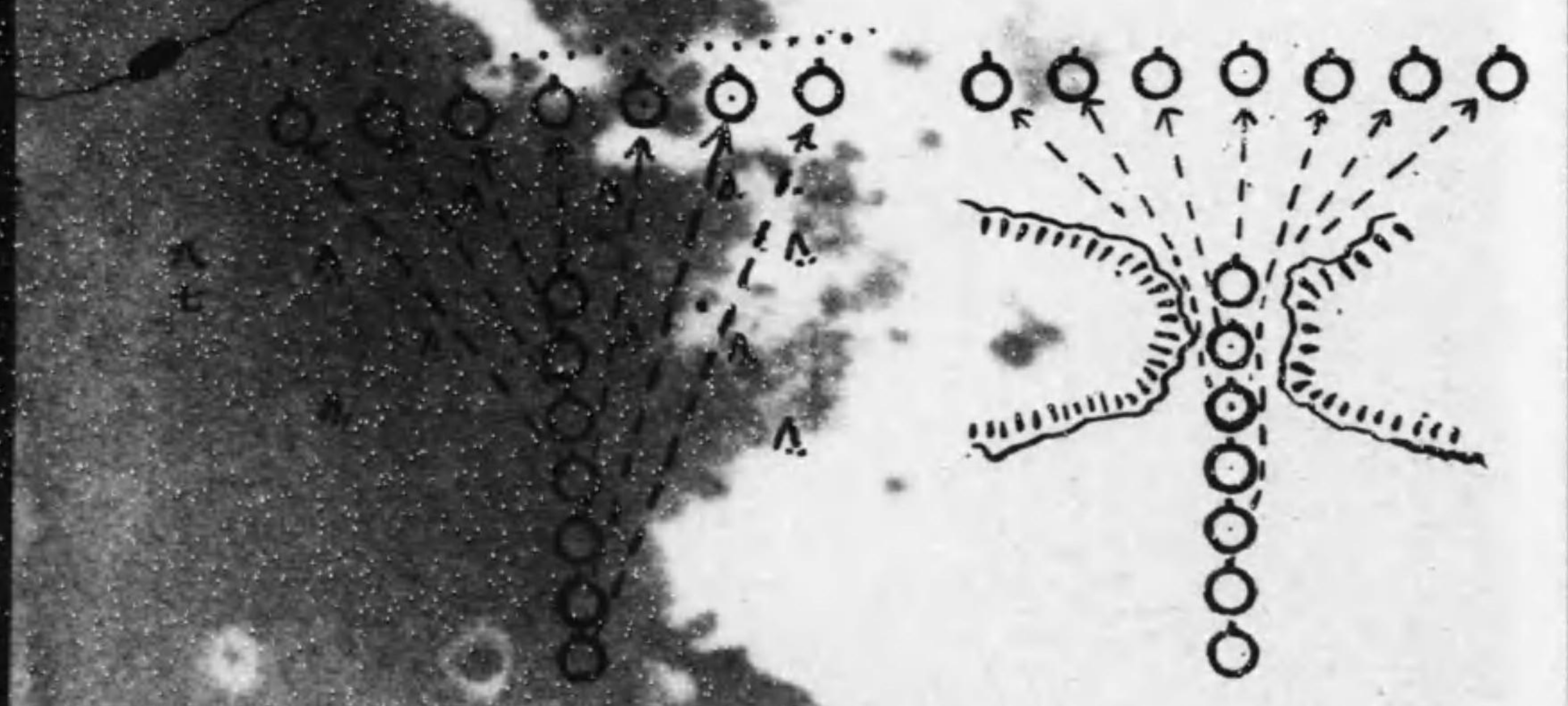
「右ヘ散レ」



障碍物ノ前方ニ行フ時ハ稍前方ニ進出ス
 林縁ニ散開スル時ハ稍後方ニ位置ス
 水田其他耕作地等ニ在ツテハ畔等ヲ利用シ横隊ヲ作
 リタル後散開ス

四、散兵ノ運動(前進、停止、方向變換)
 散兵ノ運動ハ次ノ如ク區分シテ實施スルヲ便トス

イ、發進動作		ロ、行進動作	
速度	姿勢	速度	地形
早	伏	早	斜
速	膝	速	起
歩	立	歩	平
歩	姿	歩	坦
歩	姿	歩	地
歩	姿	歩	面



ハ、停止動作
 平坦地
 起伏地
 斜面

ニ、運動
 方向變換
 斜行進

着眼

イ、耳目ヲ活動シ絶エス指揮官及敵ニ注意シ隣人ヲ監視シ地形ヲ利用シテ動作スルコト
 ロ、發進動作ハ敏活ニシテ人ニ後レサルコト
 ハ、常ニ我火力ヲ發揚シ敵火ニ遮蔽スルコト
 ニ、行進ハ勇往邁進ノ氣概アルコト地形地物ヲ利用シテ遮蔽前進スル時ハ方向ヲ誤ラサルコト行進遲滯セサルコトニ注意ス
 ホ、斜行進ニ於テハ指揮官及隣人特ニ基準ノ者ニ注意シ方向ヲ過ラサルコト
 ヘ、方向變換ハ軸散兵ノ線ニ進出シ分隊長ノ意圖ニ副フ如ク新線ヲ作ルコト
 ト、散兵ノ行進ハ必スシモ間隔ヲ墨守セサルモノナリ然レトモ無意味ニ間隔ヲ變更スルハ不可ナリ

チ、目標ノ關係ト射撃姿勢ハ相關連ス

指導要領

1、戰鬪ノ各個教練ト連繫ノ爲若干伍ノ動作ヲ實施シ分隊ノ動作ニ移ルヲ可トス
 2、方向變換ハ戰鬪ノ各個教練ニ於テ教育セサリシヲ以テ伍ノ動作カラ始メルカヨイ
 1、方向變換ノ例

新方向ニ目標ヲ示ス

指示「斜左小丘阜ニ向ヒ」

號令「左ニ向テ換ヘ」

注意 停止、行進何レモ軸翼ノ者ハ停止シ其他ハ之ニ準ヒ停止スルコト

ロ、區分前進

號令ヲ用フル場合

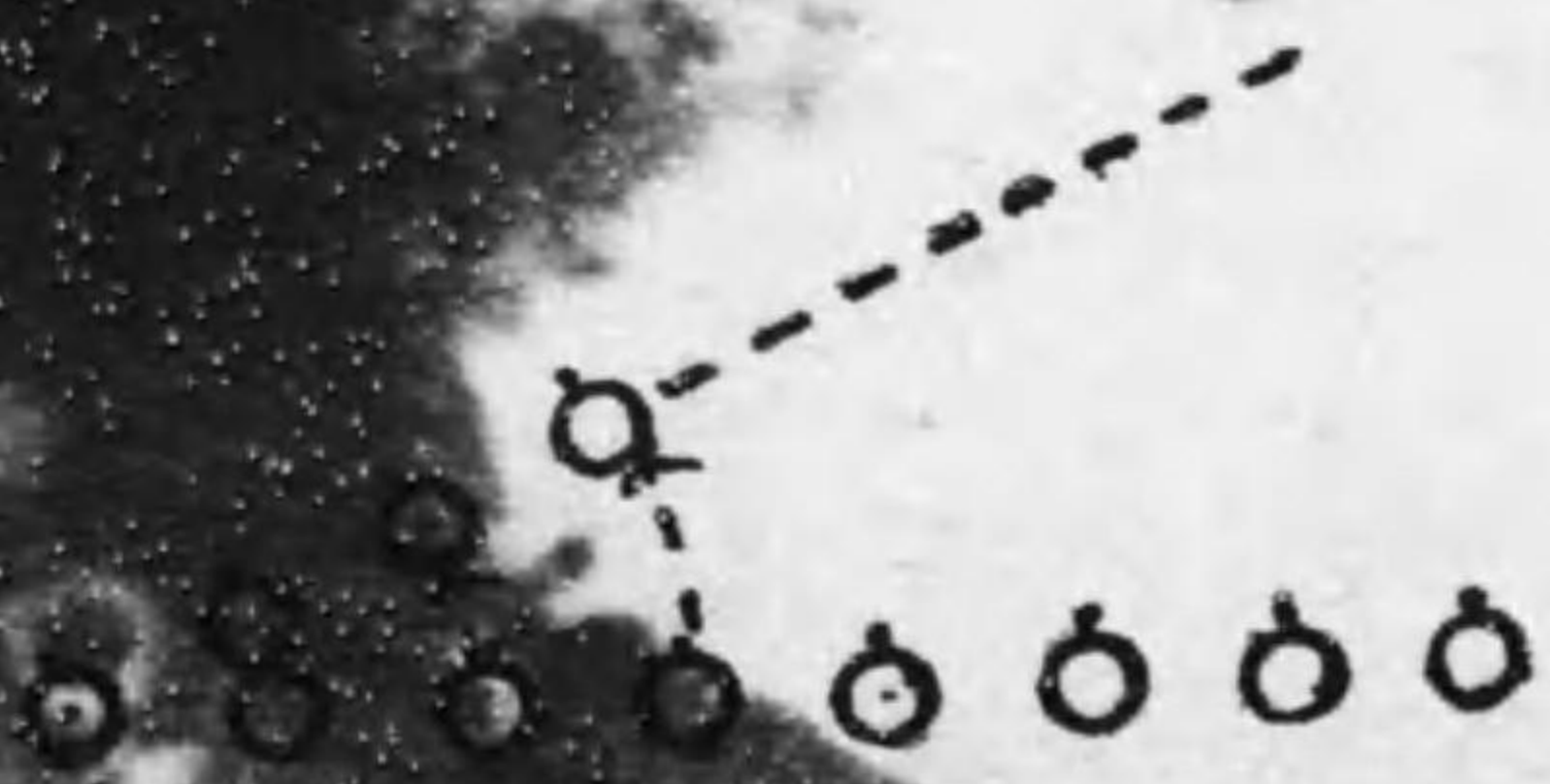
一部ヲ先行シ主力ヲ續行セシムルコトキ
 隊長ノ號令ニ依ル但シ先行兵ノ停止ハ
 示ニ依ルコトモアル

記號ヲ用フル場合

大部ヲ分隊長ト先行シ殘部ヲ前進セシムルコトキ
 又ハ若干ツツ前進セシムルコトキ

指示ニ依ル場合

先行者停止セハ次ヲ行ハス如シ



五、突撃
集合併合
記號ニ依ル運動

目的

突撃、集合併合ハ密集教練ノ目的ニ同シ

着眼

- イ、突撃集合ハ密集教練ニ準ス
- ロ、併合ハ迅速ニ所要ノ隊形ヲ構成シ得ルコト
- ハ、記號ノ理解十分ニシテ動作敏捷ナルコト
- ニ、規律嚴正ナルコト

指導要領

- イ、突撃ハ密集教練ノ場合ニ同シ
- ロ、集合、併合ハ最初平易ナル位置、隊形ヲ示シテ行ヒ逐次困難ナル情況ノ下ニ行フ如クス
- ハ、記號ニ依ル運動ハ單ニ前進、停止、及散開ノ動作ニ就キ實施シ其要領ヲ會得セハ可ナリ

第三款 小隊疎開教練

目的

分隊疎開教練ノ目的精神ニ同シ

一、側面縱隊ノ運動

着眼

- イ、列中ノ者ハ小隊長、分隊長ノ號令、命令、指示ニヨリテ其意圖ノ如ク動作シ得ルコト
- ロ、中隊疎開ニ小隊未タ密集隊形ニ在ル時ハ小隊長ノ「前へ」「斜ニ右(左)へ」ノ號令ニテ銃ヲ擔ヒ發進シ「止レ」ノ號令ニテ停止シ立銃ヲナス
- ハ、右ノ場合ニ於テ列中ノモノハ正規ノ姿勢歩法ヲ墨守スルヲ要セス
- ニ、基準小隊ハ正シク目標ニ向ヒ前進シ其他ノ小隊ハ基準小隊ニ確實ニ連絡ス
- ホ、地形ヲ利用スル場合ニ在リテハ列中ノモノハ協同シテ地形ノ價值ヲ判斷シテ徒ラニ集團セザルコト

指導要領

- イ、小隊疎開教練ハ青年訓練所ノ人員ノ數ト教育程度ニ依リテ、
同年代ノ訓練生ノミテ一小隊(四十名以上)ヲ編成スルヲ要ス

ル訓練生ヲ以テ編成スル時ハ困難ヲ感スルテアラバ
 若シ二年次合同ノ教練ヲ行フヲ要スル状態ニアル時
 シ置クヲ要ス本指導ニ於テハ同年次ノ場合ヲ想定シテ記述シタ
 ロ、小隊ノ疎開運動ニ於テ側面縱隊ノ斜行進ヲ用フルカ或ハ側面行進
 ノテアル

敵砲彈下ノ運動等ニアツテハ損害ヲ減少センカ爲ニハ斜行進ヲ用フルヲ有利トス
 其他ノ場合ニ於テハ側面行進ヲ適用スル場合カ多イ

ハ、中隊内ニ於ケル小隊ノ訓練ノ爲ニハ標旗ヲ以テ他ノ小隊ヲ標示スルヲ可トス

二、一線疎開

側面縱隊ヨリ

停止間

横隊ヨリ

行進間

着眼

イ、小隊長ノ號令ニ依リ各分隊迅速ニ同時ニ行動シ得ルコト

ロ、疎開發進時ノ際行進交叉ニ依リ分隊長以下ノ動作混雜セサルコト

ハ、基準分隊ト他ノ分隊トノ距離間隔適當ナルコト

指導要領

イ、説明、模範ハ最初ノ訓練ニ在リテハ各動作毎ニ行ヒ其ノ要領ヲ了解セシムルコトヲ努ムヘシ

ロ、輕機關銃分隊ノ編成ハ要スレハ標旗ノミヲ以テ示スモ可ナリ

ハ、一線疎開ノ一例

小隊長ノ命令(側面縱隊ノ場合)

一線ニ疎開

右ヨリ第三、第五、第一、第二、第六、第四分隊ノ順序

第一分隊基準

目標前方ノ森ノ切れ目(抽出樹等)

「開ケ」

基準分隊ハ目標ニ直行ス

他ノ分隊ハ分隊長ノ誘導ニ依リ所要ノ間隔ヲ

トル

最初停止間ヨリ次テ行進間ニ行フ



ニ、横隊ヨリ行フ場合ニアリテハ右ニ準シ列中ノモノハ一側ヨリハ一側ニ分隊長ニ續行ス

三、二線疎開

側面縦隊ヨリ
横隊ヨリ

停止間
行進間

着眼

イ、列中ニ於ケル各人ノ動作ハ一線分散ニ於ケルモノニ同シ

ロ、第二線分隊長ハ第一線分隊ニ距離ヲ取り指示ヒテシテタハ位置ヲ保持スルコト

ハ、火線ノ構成ニ於テ援隊長ハ小

隊長ノ意圖ヲ忖度シ豫メ敵情地

形其他友軍ノ情況ヲ絶エス念頭

ニ置クコト

指導要領

イ、二線疎開ノ例

小隊長ノ命令

1、側面縦隊ヨリ二線ニ疎開



號令

二線ニ疎開

第一線右ヨリ第五、第一、第二分隊

第二線右ヨリ第四、第三、第六分隊

第一分隊基準

目標前方ノ一本松

「開ケ」

2、横隊ヨリ二線ニ疎開

梯形配置ノ例

號令

二線ニ疎開

第一線右ヨリ第五、第一、第三分隊

第二線右ヨリ第二、第四、第六分隊第三分隊ノ

後方



第三分隊基準

開ケ

ロ、疎開ニ於テ第二線部隊ハ一時其位置ニ停止シ所定ノ距離(別命)ヲ取ルヲ待テ分隊ハ前進ヲ始ム停止ノ際ハ可成損害ヲ減少スル隊勢ニアルヲ要ス
其他前ニ同シ

第四款 小隊戦闘教練ノ指導

一、一般ノ概要

目的

分隊疎開教練ノ目的ニ同シ

着眼

疎開教練ノ場合ト同一ナルモ戦況ヲ設ケテ行フ

教練ニアリテハ其動作能ク情況ニ適合スル如ク實施セサルヘカラス之カ爲適切ナル指導ト相俟テ
戦況ヲ腦裡ニ映シ之ニ善處スルノ覺悟アルヲ要ス

1、情況ハ教練ノ效果ヲ有效ナラシムル爲必要ナルモノニシテ教練ノ目的ニ應シ決定スルモノ

トス

例一、輕易ナル敵ノ掩護陣地ノ攻撃

第一小隊命令(何月何日午後一時於丙村北端)

一、歩砲連合ノ敵ハ今朝來甲村附近ニ陣地ヲ

構築中ニシテ其一部ハ乙村附近ニアリテ陣

地ヲ占領シアリ

中隊ハ乙村ノ敵ヲ攻撃シ大隊ノ展開ヲ掩護

セントス

第二小隊ハ右翼第一線第三小隊豫備隊中央後ヲ前進ス

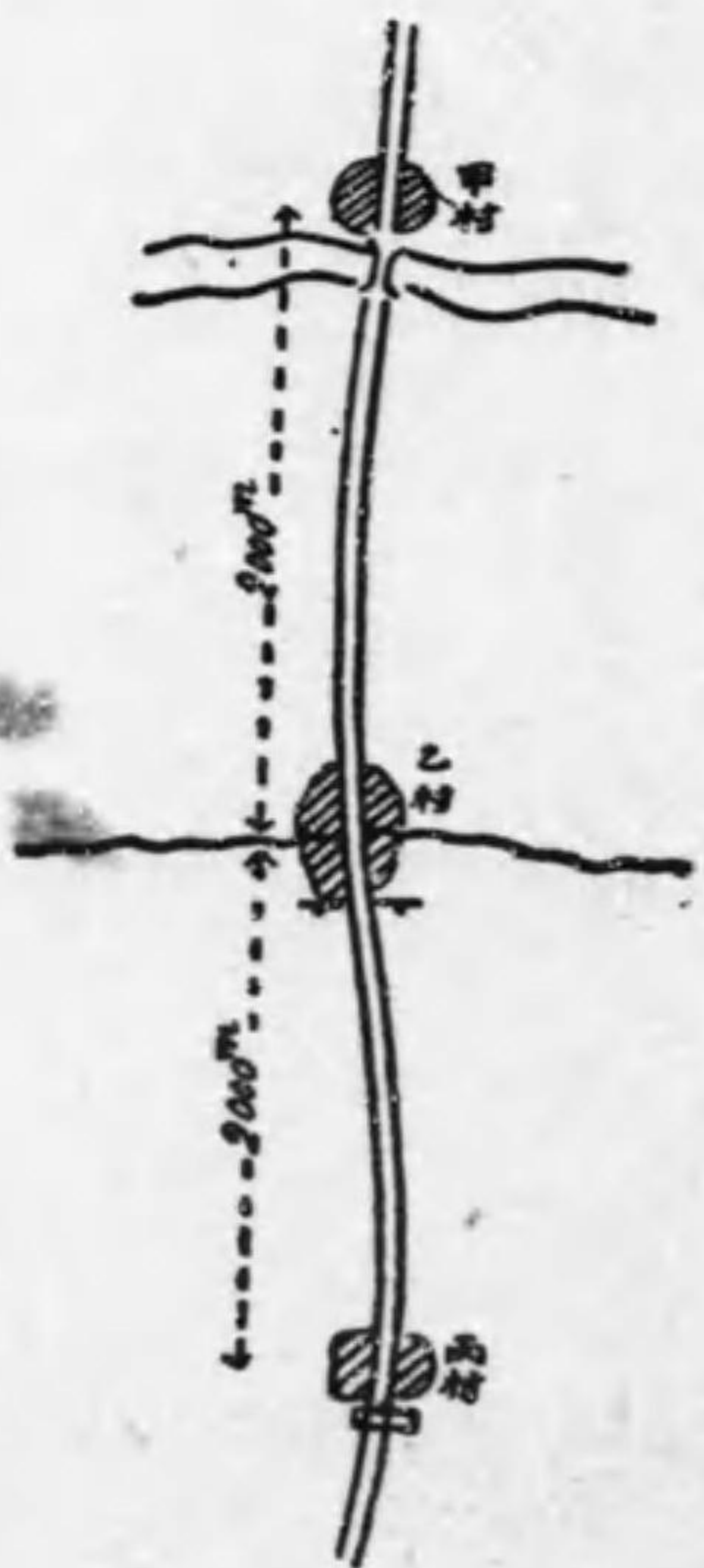
二、當小隊(第一小隊)ハ左翼第一線トナリ乙村本道西側ノ敵ヲ攻撃ス

此ノ情況ハ稍慎重ヲ要スル場合ヲ示セリ

例二、前ニ同シ

第二小隊命令(何月何日午前十時於乙村北端)

一、歩兵一大隊砲一中隊ヲ基幹トスル敵ノ一縱隊ハ大山街道ヲ南進中ニシテ今ヨリ一時間後ニハ



甲村ニ達スル距離ニアリ又歩兵一小隊ヲ下ラサル敵ノ一部B山ヲ占領シアリ中隊ハ今ヨリB山ノ敵ヲ攻撃ス



第一小隊ハ左翼第一線、第三小隊ハ左翼後ニ豫備隊トナリ前進スル筈

二、當小隊(第二小隊)ハ中隊ノ右翼第一線トナリ本道以東ノ敵ヲ攻撃セントス

此ノ情況ハ攻撃急ヲ要スル場合ヲ示セリ

例三、收容陣地ヲ占領セル敵ヲ攻撃

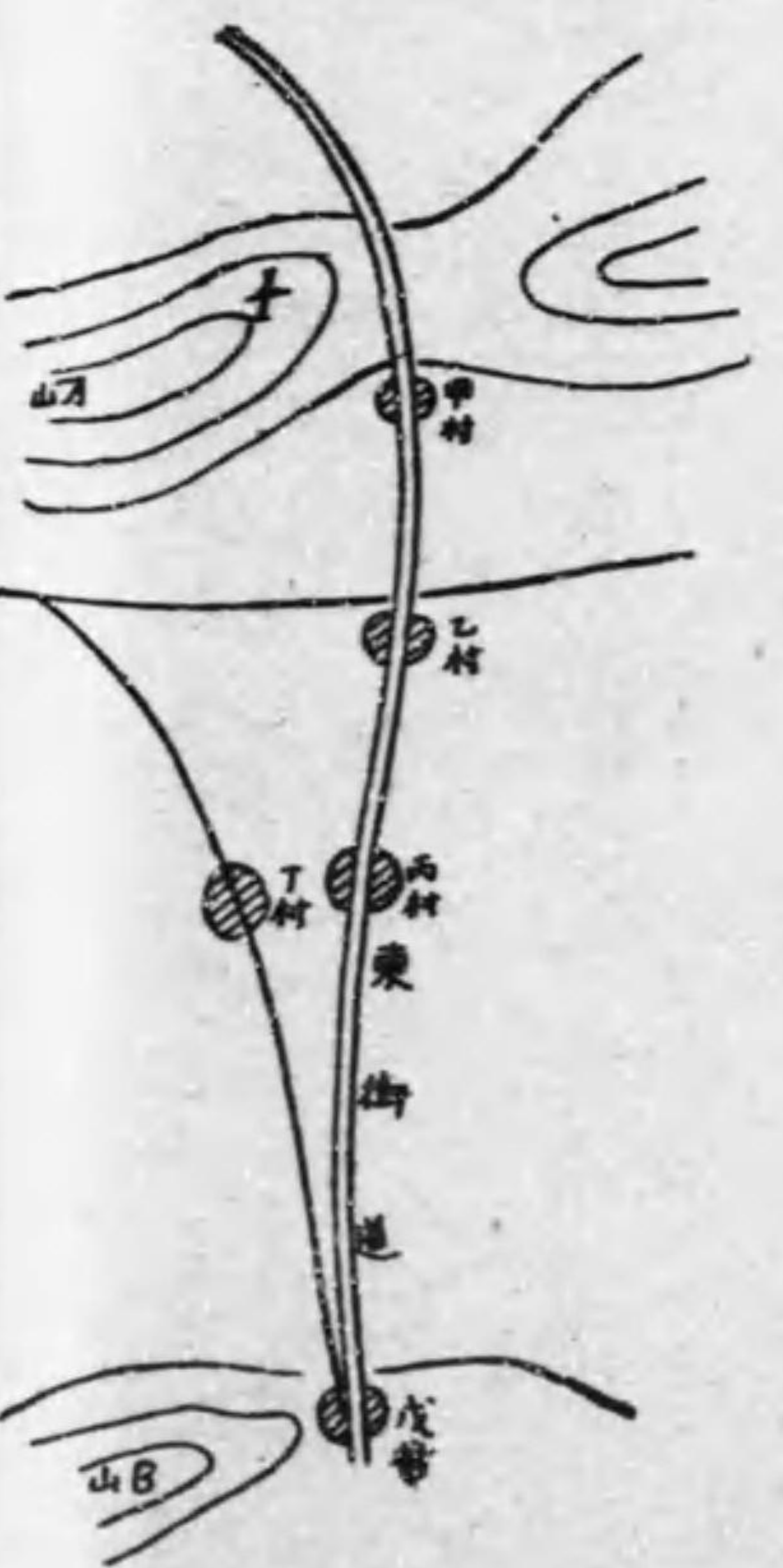
情況 丙村附近ニ於テ遭遇戦ヲ交ヘタル南北兩軍ハ決戦ヲ交フルニ至ラスシテ

北軍ハ退却ヲ始メ南軍ハ之ヲ追撃ス

中隊命令(何月何日午後二時於丁村北端)

一、敵ハ東街道ニ沿ヒ北方ニ退却中ニシテ

其一部ハA山附近ニ陣地ヲ占領シアリ



大隊ハ直チニA山ノ敵ヲ攻撃ス

第一中隊及機關銃隊ハ第一線、第三、第四中隊歩兵砲半部ハ中央後ノ豫備隊

二、中隊ハ左翼第一線トナリA山一本松左ノ敵ヲ攻撃ス

三、第一、第二小隊第一線第三小隊在翼後ノ豫備

此情況ハ退却ニ決シタル敵ニ對シ勝ニ乘シタル我軍ノ攻撃ヲ行フニアリ

例四、遭遇戦(要圖例三ニ同シ)

中隊命令(何月何日午前十時於戊村西端) (分進中)

一、敵ハ甲村附近ニ於テ展開中ナリ

大隊ハ主力ヲ以テ本道ニ沿ヒ一部ヲ以テ丁村方向ヨリ敵ヲ攻撃ス

我砲兵ハ戊村西南方陣地ヲ占領スル筈

第一、第二、第三中隊、機關銃隊第一線、第四中隊豫備隊本道東側地區ヲ前進ス

二、中隊ハ左翼第一線トナリ敵ノ右翼ニ向ヒ攻撃ス

三、第一小隊、第二小隊第一線第一小隊基準基準

小隊ノ目標ハA山ノ一本松

第三小隊ハ豫備隊第二小隊ノ後方ヲ前進

此ノ情況ハ行進中ヨリ展開スル場合ヲ示セリ

- 2、假設部隊 敵及ヒ友軍ヲ標示スルモノニシテ通常假設ニハ幕的、標旗等ヲ以テシテ可成實況ヲ現スヤウスルカヨイ、單ニ假想ニ止マル時ハ其效果ヲ減スルモノテアル
- 3、服裝 服裝ハ軍服類似品カヨイカ出來ナケレハ努メテ輕快ナ服裝ヲナシ殊ニ履物ハ不齊地ノ跋涉ニ容易ナモノヲ選フカヨイ

銃ハ之ヲ携帶スル時ハ演習ノ實效ヲ收ムルニ與リテカアルモ備付ナキ時ハ止ラ得ス徒手ヲ行フ

二、各課目ノ指導

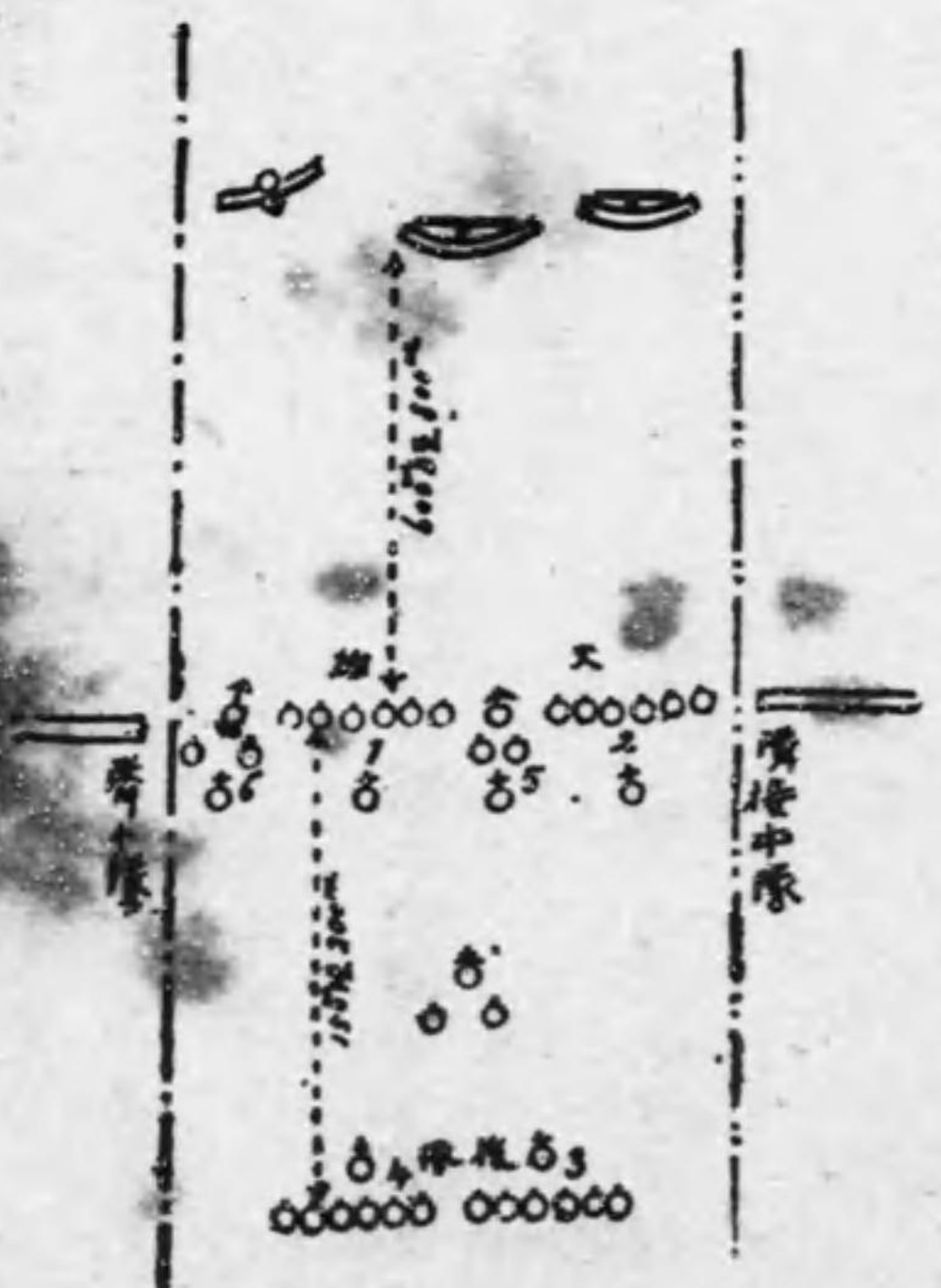
- 1、戰鬪ノ爲前進
 - 着 眼
 - イ、情況ニ應シ隊形、步度ノ選擇ニ注意シ團結力鞏固ナルコト
 - ロ、前進運動ハ無用ノ停止ヲ避ケ左右ノ連絡ニ注意シ步度急速ナルニ從ヒ殊ニ躍進ニ於テ指揮官ノ手裏ヲ脱セサルコト
 - ハ、分隊相互ノ連繫、協同動作及地形ノ利用ニ注意スルコト

指導要領

- イ、各種ノ情況及地形ヲ演練シ熟練セシムルヲ要ス
- ロ、遠距離(二千米以上)ニ於テハ側面縱隊ノ運動ヲ用ヒ千米以上ニ於テハ小隊ヲ疎開シ千米以下ニ在リテハ適宜或ハ小隊長ノ命令ニテ散開セシムル等情況ニ應シ隊形、步度ヲ規整ス
- ハ、逐次敵ニ近接シ射撃開始ノ時機トナリ火線ヲ構成ス

指導要領

- イ、火線構成ノ時、射撃開始ニ先テ構成ス
- 成ルヘク長ク密集隊形ヲ保持シ情況カ許サナイトキ散開シ次テ射撃ヲ行フニ至ル
- 地形之ヲ許ス時ハ射撃開始ノ際散開スルカヨイ
- ロ、射撃目標ノ指示ハ射撃開始前敵ノ火制地帯
- ニ入ルニ先テ之ヲ示スカヨイ止ムヲ得サルトキハ射撃開始直前ニ指示スルコトアリ



ハ、火線ニ用フル兵力
 當初ハ可成節約スルヲ法トス然レトモ攻撃目標決定セハ敵ニ優ル火力ヲ用フルニ要スル兵力ヲ使用セナケレハナラヌ

ニ、命令ノ一例

- 一、小隊ノ射撃目標ハ前面高地ノ右端ヨリ中央ノ一本松ニ至ル間（敵線ノ指示明瞭ナルトキハ高地右端ノ散兵、其左稜線ノ散兵、其左一本松ノ右ノ機關銃等）
- 二、右ヨリ第二、第六、第一、第五分隊火線

第一分隊基準

第三、第四分隊援隊

援隊ハ中央後ヲ前進

ホ、右命令ニ基キ分隊長ハ各々自己ノ任務ヲ復唱シ火線ニ任スル分隊長ハ相互目標其他ノ協定ヲナシ列中ノ者ニ任務及射撃目標ヲ示シ照尺ヲ裝セシム
 ヘ、目標ノ指示ハ敵ノ一部テモ我制壓ヲ稀レシムルカ如キコトナキヲ要ス
 ト、射撃準備カ終ツタ時ハ其旨小隊長ニ報告シ小隊長ノ射撃開始若クハ前進ノ命令ヲ待ツ

3、火線ノ運動及射撃並ニ援隊ノ運動及增加

指導要領

イ、小隊長ノ任務

射撃開始、（敵線ニ至ル距離、射撃開始ノ地點等所要ノ事項ヲ示ス）

爾後要スレハ分隊ノ射撃目標及分隊ノ前進、停止ヲ命ス

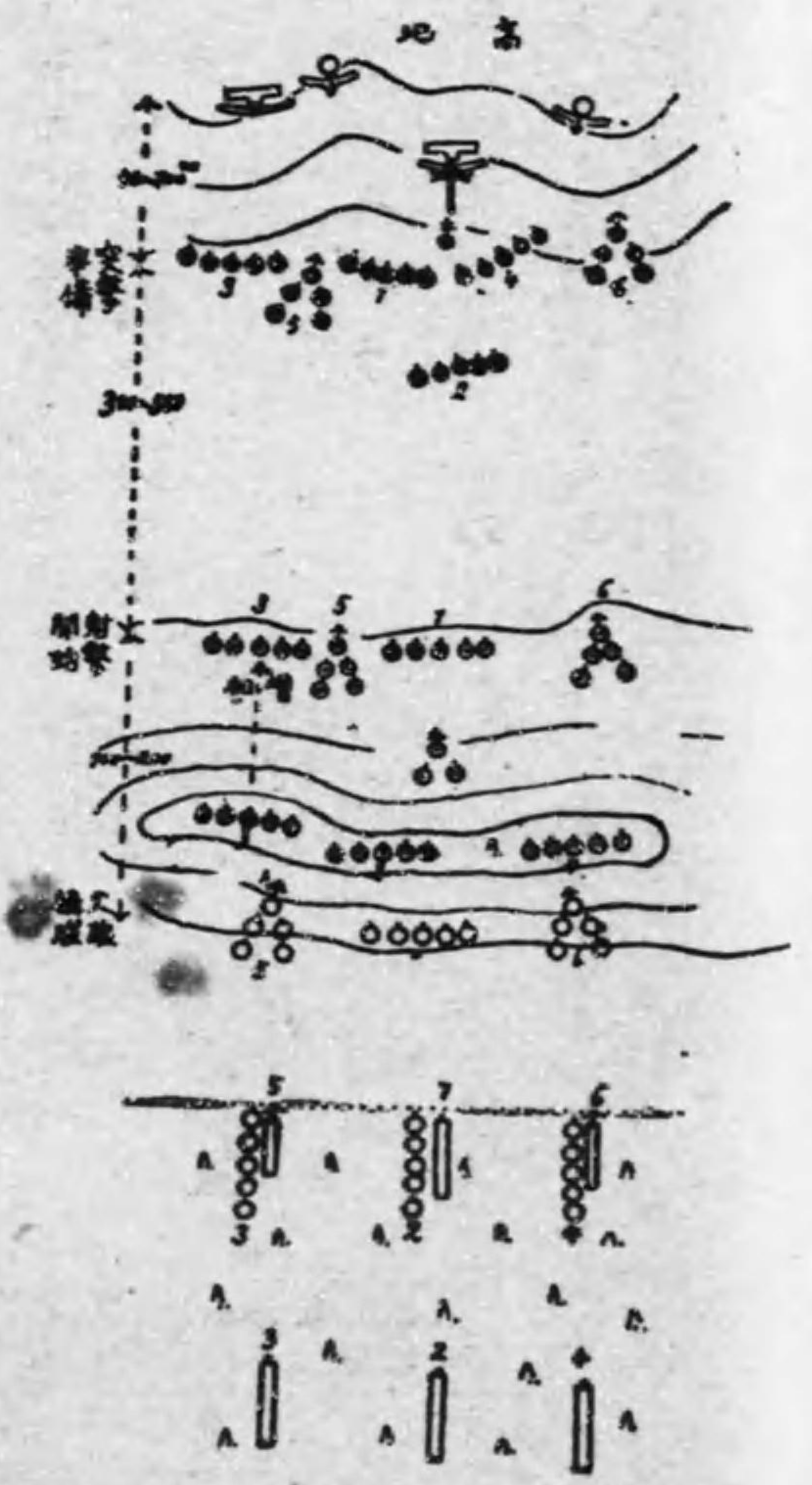
援隊ノ増加ヲ命ス

ロ、分隊長ノ任務

射撃指揮ヲ掌ル

分隊ノ前進停止ヲ指揮ス

敵情ノ變化ヲ絶エス小隊長ニ報告ス



其他小隊内ニアリテ各分隊長ノ適切ナル協同動作ト機宜ニ適スル獨斷專行トハ最モ緊要ナリ
 ハ、援隊タル分隊ノ長ハ命令ニ應シ直チニ火線ヲ増加シ突撃ヲ援助シ得ルガ爲ニ敵情ノ變化小隊ノ射撃目標火線ニ在ル各分隊ノ狀況及敵トノ距離等ヲ熟知シ以テ敵情及火線ノ狀況ニ適應スルヤウニ援隊ヲ誘導シ成ルヘク小隊長カラ見エル處ニ位置スルカヨイ

4、突撃準備及實施

指導要領

- イ、小隊長ハ突撃準備ニ先チ速ニ敵情地形ノ偵察ヲナシ特ニ陣地ノ弱點ヲ知リ中隊長ニ報告シ中隊長ニ決心ノ資料ヲ供ス
- ロ、突撃準備ニ於ケル小隊長ノ動作
- 命令
- 一、小隊ハ「イ、ロ、ハ、ニ」ノ敵陣地ヲ突破シ「ホ、へ、ト」ノ陣地ニ向ヒ突進セントス
- 二、各分隊ハ現在地(何々ノ線)於テ突撃ヲ準備スヘシ
- 三、第二分隊ハ「イ」ニ突入シ「ロ」ヲ突破シ「ホ」ニ向ヒ突進スヘシ



- 第五分隊ハ第一、第二分隊ニ協カスヘシ
- 第一分隊ハ「ハ」ニ突入シ「ト」ニ向ヒ突進スヘシ
- 第三分隊ハ「ニ」ニ突入シ「ト」ニ向ヒ突進スヘシ
- 第六分隊ハ第三、第二分隊ニ協カスヘシ
- 援隊ハ第一分隊ニ續行スヘシ

擲彈筒ハ突入直前主トシテ「ロ」附近ニ煙幕ヲ構成シ爾後左翼方面ニ協カスヘシ

ハ、分隊長ノ動作

- 一、沈着ニシテ列中ノ者ヲ督勵シ火力ヲ最高度ニ發揚ス
- 二、敵陣地ノ情況ヲ偵察報告ス
- 三、適時著劍ス
- 四、手榴彈ノ準備ヲナス
- 五、列中ノ者ニ分隊ノ任務動作ヲ徹底セシム
- 六、突撃ノ命アル時ハ直ニ之ニ應シ得ル如ク準備ス
- ニ、突撃實施ノ時機

- 一、敵ニ近迫セハ小隊長ハ好機ニ乘シ自ラ突撃ヲ決行ス
- 二、中隊ヨリ突撃發起ニ關シ指示セラレタトキハ速ニ突撃準備ヲ完了シテ中隊長ニ報告シ突撃ノ命アルヤ直ニ突撃ヲ實施ス

ホ、突入

- 一、小隊長ハ自ラ先頭ニ立チテ猛烈果敢ニ敵陣ニ突入シカメテ部下ノ掌握ヲ確實ニシ輕機關銃ヲシテ小銃分隊ニ協力セシメ且ツ方向ノ維持ニ勉メ逐次小隊ノ奪取スヘキ目標ヲ示シ一意突進ニ努力ス
- 二、分隊長ハ通常小隊長ノ命令ニヨリ突入シ自ラ先頭ニ立チテ所命ノ地點ヲ奪取ス
- 三、輕機關銃、分隊及擲彈筒手ハ猛烈ニ射撃ヲ以テ援助ス

第四章 陣中勤務ノ指導

要 旨

- 一、陣中勤務演練ノ目的ハ陣中ニ於ケル諸勤務ヲ習得シテ堅忍持久ノ精神ト慧敏ノ性質ヲ養ヒ協同ノ美風ト責任ノ觀念ヲ助長シ記憶力ヲ養フニアル
- 二、青年訓練ノ教練ニ於テ陣中勤務ト稱スルハ方位ノ判定、徵候ノ判斷、視力聽力ノ練習、傳令、連絡兵、搜索(斥候)、警戒(歩哨)、遠足、露營等ヲ總稱ス

第一節 方位ノ判定及徵候ノ判斷

目 的

微細ナル事物ニ對シテ注意ヲ周到ナラシメ且判斷力ヲ鋭敏ニシ又興味ノ間ニ實用ニモ應用セシムルニアリ

第一款 方位ノ判定

一、方位ヲ判定スルニハ種々アレトモ普通應用シ得ヘキ簡易ナル方法概テ次ノ如シ

1、磁針ニ依ル法

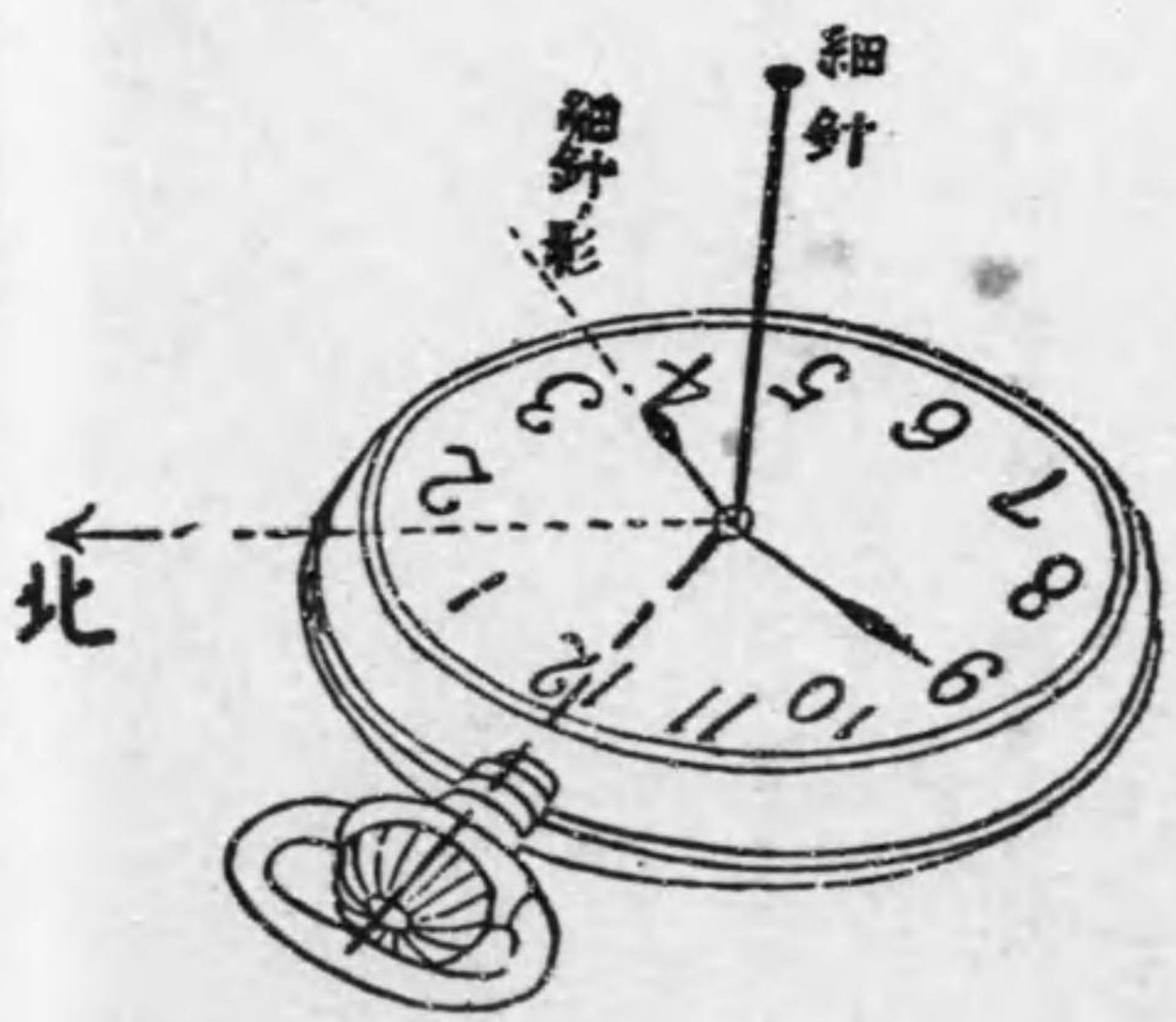
地理不案内ノ土地テ方位ヲ知ルニハ磁針ニ依ルヲ最モ迅速確實ナ手段テアル磁針ハ常ニ其青色部ハ北方ヲ指シテ居ルカラ直チニ方位ヲ知ルコトカ出來ル但シ附近ニ鐵氣ノ多イ場所又ハ鐵礦地方等テハ其方向ニクルイカ起ルモノテアル

2、太陽ニ依ル法

太陽ハ午前六時頃概テ東方ニ正午南方ニ午後六時西方ニ位置ス故ニ其他ノ時刻テモ之ヲ基準トシテ大體ノ方位ヲ知ルコトカ出來ル

3、時計ニ依ル法

時計ヲ用ヒ太陽ニ依ツテ方位ヲ知ルニハ時計ヲ水平ニ保チ其中央ニ細針(マツチノ軸木等)ノ如キ物ヲ直立シ其影ヲ短針ト一致スル如ク時計ヲ旋廻シテ固定シ短針ト十二時トテ



ナス角ノ二等分線ハ北方ヲ指示ス(上圖)

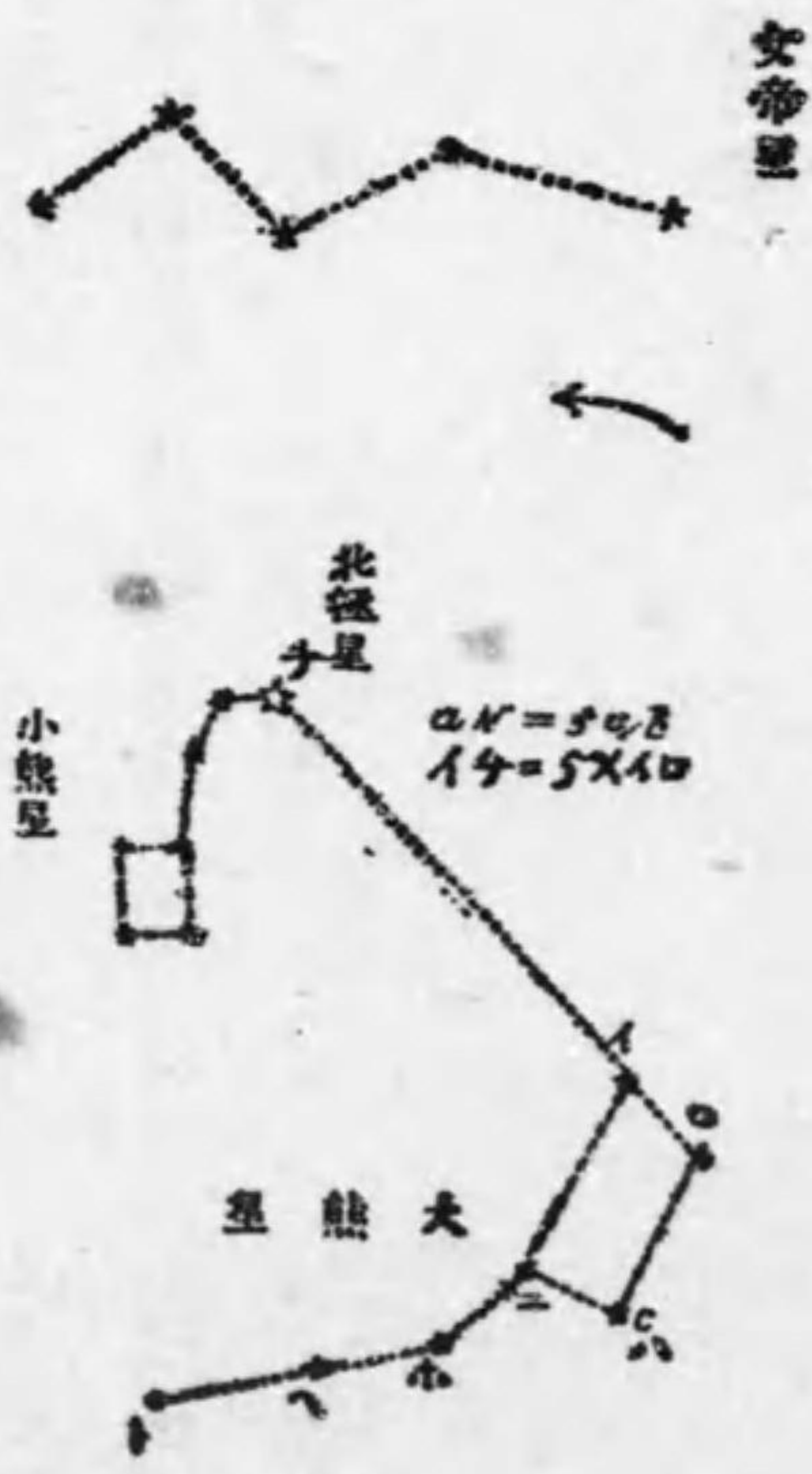
4、月ニ依ル法

満月ノ時ハ午後六時東方ニ夜半ハ南方ニ午前六時ニハ西方ニアル
下弦ノ時(右方缺)ハ夜半ニハ東方ニ午前六時ニハ南方ニアル
上弦ノ時(左方缺)ハ午後六時ニハ南方ニ夜半ニハ西方ニアル

5、北極星ニ依ル法

星ニ依ツテ方位ヲ判定スルニハ北極星ニ依ルヲ確實トスル

北極星ハ小熊星ノ尾端ニ宿スル光輝明カナル星ニシテ大熊星ノ「イロ」ノ兩星ヲ連結スル線ノ延伸中此兩星ノ五倍ノ所ニ在ル又大熊星ノ反對側ニ女帝星ト名ツケルM字形ノ集星カアツテ常ニ此態勢テ北極星ヲ中心トシテ廻轉シテ居ル



6、樹木ニ依ル法

樹木ノ枝、南方ニ繁茂ス

海岸ノ樹木ハ海ノ反對側ニ傾キ茂ルヲ以テ右ノ判斷ヲ誤ラサルコトニ注意スルヲ要ス

又樹木ノ木理(年輪)ハ通常南方ニ疎ニシテ北方ニ密テアル

7、風向ニ依ル方法

風ノ方向ハ場所、地勢及ヒ時刻等ニ依リテ四季一定ノ方向ニ吹ク所アリ

8、苔ニ依ル方法

樹木、道標等ニ苔類ノ生スル側ハ通常北側テアル

9、家屋等ニ依ル方法

家屋ハ地方ニ依リ入口、向キ其他ノ關係ヨリ方位ヲ知ルヲ得

二、方位判定ノ應用

屢々野外、殊ニ未知ノ土地テ各種ノ方法ヲ應用シ方位ヲ正シク判定スルコトヲ演練シ習熟セシムルヲ要ス

地圖ヲ正シク判斷スル爲ニハ方位ノ判定ヲ必要トス

三、方向ノ維持

森林、不齊地等ニ在リテ方向ヲ維持シ示サレタル地點ニ至ル爲各種ノ判定ヲ行ヒ殊ニ夜間ニ於テハ星、月、道路其他ノ目標ヲ基準トシテ方向ヲ正シ前進スルヲ可トス

四、指導要領

- 1、最初演習場若クハ講堂等テ各種ノ方法ヲ教習シ後野外テ實施スル
- 2、各種ノ器具材料ノ準備、位置ノ偵察等ハ周到ニ行ヒ其順序ヲ考究ス
- 3、暗夜未知ノ地形テ行フ演習ハ往々危険ノ伴フコトアルニ注意シ單獨行動ヲ禁シ危険信號ヲ定メ或ハ偵察ノ際危険區域ヲ表示スル等ノ處置ヲナスコトカ必要テアル

第二款 徵候ノ判斷

一、凡ソ物ノ發スルヤ必ス源アリ動スルヤ必ス其跡ヲ生ス故ニ宇宙萬般ノ事象ニ於テ其徵候ヲ探知シ其源ヲ推斷スルコトハ實ニ軍事上ノミナラス社會諸般ノ事項ニ於テ最モ緊要ナ事テアル

二、軍事上ノ徵候ハ概ネ次ノ如キモノヲ云フ

- 1、土煙ノ徵候
低クシテ濃キハ歩兵ノ行進ノ徵
高クシテ淡キハ騎兵ノ行進ノ徵

高クシテ濃ク切レ切レナルハ砲兵行進ノ徵

- 2、足跡、蹄跡、車跡ハ軍隊通過セルノ徵、又之ニ依リ兵種、及行進方向ヲ判斷シ得
- 3、敵地ニテ住民傲慢ノ舉動アルハ敵ノ近キ徵又住民恐怖ノ舉動アルハ敵遠キカ或ハ少ナキ徵
- 4、森ヤ林等ヨリ俄ニ鳥獸ナトノ飛ヒ出スハ敵ノ行進ノ徵
- 5、車輪ノ音響、馬ノ嘶聲、犬ノ吠聲ハ軍隊又ハ群衆通過ノ徵
- 6、蟲ノ音、不意ニ止ミタルハ人ノ潜伏シアル徵
- 7、器具ヲ使用スル音ノ聞エルハ工事ヲ爲スノ徵
- 8、河水濁レルハ渡河ノ徵
- 9、河ニ木屑木片等ノ流レ來ルハ上流テ橋ヲ架ケル徵
- 10、露營火ノ衰ヘルハ敵去ルノ徵其盛ナルハ増兵ノ徵
- 11、露營ノ跡ノ状態ヲ兵種兵力ヲ判斷シ得
- 12、宿營地特ニ露營ノ喧噪ナルハ敵ノ動カントスル徵
- 13、敵ノ信號ヲナスハ他ニ敵ノアル徵

三、指導要領

- 1、軍隊ノ行軍演習等ヲ利用シ得レハ頗ル有利ナル實物教育ヲ實施スルコトカ出來ル
- 2、單ニ講演ノミニ止マル時ハ其記憶不十分テ徹底セナイコト多キヲ顧慮シ努メテ機會ヲ捕ヘ又ハ準備ヲ周到ニシテ教育スルカヨイ

第二節 視力聽力ノ養成

目的

視力聽力ノ發達ヲ圖ルト共ニ事物ニ對スル注意力ヲ旺盛ニシ聰明慧敏ノ性情ヲ養フニアル

第一款 視力ノ養成

一、常人ノ視力ハ普通ノ天候テ概テ次ノ如シ

- 1、三百米迄ハ服裝各部ノ區別及色彩ヲ見分クルコトカ出來ル
- 2、四百米迄ハ獸類ノ毛色ヲ區別スルコトカ出來ル
- 3、七百米迄ハ馬ノ運動ヲ判別シ又部隊ノ伍數ヲ概算スルコトカ出來ル
- 4、八百米迄ハ人ノ腕及脚ノ運動ヲ區別スルコトカ出來又服裝中ノ白色部ヲ判別スルコトカ出來ル

二、指 導

- 5、千二百米迄ハ歩兵ノ隊形ヲ區別スルコトカ出來、又砲兵ノ砲列ヲ見別ケルコトカ出來ル
- 1、初メ認識容易ナル物ヨリ逐次見エ難キ人體、地物ニ及ホスヲ要ス
- 2、初メハ立姿ノ人體次ニ膝姿、伏姿ニ及ホシ漸次、隱現スル人ノ頭ヲ認メシムル如クス
- 3、各種ノ距離、位置ニ各異ノ目標ヲ設置シ記號ニヨツテ隱現セシメ之ヲ發見スルコトニ慣レサセル

- 4、遠距離ノ人馬ノ員數並木ノ數等ニ對シ視力ノ養成ヲ行フコトモ又必要テアル
- 5、夜間ニ於テ行フ視力ノ養成ハ殊ニ必要テアルカラ之ハ夜間動作ニ於テ記述ス

第二款 聽力ノ養成

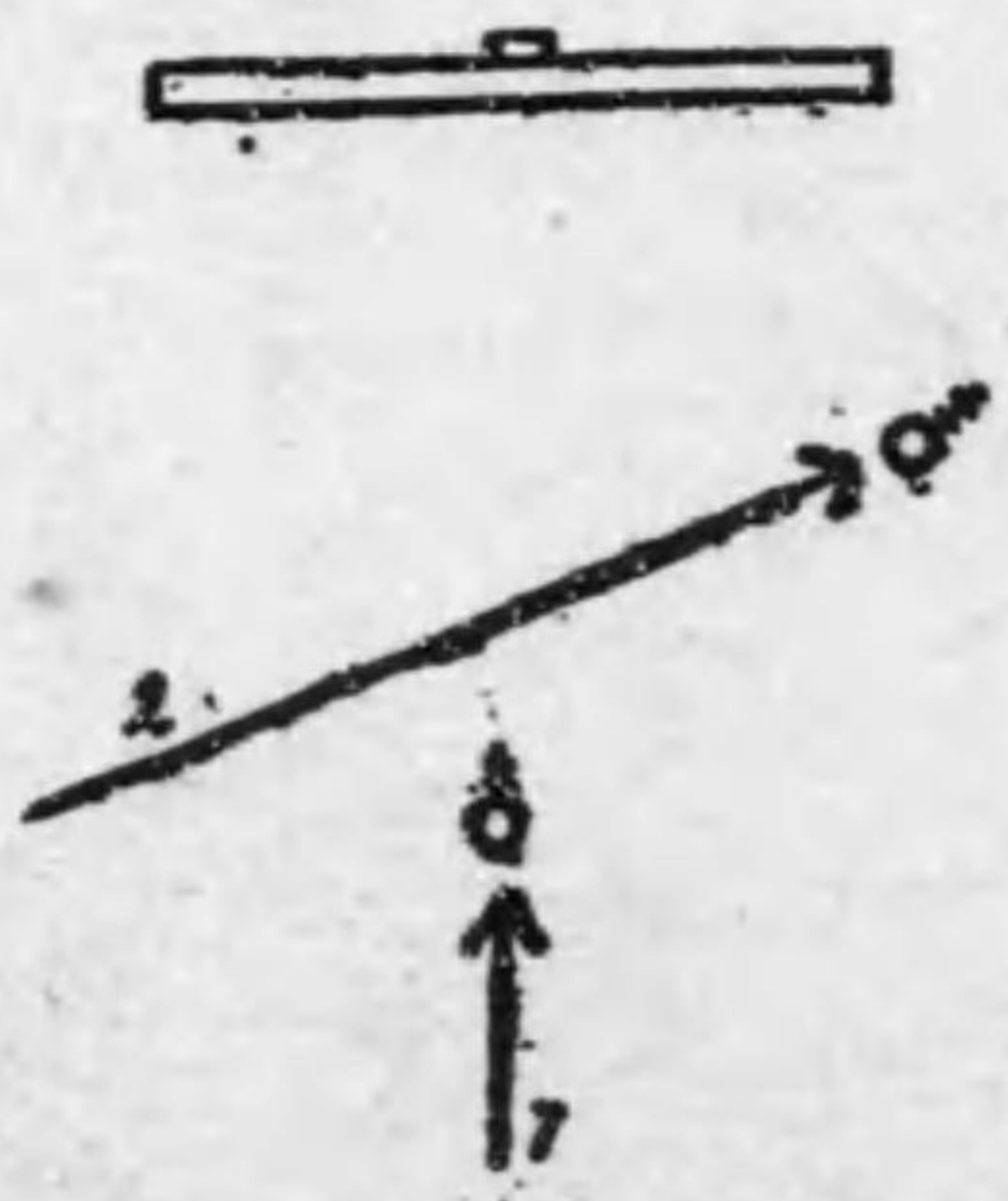
- 一、聽力ノ練習ハ各種ノ距離ニ於テ各種ノ噪音ヲ聽キ其音ノ種別、音ノ方向、發音者又ハ發音物體ノ狀況等ヲ判斷スルニアリ
 - 二、音響ニ關スル練習ハ次ノ如シ
 - 1、銃砲聲、飛行機等噪音ノ起ル方向及距離ノ概定
- 前項ノ發聲物體カ運動シアルヤ、靜止シアルヤ及其員數ノ判斷

- 2、人馬ノ行進ノ音響ニ關スル判斷

- 三、音響ヲ聽取スルニハ靜肅ヲ第一トシ沈着ナルコト要スレハ耳ヲ地ニ着ケ又ハ掌ヲ耳ニ當テル等ノ注意ヲ要ス

四、指導要領

- 1、銃聲等ノ聽取ハ豫メ空包ヲ有スル助手ヲ所々ニ伏在セシメ合圖又ハ記號ヲ助手ニ空包發射ヲナサシメコレニ依リ演習員ニ發射ノ位置其他ノ景況ヲ判斷セシム
- 2、行進ノ音響ヲ練習セシムルニハ次ノ如キ方法ヲ可トス
 - 演習員ヲ背面ニ向カシメ助手ヲシテ後方及側方カラ接近セシム
 - 演習員ハ背後ノ音響ニ注意サセ之ヲ知ツタ者ハ直ニ手ヲ舉ケシメ助手ヲ停止セシメ其距離ヲ測定ス
- 3、此演習ヲ行フニハ靜肅ナル地ヲ選ヒ他ノ噪音ヲ避クルヲ要ス



第三節 傳令、連絡

目 的

記憶理解力ヲ練リ責任觀念ヲ強フシ且意志ヲ簡明ニ發表傳達スルコトニ慣熟セシム

第一款 傳 令

一、傳令ハ命令、報告、通報等ヲ傳達スルモノテ其方法ニハ口上ヲ以テスルコト筆記又ハ印刷シタモノヲ傳達スルコトカアル傳令ノ種類ニハ徒步傳令、乘馬傳令、自轉車傳令等カアル

二、傳令出發時ノ動作次ノ如シ

1、任務ヲ復唱スルコト

2、出發ニ際シ承知スルヲ要スル件

イ、受信者及其所在地ト經路

ロ、速度又ハ歩度(要スレハ到着時刻)

ハ、傳達後ノ處置

ニ、其他必要ノ注意

文書ノ内容、敵ニ遭遇セル時ノ處置、着裝等

三、傳令ノ速度

1、徒步傳令

並、一時間約五籽(約一里十町概ネ速歩ノ歩度)

急、一時間約六籽(約一里半、駈歩ト速歩トヲ混用ス)

至急、唯近距離ニ於テノミ用フルモノニシテ體力ノ耐フルニ應シ駈歩ス

2、乘馬傳令

並、一時間約八籽(約二里概ネ三分ノ一ノ歩度即常歩一、速歩一ノ割合)

急、一時間約十籽(約二里半概ネ三分ノ二ノ歩度即常歩一、速歩二ノ割合)

至急、馬力ノ耐フルニ應シ成ルヘク迅速ナル速度ヲ用ヒ約二十籽以内ノ距離ニノミ應用ス

3、自轉車ノ速度ハ良好ノ景況ニ於テ一時間約十二籽ヲ標準トス

四、傳令途中ノ動作

1、書簡ヲ敵ニ奪取セラレヌコト危險ナトキハ破毀消滅スル等ノ手段ヲ行フ

右ノヤウナ場合ニハ通常發信者ヨリ其書中ノ内容ヲ知ラシメラルモノテアル

2、途中上官ニ遇フトキハ傳令ト呼ヒ其歩度ヲ變ヘナイ又乘馬ノ傳令ハ傳達スルニハ馬カラ下リナイテヨイ

3、傳令ハ要スルトキハ受信者ノ宛名ヲ呼ンテ其所在ヲ索ムヘシ而シテ其附近ニ在ル者ハ傳令ニ

對シ必要ナコトヲ教ヘル義務カアル

- 4、傳令途中テ事故ヲ生シタトキハ速ニ最寄ノ部隊ニ申出テ其援助ヲ受ケ送達スルコトヲ努ム
- 5、傳令ハ通過路ヲ視察シ時々後方ニ向キ直ツテ地形ヲ記憶シ歸路ヲ容易ニ知ルヤウニスルカヨ
- 6、途中ノ司令部及軍隊ニ内容ヲ知ラセルコトヲ命セラレタトキハ所要ノ上官ニ簡單ニ之ヲ告知ス

- 7、傳令ハ敵ニ發見セラレナイヤウ注意スルヲ要ス
- 五、到着後ノ動作

- 1、確實ニ傳達スルコト

口上ノ傳達ヲスルトキニハ受信者ヲ呼ヒ發信者ノ名ヲ冠シテ命令報告又ハ通報ト呼ヒ然ル後本文ヲ傳達ス

例ヘハ大隊長殿、第何中隊長報告何々

文書ノ送達ニハ直チニ其書簡ヲ差出シ先方ノ返事若クハ封筒ニ受領證ヲ受ケル

- 2、歸路ハ危險ナ道路ヲ避ケ要スレハ迂廻スルコト

- 3、歸還ノ餘裕ナキ時ハ一時其附近ノ隊ニ從屬シ、後證明ヲ得テ歸ル

六、歸着後ノ動作

- 1、歸着後直ニ命セラレタ上官ニ届出ツルコト
- 2、口上テ傳達シタ時ハ再ヒ復唱シ若シ書簡ナラハ受領證ヲ出ス
- 3、服務中ニ於テ知り得タ情況及遭遇シタ事件等ヲ報告ス

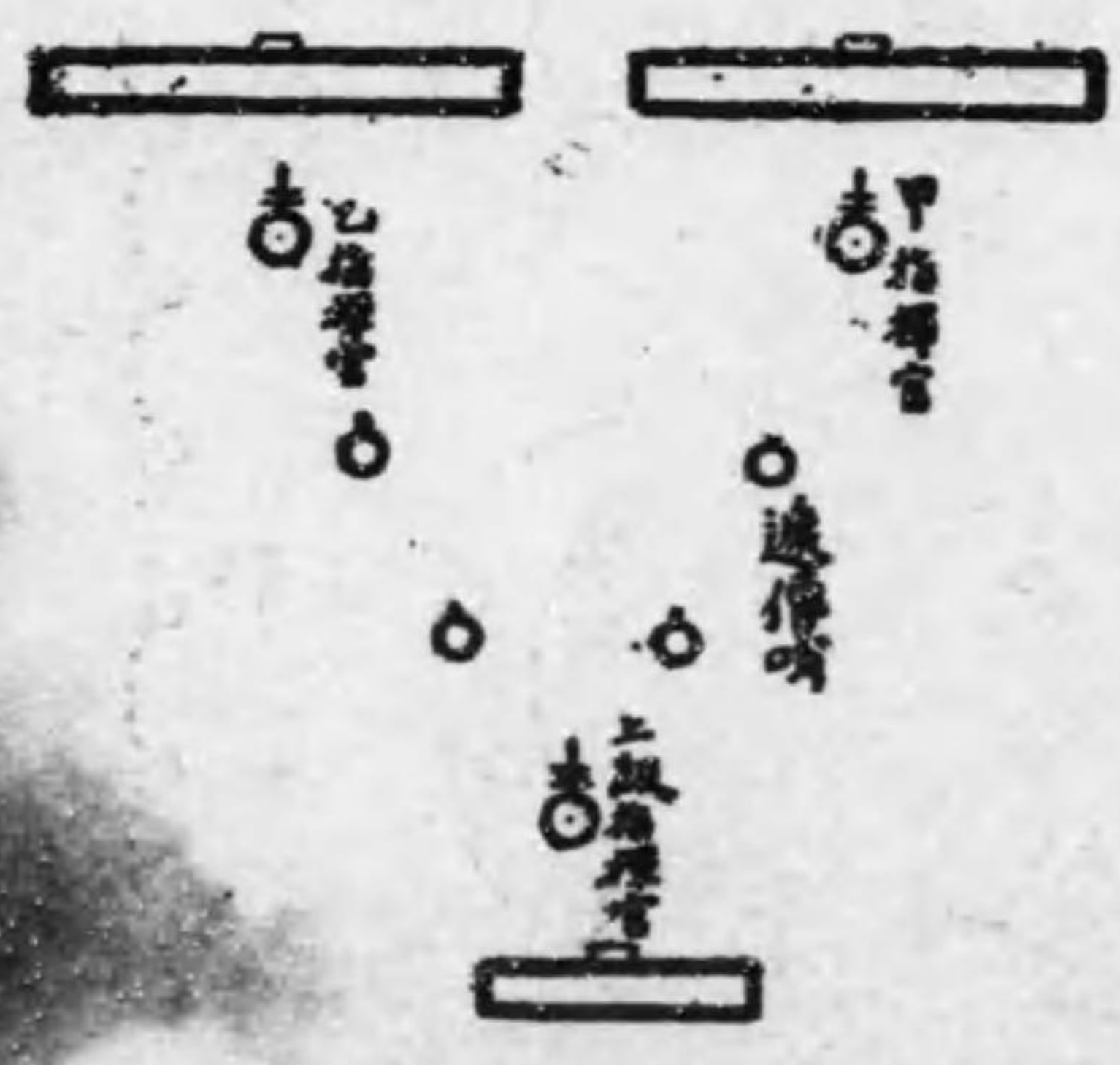
七、停止間ノ遞傳

遞傳トハ順次ニ事物ヲ傳送スルコトヲ云フ、戰場ニ於テハ前方部隊ト後方部隊又ハ隣接部隊相互間ニハ電信電話其他記號等テ連絡スル外ニ遞傳ノ方法ニ依ルコトカ多イ殊ニ歩兵部隊内其他小部隊内ノ連絡ニハ此ノ方法カ確實ニシテ簡單ナル

右ノ場合ニ遞傳哨ハ其位置ニ於テ音聲ヲ以テ遞傳スルモノテ又遞傳哨ハ連絡ヲ兼ヌル

八、指 導

- 1、最初圖ノ如ク訓練生ヲ配置シテ遞傳法ニ依リ簡單ナル句ノ傳達法ヲ行フ距離ハ十二、三



適當トス

先ツ甲地ヨリ發信シ第一傳令ハ之ヲ復唱シ第二傳令ニ傳ヘ逐次此ノヤウニシテ乙地ニ至ル其間助手ヲシテ誤リヲ直サセル

甲乙二班ニ分ケ傳令競争ヲ行フ

ロ、熟練スルニ從ヒ漸次距離ヲ隔離シ辭句ヲ複雑ニシ移動傳達ヲ行フ等ノ順次ニ依ル

第二款 連絡

一、連絡ハ甲乙丙等ノ相互部隊間ニ命令、報告、通報ヲ傳達スル爲メ設ケルモノテ停止間ト行進間ニ依リ其方法ヲ異ニスル

1、停止間ノ連絡 傳令ノ部ニ記述セルモノニ同シ

2、行進間ノ連絡 其前方ニ行進スル軍隊ニ對シテ連絡スルヲ原則トスル
行軍警戒ニ於テ尖兵ハ後方ニ連絡ヲ

取ル之レ尖兵ハ斥候群ト見做シ斥候



00

00

00

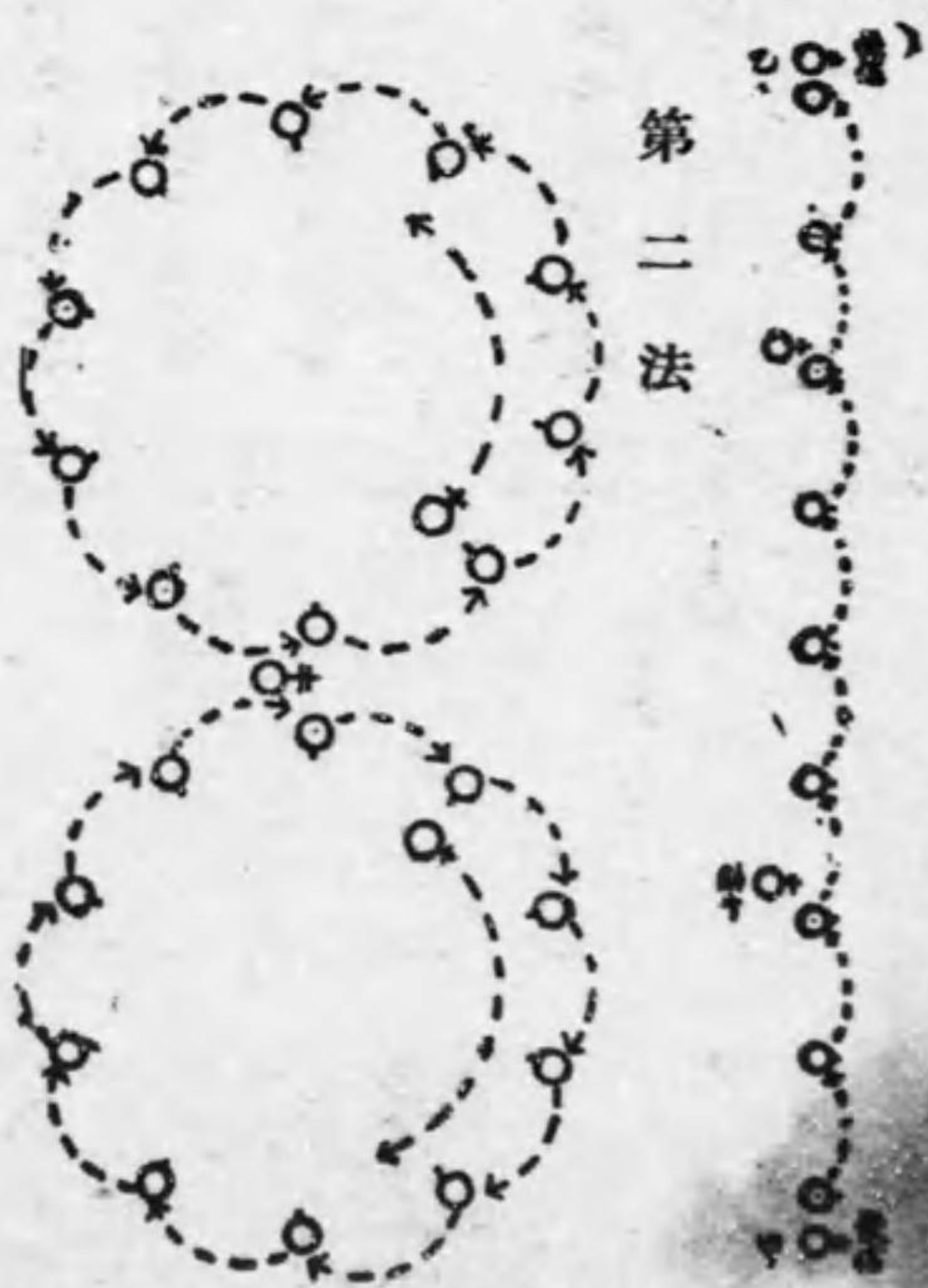
00

00



00

第一法



ト同様ニ本隊ニ連絡スヘキテアルカラテアル

3、連絡兵ノ動作

イ、多數ノ連絡兵ヲ配置シタトキハ長ク置キ其ノ長ノ指揮ニ依リ動作スル

ロ、連絡兵ノ距離ハ狀況ニ依リテ變化アルモ晝間ハ通常百米トシ掩蔽地殊ニ夜間ハ短縮シ開豁地ヲ伸長ス

ハ、連絡兵ハ通常二名ヲ以テ一組トシテ配置ス

ニ、岐路アルトキハ前方部隊ヲ見失ハヌコト及後方部隊ト連絡ヲ失ハヌコトニ注意シ一名ハ岐路ニ止マリ後方トノ連絡ヲ確實ニスル

ホ、道路上ニアツテハ成ルヘク通視ニ便ナル位置ヲ行進ス

ヘ、時々前後ヲ通視シテ連絡ヲ失ハヌコト

ト、連絡兵ノ必要カナクナレハ命令ナクモ速ニ原隊ニ復歸シ其旨報告ス

例ヘハ行軍ヨリ戦闘隊形ニ移ル場合、又ハ戦闘中ノ連絡ヲ突撃ニ移ル前等

チ、互ニ認識シ得ル標識ヲ附スルヲ可トス

リ、連絡兵ニ遞傳ヲ兼テ居ルカラ記號又ハ音聲ヲ以テ連絡ヲトルモノテアル

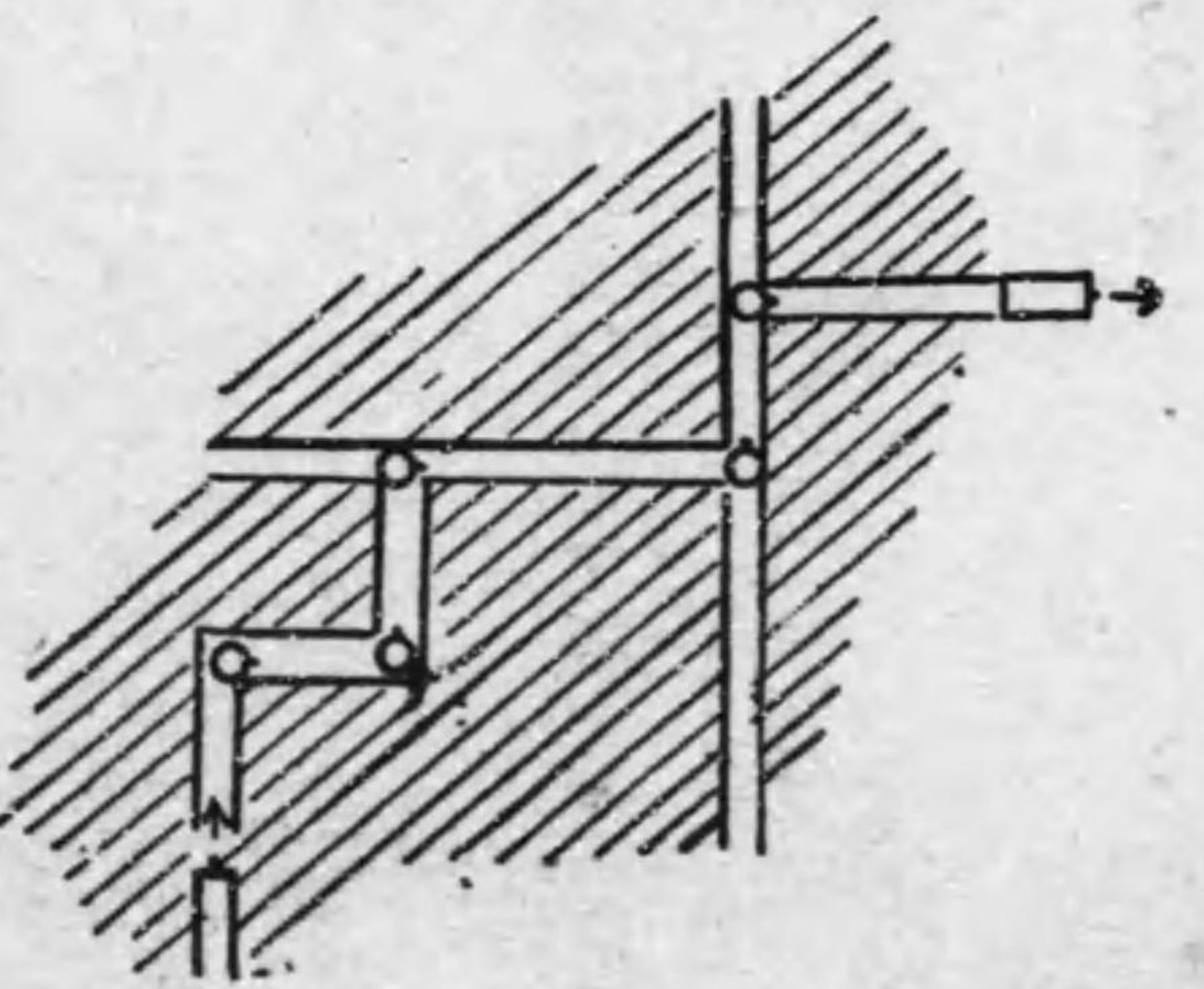
二、指導要領

1、行進間ニ於テ連絡ヲ確實ナラシムル法

- イ、前方及後方ノ動作ニ注意ス
- ロ、前方部隊停止セル時ハ後方部隊ヨリ出サレタ連絡兵ナル時ハ前方ヨリ距離ヲ取ルヲ以テ各々其位置ニ停止シ後方部隊ニ報告ス
- ハ、後方部隊停止スル時ハ前方部隊ニ從ヒ前進シツツ前方部隊ニ通報ス
- ニ、掩蔽地等テ連絡困難ナル時ハ前方連絡兵ハ後方連絡兵ニ岐路等ノ判明スル如ク若干停止シテ屈曲方向ヲ確知セシメ後前進ス
- ホ、前方或ハ後方ヨリ命令通報等カアツタ時ハ傳達方向ノ連絡兵ヲ呼ヒ（靜肅ヲ要スル場合ハ急進、或ハ停止シテ）傳達ス

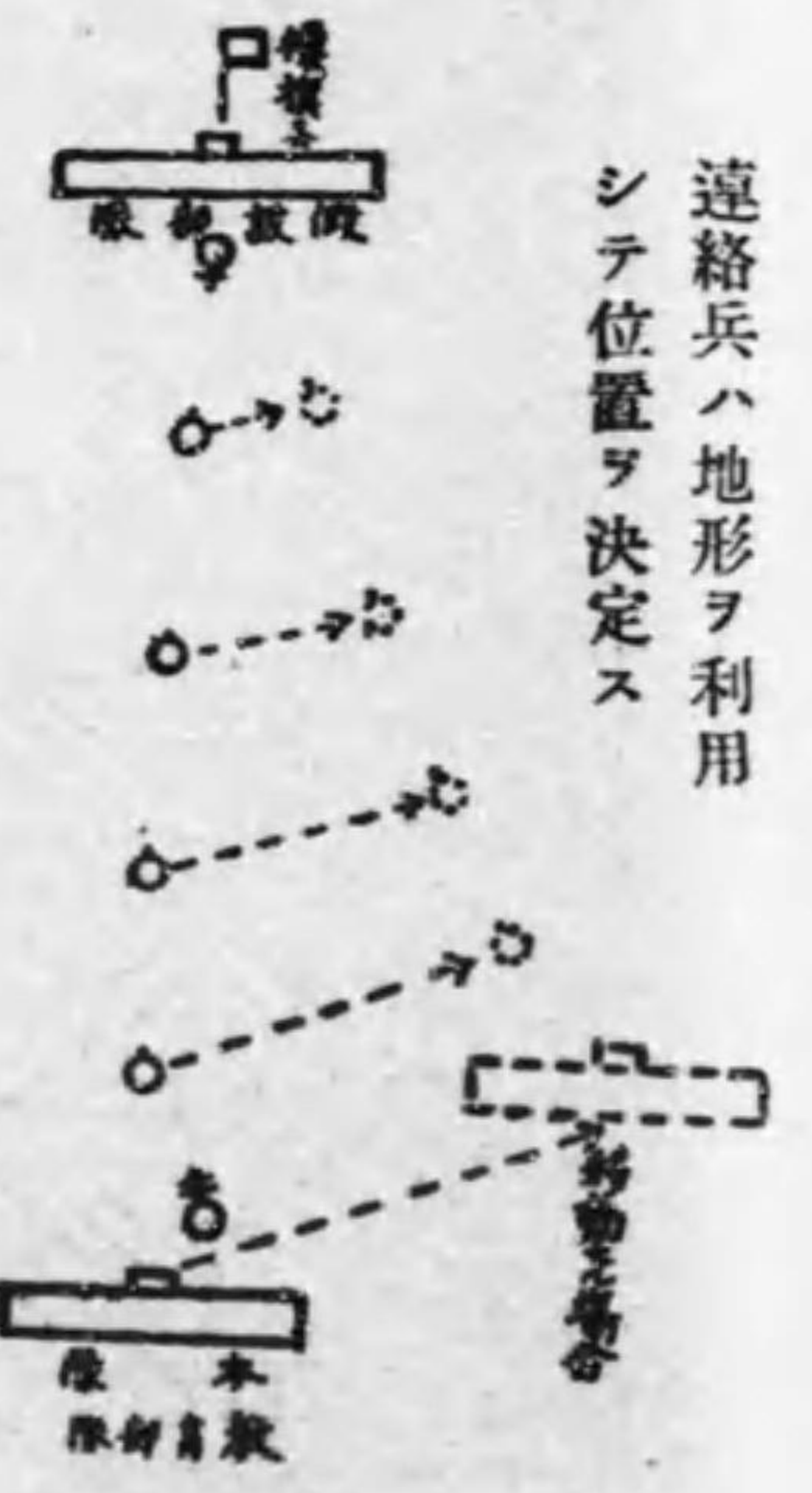


ハル連絡兵ノ停止時ニ於テハ
連絡兵トシテ位置ル



2、停止間ノ連絡法

イ、戦闘間等ニ於ケル連絡兵ハ前後ノ部隊間ニ位置シ部隊ノ移動ニ從ヒ共ニ其位置ヲ變更シ確實ニ連絡ス



連絡兵ハ地形ヲ利用シテ位置ヲ決定ス

- ロ、姿勢ハ立姿、膝姿ヨリ逐次伏姿ニ至ル
- ハ、言葉ノ傳達法ハ停止間ノ遞歩哨ニ同シ
- ニ、言葉ハ文句ヲ其儘記憶セシムルコトナク意義ヲ記憶セシムルコトヲ努ム、又解シ難イ言葉ハ成ルヘク用ヒナイコト

3、連絡兵ノ教育順序ノ大要次ノ如シ

- イ、間隔ヲ開キテ遞傳哨ヲ置キ傳令動作ヲ教育ス
- ロ、停止間ノ連絡兵戦闘間ニアリテハ隊ノ移動ニ伴ヒ其位置ヲ變更ス
- ハ、行進間ノ連絡兵ハ停止間ノモノニ比シ前後ニ注意スルヲ要ス
- ニ、地形ハ平坦開豁地ヨリ漸次掩蔽不齊地ニ及ホス
- ホ、姿勢ハ立姿ヨリ膝姿、伏姿ニ明暗ハ晝間ヨリ漸次夜暗ニ及ホス

第四節 搜索、警戒

目的

注意力ト慧敏ノ性情トヲ練リ献身のノ精神ト自主自立心トヲ養ヒ協同ノ美習ヲ助成シ且常ニ備アルノ用意ヲ堅クセシムルヲ主トス

第一款 搜索（斥候）

一、一般ノ要領

- 一、斥候ノ任務 斥候ノ任務ハ軍ノ耳目トナリ敵情ヲ探知シ機ヲ失セス報告スルモノテアル故ニ斥候ノ任務ハ頗ル重大ナルモノテ軍ノ運命ニ關スルモノテアル
- 二、斥候ノ性質 斥候勤務ニ當ル者ハ慧敏、熱心、沈着、剛膽ナルヲ要ス
敏慧ナルモノハ未知ノ土地テ能ク其地形、方位、道路ヲ知り
熱心ナモノハ久シキニ耐ヘ勞ヲ覺エナイ
沈着ニシテ剛膽ナモノハ不意ノ事ニ驚カス危險ナコトカアツテモ猶ホ能ク脱逸ノ方法ヲ求メ得ルモノテアル

三、斥候出發時ノ動作

- 1、斥候長ハ任務ヲ復唱シ部下ニ之ヲ示シ必要ノ注意、約束ヲ定ム、例ヘハ搜索ノ順序方法ヲ定メ行進路、目標、時間、目的地到着後ノ處置等ヲ示シ又相互ノ進退ニ關スル約束ヲ定ム
- 2、服装ノ整備 軍裝ノ検査、彈藥ノ補充、裝填ヲナス
- 3、所要ノ區分ヲナス
- 4、時計ヲ指揮官ノ時間ニ合ス

四、搜索法

- 1、斥候ノ搜索ハ視察ヲ以テ主要ノ手段トナスモ敵ノ斥候若クハ小隊ニ對シテハ任務情況ノ許ス範圍テ攻勢的ニ動作スルカヨイ
- 2、斥候ハ情況ノ許ス限り成ルヘク道路ニ依ツテ行動シ一ノ地點ヨリ他ノ地點ニ逐次躍進シテ搜索ス
- 3、斥候一度敵ト接觸シタトキハ其任務ニ妨ケナキ限り其行方ヲ失ハヌコトカ必要テアル
- 4、斥候ハ時々駐止シテ音響ヲ聽キ能ク地形ヲ知ルヲ要ス之レ敵ニ對スル微候判斷ヲナシ早ク敵ヲ發見シ或ハ地形ニ就テ敵情ヲ察知シ且時々嚮導トナリ得ル爲テ又要スルニ往路ト異ル歸路ヲ

取り敵ニ中斷サレル危険ヲ避ケルカヨイ

五、敵兵ヲ發見シタ時ノ動作

5、敵意ノアル地方テハ大キナ住民地ヲ再ヒ通過シナイ又村内圍牆内ニハ長ク留ラナイ

1、地物ヲ利用シ身體ヲ遮蔽スルコト

2、速ニ他ノ兵ニ知ラセル

3、沈着シテ觀察シ敵情ヲ判斷ス

イ、斥候ナルカ歩哨ナルカ部隊ナルカ及其兵種人員

ロ、敵ノ行動殊ニ猶豫セハ我軍ノ危険ヲ生スル虞ナキヤ

ハ、敵ハ我ヲ發見セシヤ否ヤ

4、爾後ノ處置ヲ考究ス

イ、報告ヲ要スヘキヤ否ヤ

ロ、敵斥候撃退スヘキヤ否ヤ或ハ尙後方ニ進入スヘキヤ等

六、斥候射撃ヲ要スル場合

斥候ハ己ムヲ得ヌトキノ外射撃シナイカ良イ之レ射撃ハ己ノ位置ヲ敵ニ知ラセ却テ其注意ヲ引ク

カラテアル己ムヲ得ヌ射撃ヲ行フ場合ハ概ネ次ノ如クテアル

1、任務ヲ達成スル爲射撃ヲ以テ敵ヲ撃退スルヲ要スルトキ

2、自己及味方ノ危急ヲ避ケントスルトキ

3、戦闘間ニ出サレタル斥候

4、報告ノ餘裕ナク射撃ノ音ヲ以テ報告ニ代ヘルトキ

一一、各種地形ニ於ケル斥候ノ躍進搜索

一、蔭蔽地及開豁地

1、蔭蔽地通過ノ注意

イ、相互ノ連絡ヲ失ハヌコトニ注意シ協同動作ノ出來ル限り間隔ヲ開クコト

ロ、道路、空地等ニ出タトキハ前後左右ニ注意シ連絡ヲトルコト

ハ、時々停止シテ音響等ノ徴候ニ注意スルコト

2、蔭蔽地ヨリ開豁地ニ出ル動作

イ、出口ニテ遮蔽シテ前方ヲ觀察シタ後(要スレハ斥候長ノ命ニヨリ)前進ス

3、開豁地通過ノ注意

- イ、急速ノ歩度ヲ以テ一進一止スルヲ可トス
- ロ、前進ハ敵方ヲ監視スル爲可成交互ニ行フカヨイ
- 4、開豁地カラ蔭蔽地ニ入ルトキノ注意
- イ、其入口ヲ能ク觀察スルコト
- ロ、要スレハ先ツ其一人ヲ安全ナル方面ヨリ侵入セシム

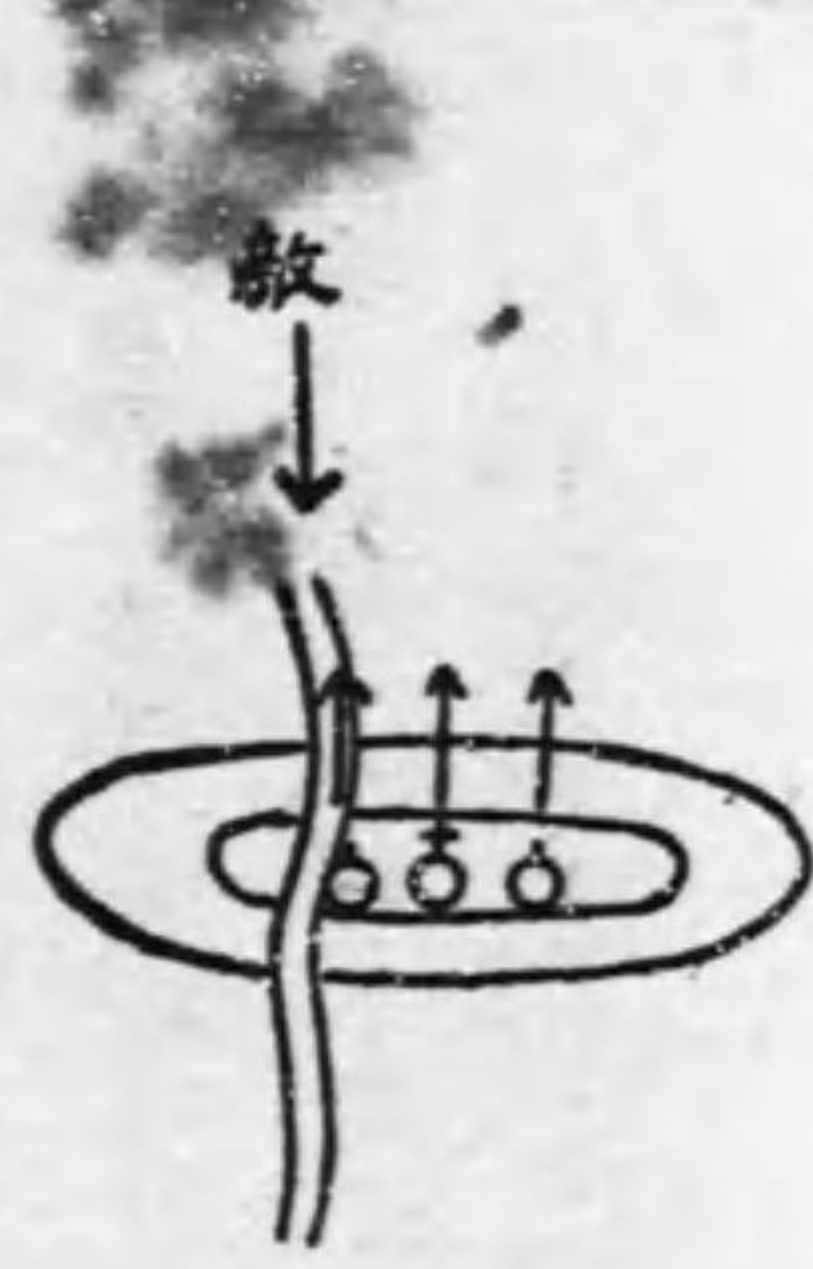
二、隘路

- 1、前岸ヲ能ク觀察スルコト
- 2、要スレハ其一人ヲ前岸ニ急進セシメ他ノ者ハ射撃ヲ以テ變ニ應スルノ準備ヲナス
- 3、短キ隘路ハ速ニ通過シ長キ隘路ハ速キ歩度ヲ一進一止スルヲ可トヌ
- 4、前岸ニ先着シタル者ハ記號ヲ以テ斥候長ニ報告シ他ノ者ハ速ニ前岸ニ進出スルコト

三、高地

- 1、高所ヲ選ヒ展望スルハ斥候觀察ノ爲最モ適當テアルカ敵ニ我身體ヲ現ハサナイコトニ注意スルカヨイ
- 2、高地ノ通過法ハ左ノ要領ニ依ルカヨイ

イ、獨立シタル小高地



一旦後方ニ降り後
側方ヨリ前進ス



側方ヲ迂回出來サ
ル時ハ敵側ノ斜面
ヲ急速ニ下ルヲ可
トス



最高所ヲ行進セス敵ニ反對ノ斜
面ヲ行進シ時々敵側ヲ觀察ス

三、斥候ノ偵察及報告

一、報告スヘキ場合

- 1、初メテ敵ヲ發見シタルトキ
- 2、有力ナル部隊特ニ歩兵ト遭遇シタルトキ
- 3、情況ノ激變シタルトキ
- 4、某目的又ハ一任務ヲ達成シタルトキ

5、斥候歸還シタトキ

二、偵察並ニ報告スヘキ要件

1、報告ニハ左ノ諸項ヲ述フルヲ要ス

時刻 (イツ)

場所 (ドコデ)

兵種 (何カ)

員數 (何程)

動作 (何ヲシテ居ル)

2、地形、地物ノ偵察ヲナスニハ次ノ諸項ヲ注意スルヲ要ス

道路 路幅、傾斜、屈曲點ノ景況、土質、橋梁ノ強弱等

河 河幅、兩岸ノ景況、水深、流速河底ノ性質、渡船場、徒涉場及水深

村 戶數、家屋ノ種類村端ノ景況

森林 林縁ノ景況、林内通過ノ難易、蔭蔽ノ度、樹木ノ種類大サ

橋梁 橋ノ強弱、橋幅、橋ノ種類

四、駐軍間ノ斥候

一、一般ノ要領

1、地物ヲ利用シテ潛行シ殊ニ靜肅ナルヲ要ス

2、屢々停止シテ徵候ニ注意スルコト

3、地形ヲ暗識シ地形ヲ解説シ得ルコト

4、要スレハ往路ト異ナル歸路ヲ擇ヒ敵ニ退路ヲ斷タレサルコト

5、素リニ時間ヲ空費シ定メラレタル時刻ニ遅レサルコト

二、歩哨線通過ノ際ノ動作

1、歩哨ニ斥候ノ任務及經路ノ概要歸路竝ニ歸ル時刻及場所ヲ告知スルコト

2、歩哨ヨリ其ノ見聞シタ新情況ヲ聞クコト

3、歩哨ノ位置ノ出入ニ際シ敵ノ注視ヲ避クルコト

4、斥候長ハ斥候兵ノ區分ヲナシ要スレハ前進目標ヲ示ス

5、敵地ニ於テ分離セシ時ノ集合地ヲ指示ス

6、歩哨線ニ歸還セル時歩哨ニ敵ト誤認セラレヌコトニ注意ス

五、行軍間ノ斥候

- 一、一般ノ要領、行軍間ノ斥候隊ハ我本隊モ行進シアルヲ以テ潛行スルヨリ口迷ニ敵ヲ見コトニ努ム
- 二、前進行ノ斥候ハ本隊後方ヨリ續行スルヲ以テ躊躇スルコトナク前進スルコト
- 三、追撃ノ斥候ハ敵ノ踪跡ヲ失ハヌコトカ必要ナル
- 四、退却行ノ斥候ハ敵ノ前進ヲ妨害シ敵ト離ルルコトニ努ムルコト

六、特種斥候

- 一、歩哨線前ニ駐止スル斥候
歩哨配布ノ掩護、歩哨線前ノ地域ヲ監視スル等ノ爲某地點ニ駐止シテ監視シ敵ノ斥候ヲ驅逐シ敵ノ搜索ヲ妨害ス
- 二、潛伏斥候
一地ニ潛伏シテ敵ヲ捕獲シ或ハ某期間ノ動靜ヲ監視スル等ノ任務ニ服ス故ニ敵ヲ接近セシメ又ハ通過セシム
- 三、戰鬪間ノ斥候

戰鬪間敵情偵察、陣地前ノ警戒並ニ側方ノ警戒ニ任スル

七、指導

斥候ノ教育指導ハ各種ノ情況地形任務ニ應シ各々特徴ヲ有スルヲ以テ普通一般ニ適用セラルル諸動作ヲ演練シ各人ノ熱心ナル研究ト努力ニ依リ應用動作ヲナスコトカ出來ルモノテアル

一、情況ノ例

注意 地名、街道名、河川名、山地名、方位等ハ其地方ノ名稱ニ當テハメ情況ヲ若干修正セラタシ
又()内ハ主トシテ説明ナレハ之ニ基キ諸種ノ現況ニ適スル情況ニ修正スヘシ()内ノ事項迄指示スルノ要ナシ

イ、行軍ノ場合

イ、行進路上ニ出サレタル斥候

尖兵長命令

一、飛行機及砲兵ヲ有スル敵ハ今朝日村(約十里内外トスルヲ可トス)ヲ出發シ()内ノ事項迄指示ナリ
進中ニシテ其騎兵部隊ハB川(約ソ彼我現在地ノ中央附近ノ河川)ヲ渡リ()内ノ事項迄指示ナリ

我支隊(大隊)ハ敵ヲ攻撃スル目的ヲ以テC地(敵ト衝突スヘキ土地附近)ニ向ヒ前進ス

中隊ハ尖兵中隊トナリ何々街道ヲ前進ス

二、小隊ハ尖兵トナリ中隊ノ前方四百米ヲ前進ス

三、某ハ斥候長トナリ三名ヲ率キテ尖兵ノ前方約百五十米ニテアリテ前進スヘシ

四、某ハ連絡長トナリ五名ヲ以テ中隊ト連絡スヘシ

五、某外三名ハ第二斥候トナリ小隊長ニ從ヒ來レ

六、某(助手)ハ尖兵ヲ引率シ前進スヘシ

七、餘リハ尖兵ノ前方百米ヲ行進ス

某ハ傳令トナリ尖兵長ニ續行セヨ (終リ)

側方ニ出サレタル斥候

尖兵中隊長命令

一、敵情其他前ニ同シ

二、中隊ハ尖兵中隊トナリ何々街道ヲ前進ス

三、某ハ四名ヲ率キ側斥候トナリ尖兵ト連絡シツツ某地某村ヲ經テ某所ニ向ヒ前進シ(某點

ニ於テ本隊ニ合セヨ) 特ニ某村ヲ搜索スヘシ

信號手一名ヲ附ス

2、前哨ノ場合

駐止斥候

中隊命令(前哨中隊)

一、敵ハ約三里前方某地附近ニ停止シアルモノノ如シ

我支隊ハ本夜B村附近ニ露營ス大隊ハ前哨トナリB村(A村ノ前方約五六百米)ニ位置シ何處ヨリ何地迄ニ渡ル間ヲ警戒ス

二、中隊ハ前哨中隊トナリ現在地(前哨本隊即チ大隊ノ前方約四、五百米)ニ位置シ某地ニ渡リ(約七、八百米)ノ正面ヲ警戒ス

三、某ハ二個分隊ヲ率キ第一小哨トナリ某地附近ニ至リ何々方向ニ對シ何々間(正面約二、四百米位)ヲ警戒スヘシ

四、某ハ四個分隊ヲ率キ第二小哨トナリ某地附近ニ至リ何々方向ニ對シ何々間(正面約二、四百米位)ヲ警戒スヘシ

六百米位)ヲ警戒スヘシ

五、某ハ三名ヲ率キ駐止斥候トナリ直チニ出發某地附近(前哨線ノ前)ニ至リ地形有利ナル處アレハ距離ハ多少遠近ノ差ヲ生スヘシ)ニ至リ前哨ノ配置ヲ變更ハ後刻命令ス

六、某……………(右同)

七、某ハ此附近ニ於テ前哨抵抗線(前哨カ敵襲ヲ防止スル線ニシテ通常工事ヲナス)ノ偵察ヲナシ工事ヲ實施セヨ

八、某ハ露營地ノ設備ヲナシ報告要圖ヲ調製スヘシ

九、某ハ給養ノ補給及炊事ノ指揮ヲナスヘシ

○、除リハ小哨ノ位置ヲ巡視ス

某ハ命令トナリ余ト共ニ來レ (終リ)

ロ、潜伏斥候ノ例

命令

一、敵ハ前方約二里某地附近ニ露營シアリ其ノ斥候ハ前面ノ森林附近ニ出沒ス

二、中隊ハ明拂曉迄現在地ニアリテ敵情ヲ偵察セントス

三、某ハ斥候長トナリ四名ヲ率キ何々附近ニ潜伏シ敵情ヲ搜索スヘシ

四、某ハ……………(右ニ同シ)

斥候ノ例ノ一(歩哨線偵察)

小哨命令

一、敵ハ某地附近ニ停止セルモノノ如ク其後ノ情況不明ナリ

二、某ハ斥候長トナリ三名ヲ率キ某方面ノ敵情ヲ搜索シ特ニ歩哨線位置ヲ内偵シ今ヨリ二時間ノ後歸還スヘシ

歩哨線ノ通過ハ往路ハ第一復哨ヲ通過シ歸路ハ第三復哨ニ至ル如クスヘシ

ニ、斥候ノ例ノ二(歩哨線内ノ偵察)

小哨命令

一、敵ノ歩哨線ハ某地ヨリ某地附近ニ渡リ警戒シアリ敵ノ歩哨線内ニ於テ入馬アルモノノ如シ

二、某ハ斥候長トナリ部下三名ヲ率キテ成ルヘク歩哨線ヲ通過スヘシ

知シ夜半頃迄ニ當所ニ歸還スヘシ

3、戦闘ノ場合

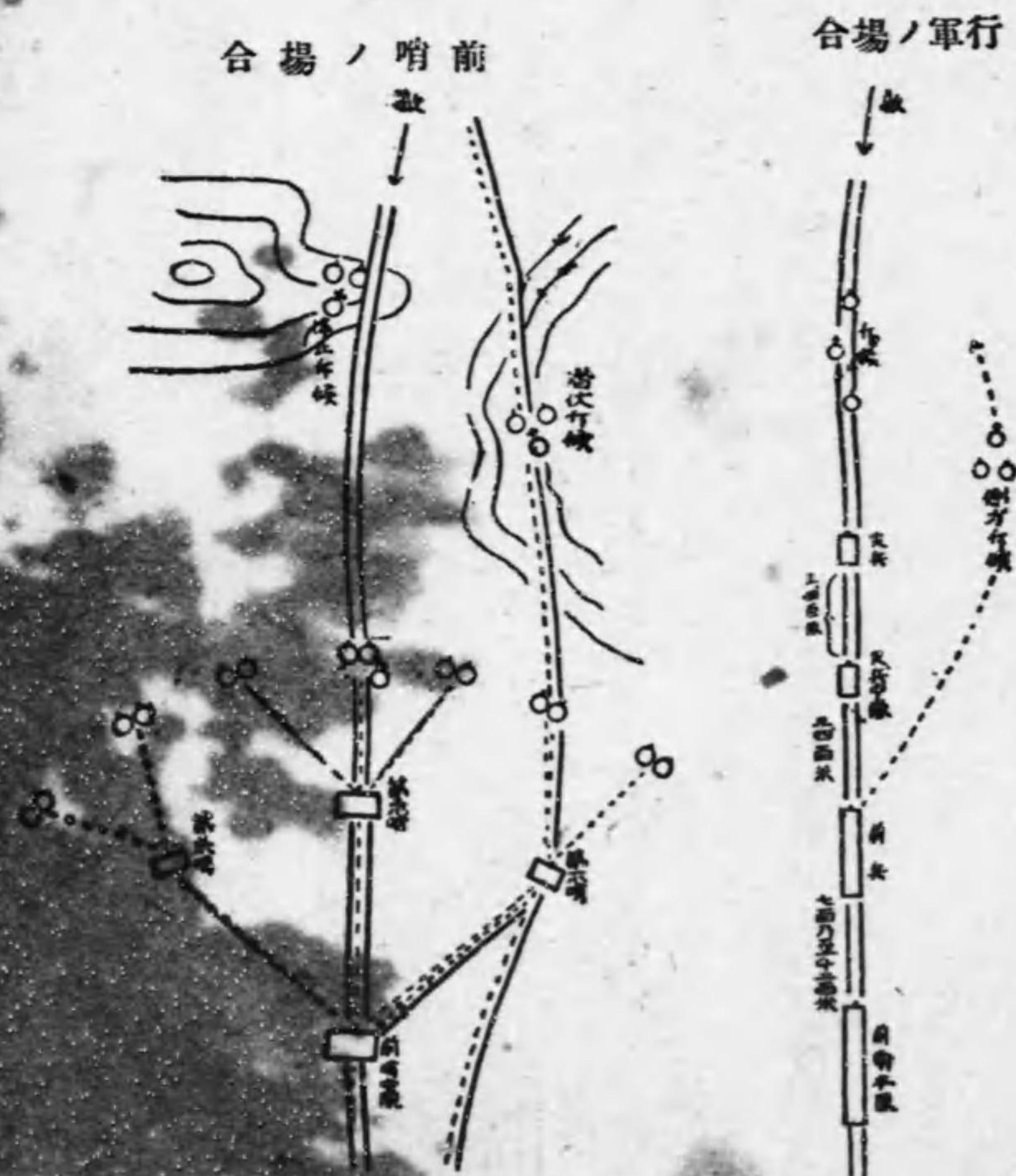
、接敵運動ニ於ケル斥候

中隊命令

- 一、敵ノ陣地ハ前方約一里何々ノ線ニアリ
大隊ハ此敵ヲ攻撃スル目的ヲ以テ何々ノ線ニ向ヒ前進ス
- 二、中隊ハ何地附近ヲ占領シ大隊ノ展開ヲ掩護セントス
- 三、某ハ斥候長トナリ部下四名ヲ從ヒ前面ノ敵情及地形殊ニ敵陣地ノ状態（其正面幅、深サ、障害物ノ有無）等ヲ偵察シ速カニ報告セヨ
- 四、某ハ斥候長トナリ部下三名ヲ率キ中隊ノ進路ヲ前進シ中隊ノ直接警戒ヲナシ且障碍ニ對シ報告セヨ
- ロ、交戦中ノ斥候
- 中隊命令
- 一、我レト交戦中敵ハ稍々劣勢ナルモノノ如シ

4、特別ノ目的ノ爲ニ行フ訓

- ス 中隊ニ報告スヘシ
- 二、某ハ三名ヲ率キ斥候長トナリ中隊ノ右側ヲ警戒シ且側方ヨリ敵情地形ヲ偵察シ機ヲ失セ
- イ、某家ノ六、七歳ノ兒童
午後二時頃某家ニ行キ歸
途行方ヲ失ヒタリ云々
- ロ、近來某山林方面ニ野獸
出沒シ家畜、畑等ノ被害
多シ殊ニ夜間ニ於テ夥シ
依テ野獸ノ居所ヲ搜索シ
云々
- ハ、兇暴ナル脱獄囚、山林
地内ニ逃走竄入シ人心不



安ニシテ安眠スルヲ得ヌ依テ其ハ各種ノ徵候ヲ應用シ云々

ニ、某中學校生徒五、六名昨朝天候不良ノ爲山上ニ於テ道ヲ失ヒ行方不明トナリ未タ發見スルニ至ラス云々

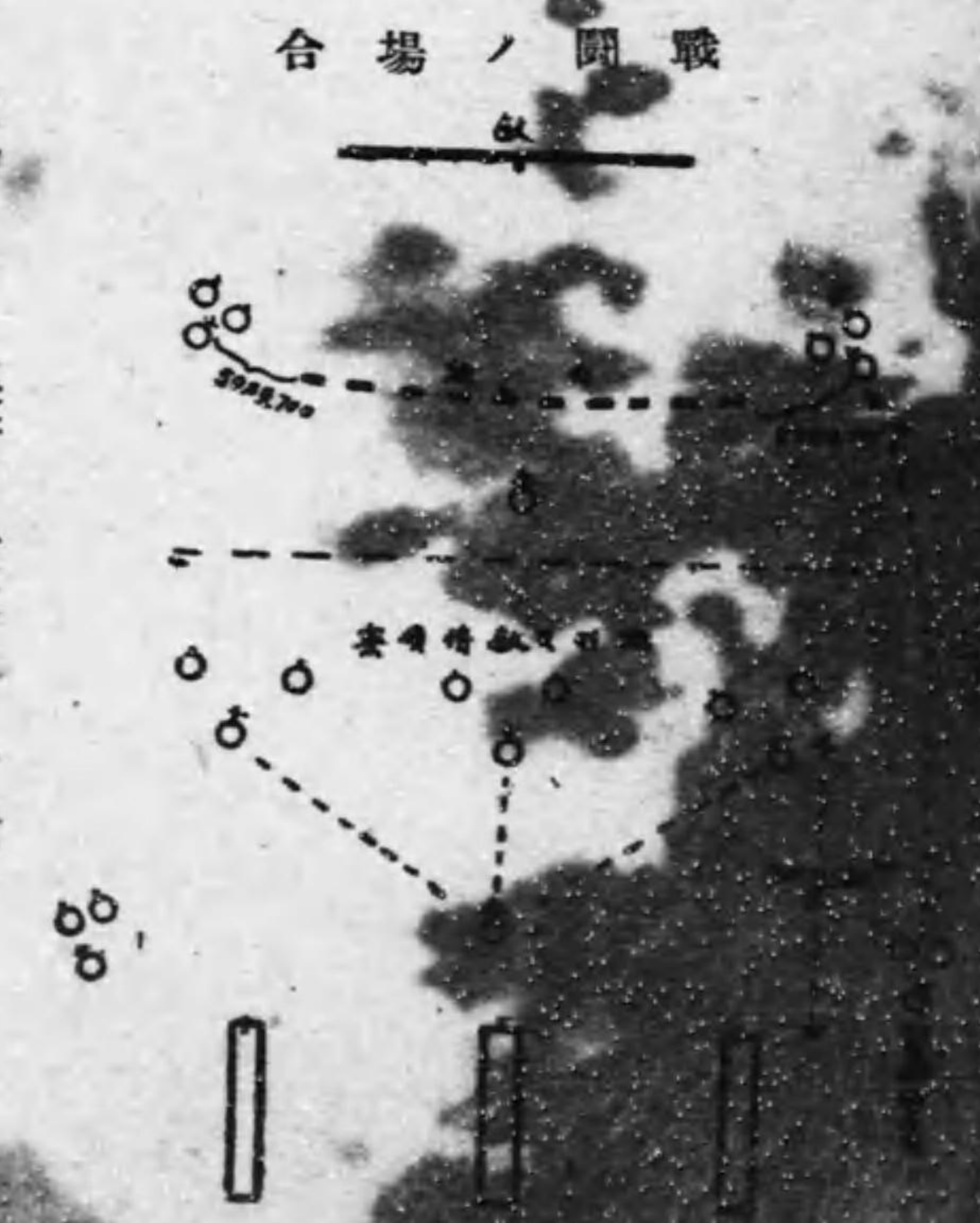
ホ、本日ノ災害（震災、出水、氾濫、火災其他ノ天災）ハ意外ノ大事ニシテ其被害甚大ナリ其ハ第一區ノ被害ヲ調査

速ニ報告セヨ其外何名ハ第二區内被害者ノ救助ヲナシ某所ニ收容セヨ、云々

導例

出發動作（第一款ノ第二參照）

イ、最初斥候長ハ助手ヲシテ行ハシム
ロ、停止間ニ於テ一通リ指導シ後行進間ニ行フ
ハ、見學者ニモ實施者ノ動作ニ付テ意見ヲ述ヘシム



見學者



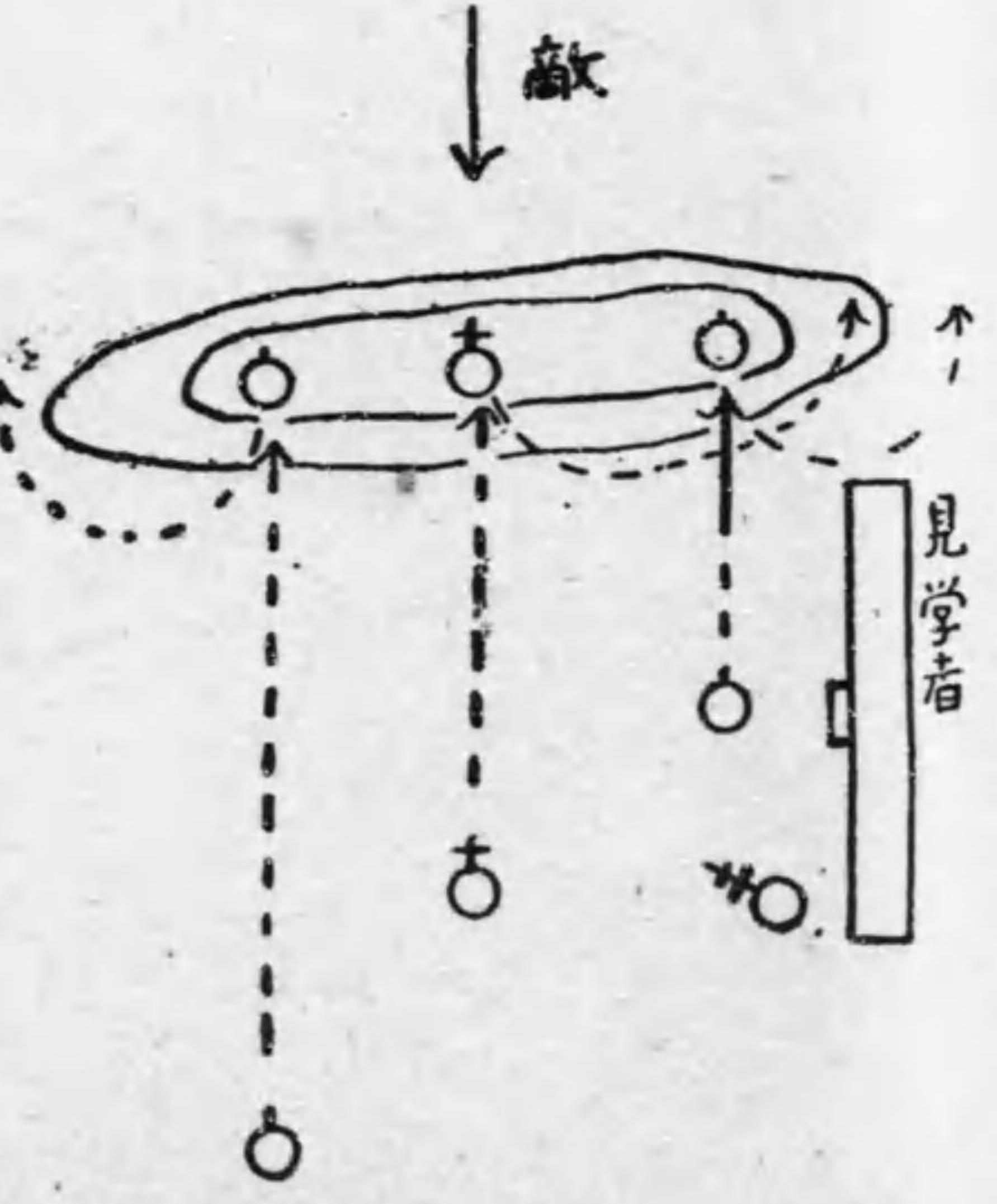
指導員



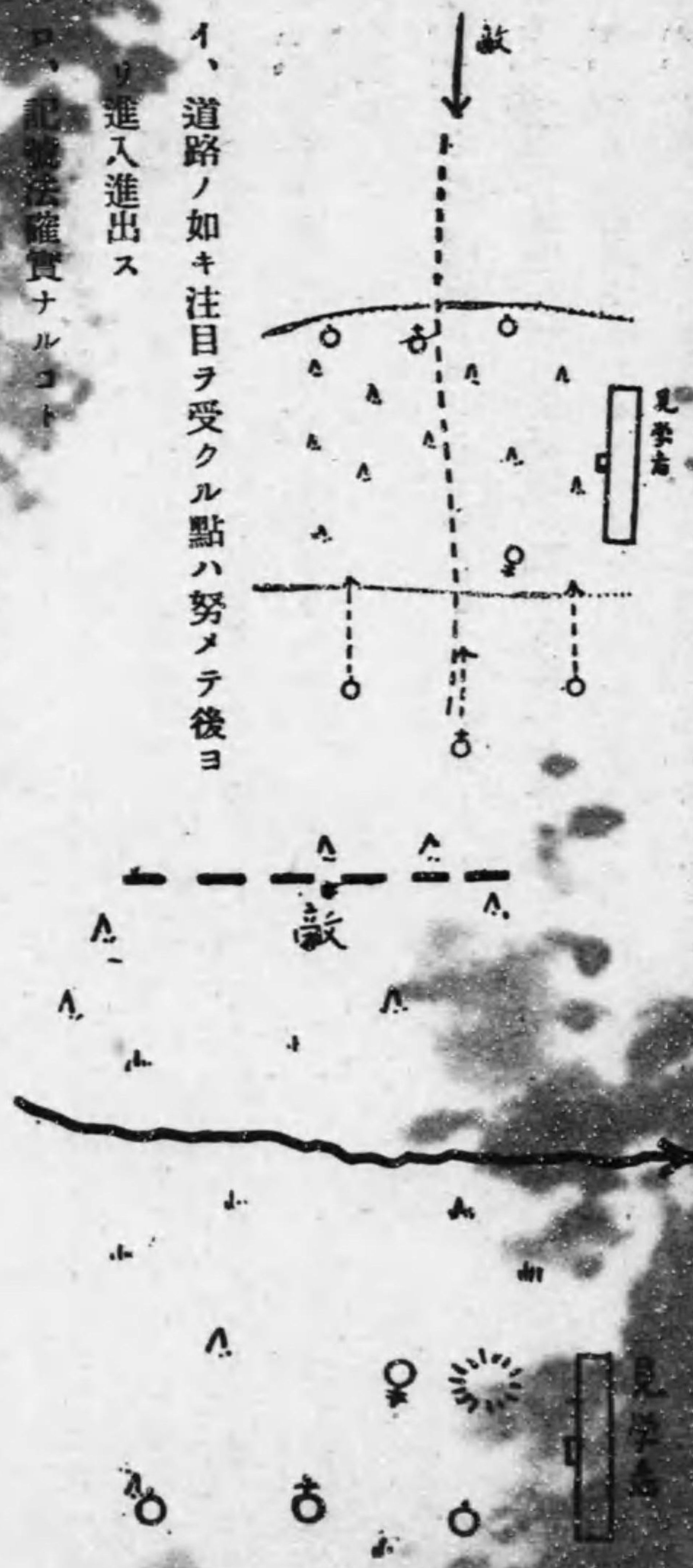
ニ、情況ヲ詳細ニ示シ之ニ適合スルコトニ注意ス

2、高地ニ達スル動作及高地ヨリ前進スル動作

イ、躍進ニ於ケル各人ノ連絡法適當ナルヤ否ヤ
ロ、高地ニ達シタル時地物ヲ利用シ敵ニ發見サレヌ様注意ヲナスノ動作適當ナルヤ否ヤ
ハ、前進ニ際シ一旦引退キ側方ヨリ敵ニ暴露セヌヤウニ前進スル動作
ニ、急變ニ應スル處置ヲナシアルコト



3、森林(掩蔽地)ニ進入及進出スル動作



- イ、道路ノ如キ注目ヲ受クル點ハ努メテ後ヨリ進入進出ス
- ロ、記號法確實ナルコト
- ハ、掩蔽地内ノ連絡ニ特ニ注意スルコト
- 4、敵ニ對スル動作及報告
- イ、假設的ノ設置及記號ヲ定メヨク其指導ヲ誤ラナイコト
- ロ、示シタル情況ト假設敵ノ動作ハヨク合致スルコトニ注意ス

ハ、假設敵ニ記號ヲ以テ動作セシメ其ニ對スル斥候ノ動作ヲナサシメ報告ヲ必要トスヘキ場合ニハ報告ヲナサシム而シテ見學者中意見アル者ニハ試問ヲナシ或ハ代リテ實行サセル等ノ方法ニ依リ教育ス

第二款 警 戒 (歩哨)

歩哨教育指導要旨

歩哨教育ハ各年次ニ依リ其程度ニ多少ノ差カアルカラ左ニ第二年次ヲ基準トスル場合ヲ掲ケ三、四年次ハ其程度ヲ高上シ且ツ特種動作ヲ附加スルヲ適當トスル人員カ多數ヲ全然區別シテ指導シ得ル場合ハ各々年次毎ニ指導員ヲ附シ實施スルヲ可トスルモ普通混合教育ヲ行フ場合多キヲ顧慮シテ立案シテアル

歩哨教育ハ僅カノ回数ト時間テ十分綿密ヲ指導ヲ行フコト困難ナルカラ指導員ニ其要點ヲ摘取シ貴重ナル時間ヲ最モ有利ニ使用スル如ク實施スルカヨイ往々長時間ヲ要シテ得ル所少メ弊害ニ陥リ易イモノテアル充分注意ヲ要スル

本立案ハ最初ノ三回ハ各個教育ヲ主トシ内第三回ハ若干ノ綜合ヲ加味シ第四回ハ小哨隊以下全部綜合ヲ主トシ必要ニ應シ部分教育ヲ行フ如ク計畫セリ而シテ時間ニ餘裕アル時ハ人員ノ都合ニ依リ

對抗演習ヲ實施スルカヨイ

第一回 歩哨教育

一、課目

- 1、歩哨ノ任務及守則ノ概念
 - 2、位置ノ設備、姿勢及銃ノ保持法
 - 3、歩哨ノ監視、徵候、注意、敵兵發見
 - 4、距離測量、地形ノ暗識
 - 5、歩哨線ノ通過ヲ許スモノノ處置
- 二、敵對時間 一時間半及至二時間
- 三、誘導 前方二、三百米ノ展望ヲ有スル遮蔽地ヲ求ム
- 村落 林縁(疎林)ヲ可トス
- 歩哨ノ任務及守則ノ概念、歩哨ノ位置ニ隊ヲ誘導シ左ノ件ニ就キ説明ス
- 1、歩哨ノ任務及守則ノ概念

着眼

イ、前哨ノ概要

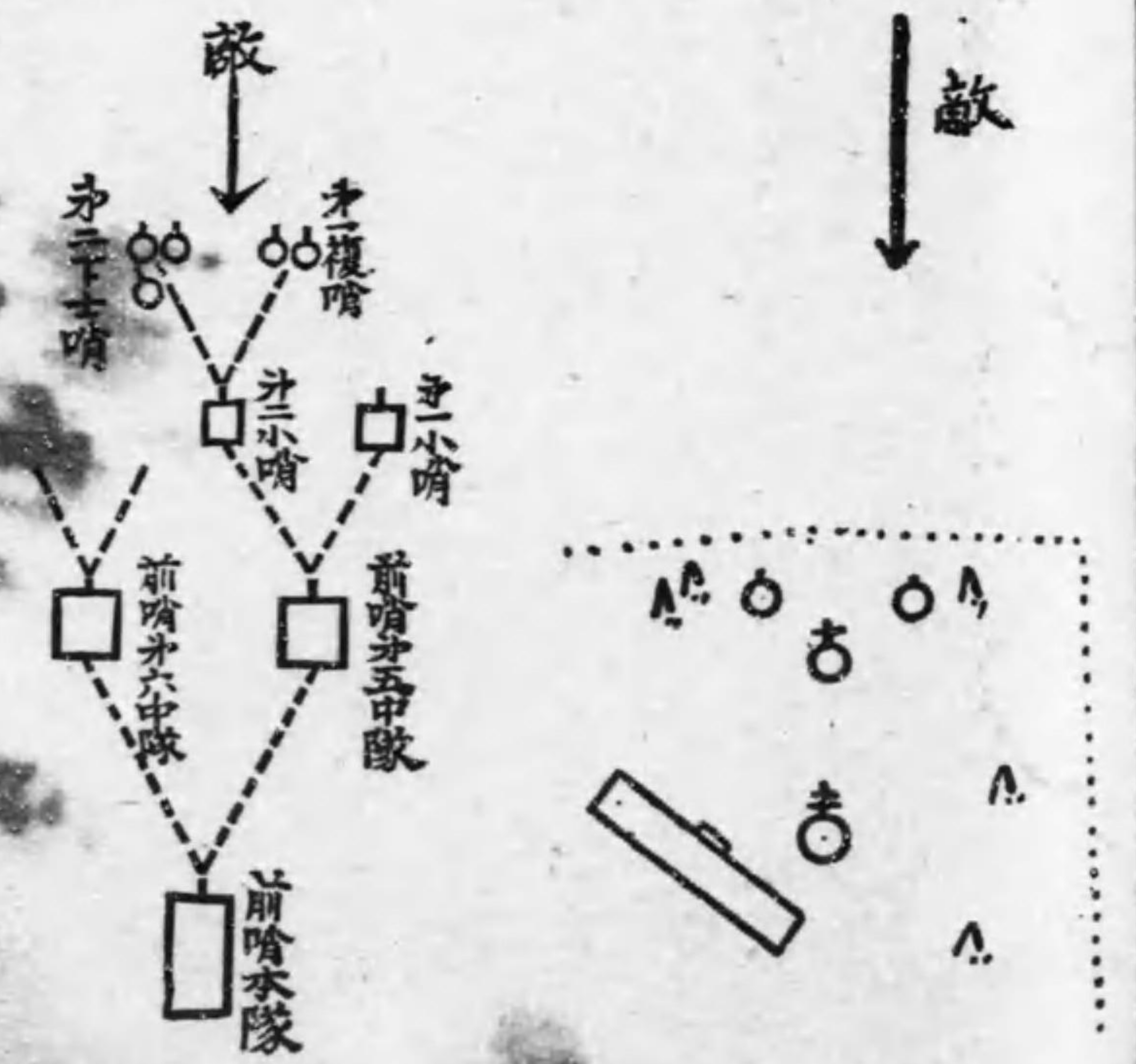
前哨トハ駐止ノ軍隊ヲ警戒スルモノテ前哨本隊及前哨隊一區分ノ前哨中隊ハ小哨ヲ小哨トシ、前哨下中隊ヲ出シテ警戒ス

ロ、歩哨ノ任務

歩哨ハ最前線ニ在ツテ敵方ヲ監視シ休止ノ軍隊ヲ安全ニスルモノテアルカラ其責任ハ頗ル重大テアル故ニ歩哨勤務ニ服シタモノハ一身ヲ以テ全軍ノ犧牲トナル覺悟ヲ要スル

ハ、歩哨ノ區別及番號

- 1、下士哨 下士ヲ長トシ哨兵以下其哨所ニ在ツテ警戒ス
- 2、複哨 (二人哨、三人哨、四人哨) 二人乃至四人ヲ立哨警戒セシム



ノ位置ヨリ引率交代セシム

3、番號 步哨ノ番號ハ各小哨毎ニ複哨ト下士哨トヲ通シテ右方ヨリ順次ニ番號ヲ一
下士哨等ト稱スル

ニ、一般守則 步哨ノ常ニ遵守スヘキ守則ハ次ノ如シ

1、步哨ハ絶エス敵方ヲ監察シ總テ疑ハシキ徵候ニ深ク注意シ

2、若シ敵ニツイテ發見セシコトアレハ步哨ノ一人カ小哨長ニ報告ス

3、若シ猶豫セハ危殆ニ陥ルト認メタル時ハ急射撃或ハ信號ヲ急報シ其一人ハ速ニ小哨長ニ

報告ス

4、敵ノ單獨兵又ハ二、三人ノ斥候ノ如キモノハ之ヲ殺スカ又ハ捕獲スルヲ可トス

5、又特ニ命セラレタル場合ノ外對空監視ヲ行ハス

6、晝間歩哨線ノ出入ヲ許スヘキモノハ我軍ノ將校、部隊、斥候、巡察及傳令ニ限ル、其他

ノモノハ凡テ小哨長ノ命ニ依ル

7、步哨ノ命スル所ニ從ハサル者アラハ之ヲ殺スカ又ハ捕獲スヘシ

8、自動車ハ之ヲ停止セシメテ取調フヘシ

9、夜間歩哨ニ近ツク者アラハ銃ヲ構ヘテ「誰カ」ト問ヒ三度呼フモ答ナキ時ハ直チニ殺スヘシ
凡テ其外ノ處置ハ晝間ノモノニ異ルコトナシ

10、白旗ヲ翻ヘシ遠方カラ明カニ軍使テアルコトヲ示シテ來ル者或ハ降參人ハ敵トシテ取扱
ハス歩哨線外テ敵方ニ向ケテ停止セシメテ小哨長ニ報告スヘシ此際無用ノ談話ヲ避ケ特ニ
敵ニ欺カレサルコトニ注意スヘシ若シ降參人ニシテ武器ヲ携帯シアルトキハ先ツ之ヲ放棄
セシムヘシ

11、步哨ハ喫煙シ又ハ銃ヲ手ヨリ離スヲ許サス又命令ナキトキハ坐臥スルコト能ハス銃ノ持
チ方ハ晝間ハ「立銃」「腕ニ銃」ヲナシ夜間ハ通常「擔銃」「提銃」又ハ「腕ニ銃」ヲナス
(要スルニ晝間ハ擔銃ヲ禁シ夜間ハ立銃ヲ禁ス)

步哨ハ上官ト問答スル時テモ監視ヲ中止シナイ様ニ敵方ニ面シテ應答ス

12、步哨ハ我歩哨線ヲ出發スル斥候ニ對シテハ其任務、經路、及歸來ノ時刻、場所等ノ概要
ヲ聽キ、自己ノ見聞セシ情況ヲ告ケ歸來セシ斥候ヨリ其見聞セシ事件ヲ聽キ取ル

ホ、特別守則 步哨ハ現地ニ於テ小哨長ヨリ其步哨ニ限リ守ルヘキ守則ヲ與ヘタル其項目ハ次
ノ如シ

項目

- 1、其歩哨ノ番號
- 2、敵情
- 3、前方ニアル我部隊及斥候ノ情況
- 4、必要ナル道路、村落等ノ名稱
- 5、特ニ監視スヘキ要地
- 6、隣歩哨ノ位置番號及之レトノ連絡ノ仕方
- 7、小哨ノ位置、之ニ通スル經路
- 8、敵襲ノ場合ノ處置
- 9、其他特ニ注意スヘキ事項

一四八 例

- 1、此歩哨ハ第二小哨ヨリ出テタル
- 2、敵ハ何々……………
- 3、何街道何川ノ橋附近ニハ我騎兵小隊停止シアリ又此前方A村ノ北端ニハ中隊ヨリ出テタル停止斥候アリ
- 4、此道ハ東海道此ノ前ニ見エル村ハA村其東ノ村ハB村
- 5、A村及其西側高地間ハ特ニ警戒スヘシ
- 6、此右二百米ノ道路上ニハ第一小哨ノ第二復哨在リ之トノ連絡ハ相互ニ動哨ニ依リ行フ此左東海道上ニハ第二小哨ヨリ出テタル第三下士哨在リ其連絡ハ下士哨ヨリ來ル
- 7、小哨ハ此後方三百米ノD村北端ニ在リ前哨第五中隊ハ其南方四百米E村北端ニ在リ其ニ通スル道路ハ此後方ノ道路
- 8、敵襲ニ際シテハ射撃ノ外煙火信號ヲナシ敵歩哨線前ニ來ルトキ何方向ヨリ小哨ニ引揚クヘシ
- 9、歩哨ハ晝間ハ此壕内ニ夜間ハ壕ノ後方ニ位置スヘシ等

ト 巡察ハ歩哨線内ヲ監視シ各哨所ヤ歩哨ヲ監視スルモノテアル又歩哨ヲ配置セヌ所ヲ搜索シ或ハ隣哨所トノ連絡ヲ取ル

實施

情況ノ下ニ假設敵ヲ設ケテ實際的ニ指導ス

命令

- 一、敵情前ニ同シ中隊ハ前哨トナリ〇〇ヨリ〇〇ノ間ヲ警戒ス
 - 二、小隊ハ小哨トナリ某地附近ニ位置シテ敵方ヲ警戒ス
 - 三、某ハ六名ヲ以テ第一復哨トナリ某地附近ニ至リ前方ヲ警戒セヨ
- 一、歩哨位置ノ設備、姿勢及銃ノ保持法(歩哨ハ歩哨掛引率ノ下ニ命セラレタル地點ニ至リ敵方ヲ警戒シ其位置ヲ假ニ定ム)

着眼

イ、監視設備、身體ヲ遮蔽シ通視ヲ容易ニスル如ク且敵方ヨリ特異ノ注意ヲ惹カシムルモノヲ木其他附近ノ材料ヲ以テ遮蔽物ヲ設備ス尙ホ要スレハ身體ニモ之ヲ結着ス

ロ、射撃設備、敵ノ出現ニ對シ射撃ヲ行フ場合ヲ顧慮シ依托ノ設備若クハ射撃ヲ妨害スル物ヲ除去シ且ツ敵ノ現ハレ易キ地點ニ至ル距離ヲ測定ス
 ハ、報告(信號)設備、報告ノ爲メ姿ヲ現ハサス後退シ得ル如ク遮蔽ヲ行ヒ又通路ヲ開キ要スレハ擲彈筒又ハ發火信號等ノ設備ヲナス
 ニ、交通連絡設備、歩哨交代若クハ斥候ノ出入或ハ動哨等ノ行動ヲ容易ナラシムル爲道路ヲ開設ス

右設備完了スレハ歩哨姿勢及銃ノ保持法ヲ實施ス

一、歩哨監視、徵候ノ注意、敵兵ノ發見

着 眼

歩哨ノ監視法、徵候ノ注意、歩哨ハ敵ニ發見セラレサル様ニシテ能ク敵ヲ監視スルコトカ必要ナル而シテ遮蔽ノ設備ヤ偽裝ノ設備ヲ必要トスルコトカ多イ尙細部ノ注意ヲ舉クレハ
 イ、歩哨ハ目ト耳トヲ特ニ働カセ且ツ頭腦ヲ明快ニ活動セシム
 ロ、主トシテ敵方ヲ監視スルモノナルモ側方後方ノ注意モ怠ツテハナラヌ
 ハ、徵候ニ注意スルコト(犬ノ吠聲、車輛音、土人避難ノ状態、火災、煙火、氣球、敵ノ部隊

ノ移動等)

ニ、敵ノ出現シ易キ要點(山頂、鞍部、村落、橋等)ハ特ニ注意ス
 ホ、前地區ノ監視ハ視界ノ達スル限り監視シ得サル地點ナキ様、前後左右、遠近ト要點ト然ラサル點トヲ比較考量シテ絶エス全般ニ渡リ監視スル
 ヘ、地區地物ヲ暗識シ要點ニ至ル距離ヲ測定シ要スレハ照準點ヲ決定シ且常ニ裝填シ夜間ハ着剣スルコト

ト、素リニ守地ヲ離レテハナラヌ且必要ナク行動スルコトハ敵ニ發見セラレ易シ
 チ、樹枝、動物(犬等)ニモ注意ヲ要ス

敵ヲ發見シタトキノ動作

イ、敵ヲ發見セハ歩哨へ小聲カ信號等ニテ他ノ歩哨ニ告知ス
 ロ、靜ニ身體ヲ匿シテ敵ヲ監視ス
 ハ、目前ノ敵ノミニ注意シテ他方面ノ監視ヲ怠ルナ
 ニ、敵ノ行動ヲ觀察シテ確實ナル判斷ヲナスコト例ヘハ
 彼我ノ區別、斥候ナルヤ部隊ナルヤ、後續部隊ノ有無

兵種、敵カ我レヲ發見セシヤ否ヤ、射撃スヘキヤ否ヤ

實施

此ノ演習ハ最モ熟練ヲ要スル動作ヲ步哨動作中困難ナルヲ以テ各種ノ地形ニ於テ情況ヲ變ハシ習熟セシムルコトカ必要テアル假設的ノ現出ハ初メ一、二名ヲ出シ步哨ニ向ヒ前進セシメ後退却セシム漸次行動ヲ複雜ニシ横行斜行躍進等ヲナサシメ現出場所ヲ二、三ヶ所トシテ逐次監視ヲ困難ニスルカヨイ

一、距離測量、地形ノ暗識

イ、距離ノ測量

- 1、著名ナル地物、高地、森林端、村落、一軒家、樹木等
 - 2、敵ノ現出シ易キ位置、道路、林縁、鞍部等
 - 3、射撃ヲ行フ近距離ノ測量、敵ノ斥候等ノ接近セル場合射撃ヲ要スル位置ノ測量
- ロ、地形ノ暗識
- 1、敵ノ監視上殊ニ夜間等ニ於テ前面ノ地物ノ形狀、現存ノ狀態、通過ノ難易ヲ識別シアルヲ要ス

- 2、斥候ノ行動ヲ容易ナラシムル爲メ地形ノ概要ヲ説明シ得ルヲ要ス
- 3、攻撃、防禦ニ於テ嚮導トナリ或ハ敵ヲ欺騙シ得ルヲ要ス

一、步哨線ノ通過ヲ許スモノノ通過法

晝間ニ於テ步哨線ヲ通過スルモノハ一應步哨ニ告知スル義務カアル然シ他部隊ヨリ來ルモノテ步哨ノ位置ヲ知らナクモノハ遮蔽シアル步哨ニ對シテハ往々默過スル場合アルヲ以テ此ノ如キ場合ノ步哨ハ進ンテ之ヲ訊問スルヲ要ス

- 1、斥候、出發スル斥候ニ對シテハ其任務経路歸來ノ時間場所等ヲ聞キ現在ニ於ケル敵情地形ヲ告知ス

歸還セル斥候ニ對シテハ前面ノ敵情ヲ聞ク

ロ、傳令、概ネ斥候ニ準シ其行先ヲ聞キ要スレハ其位置ヲ告知ス

ハ、巡察、監視中ノ狀況ヲ報告シ敵情ヲ聞ク

ニ、將校部隊等ニ對シテハ其行先、任務敵情等ヲ聞キ或ハ告知ス

第二回 步哨教育

一、課目

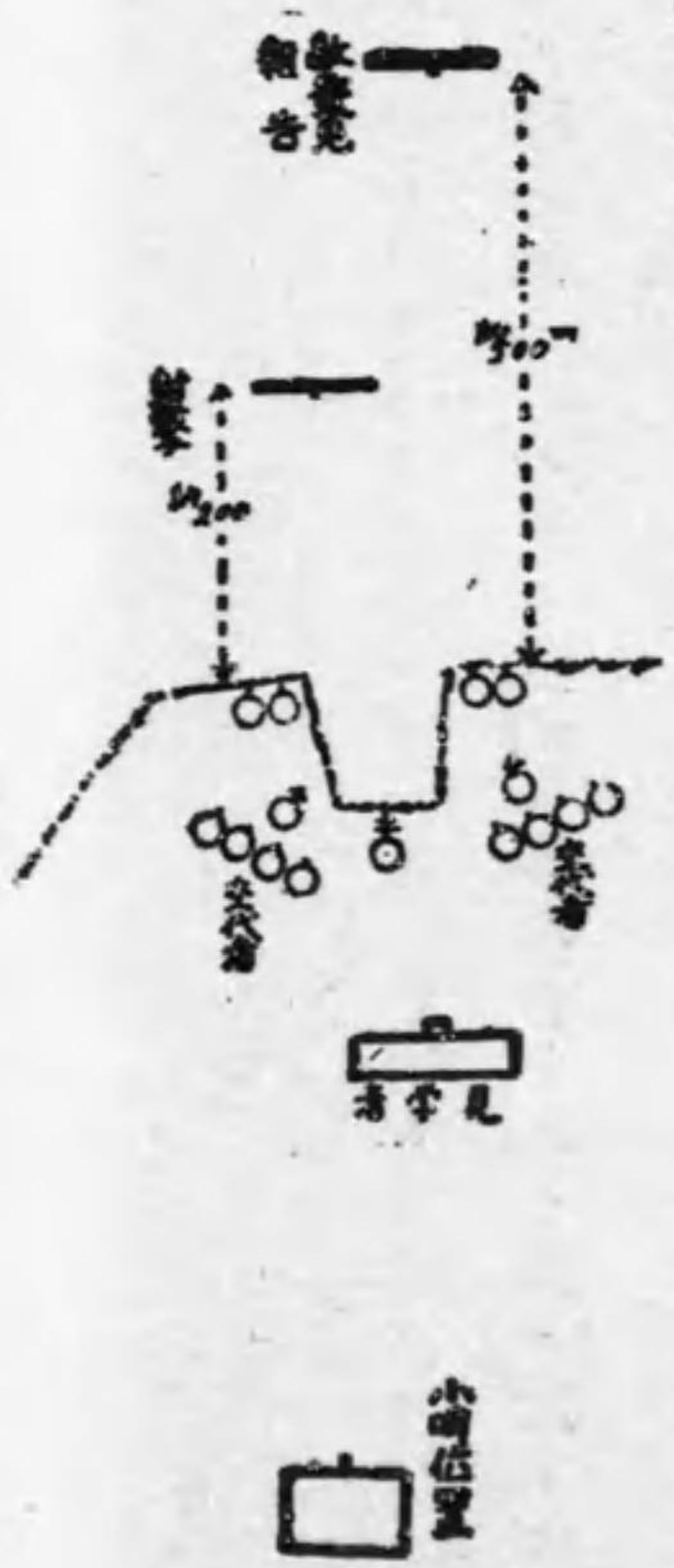
- 1、復習 (一般守則ノ諮問、特別守則ノ敵兵發見、位置ノ設備)
- 2、報告動作
- 3、射撃スル場合
- 二、教育時間、二時間
- 三、準備、假設敵ノ配置(主ニ斥候) 手旗(信號用)、成シ得レハ空包
- 四、指導要領

現地ニ誘導、小哨ノ位置ニ適當ナル場所ニ至リ情況ヲ示シ命令ヲ下シテ二個ノ步哨ヲ出シ(二、三十米ニ近接シテ配置ス) 見學部隊ハ步哨ノ後方ニ至ル

1、復習動作

- イ、一般守則ノ諮問
- 歩哨ノ姿勢如何
- 銃ノ保持法如何

晝間步哨線ノ通過ヲ許スモノ如何



歩哨ノ命ニ從ハサルモノアル時ハ如何
 ロ、特別守則ノ記憶理解

- 此ノ步哨ハ第一小哨ノ第一複哨テアル
- 敵ハ前約一里某地附近ニアリ
- 我斥候ハ何々附近ニ停止シアリ
- 敵ニ通スル主要ノ道路ハ此レ(彼レ)
- 彼ノ村ハ何村、前ノ高處ハ何高地、左ハ一本松
- 特ニ監視ヲ要スル處ハ高地ノ鞍部
- 右ハ隣小哨ノ複哨カ彼ノ所ニアリ
- 左ハ第二複哨カ彼ノ所ニアリ
- 其連絡ハ晝間ハ通視法ニ依ル夜間ハ互ニ動哨ニ依ル
- 小哨中隊ノ位置及之ニ通スル道路ハ既知ノ通り
- 敵襲ニ際シテハ小隊ノ右翼方面ニ退キ來レ
- ハ、敵兵發見

記號ニ依リ豫メ隱匿セル斥候ヲ現出シ之ニ對シ次ノ動作ヲ行フ

- 1、歩哨ノ告知、連絡
 - 2、敵情監視及敵情判斷
 - 3、距離測量
- ニ、位置ノ設備ハ次ノ如シ

- 1、監視ノ設備
- 2、射撃ノ設備
- 3、報告連絡ノ遮蔽設備

2、報告動作ノ指導

報告ハ假設敵ヲ現出シ之ニ對シ歩哨ノ協同動作ニ依リ報告スヘキヤ否ヤヲ判斷シ報告ヲ要スル場合ハ主トシテ最初敵ヲ發見シタルモノヲ可トス之レ敵ニ付テ多ク承知シテ居ルカラテアル報告ハ敵ニ遮蔽シテ行動スルヲ要ス其報告ノ要旨ハ次ノ如シ

- 1、歩哨ノ番號
- ロ、發見シタル敵ノ種類ト員數

ハ、時刻、地點、及其行進方向(現地ヲ示シ得ル時ハ最モ可)

ニ、徵候ヲ知り得タル時ハ併セテ報告ス(推測ナル時ハ其旨ヲ明カニス)

報告ノ一例ヲ示セハ左ノ如シ

小哨長殿第二複哨報告

敵ノ歩兵斥候五名只今某村西端ニ現ハレ漸次北方ニ前進シツツアリマス村内ニハ犬ノ聲カ聞
エマス村内ニモ敵兵ガ居ル様ニ思ハレマス (終リ)

報告動作ノ着眼點

- イ、報告詞情況ニ適合シ且明瞭ナルコト
- ロ、動作迅速ニシテ確實ナルコト
- ハ、協同、連絡良好ナルコト
- ニ、晝間ト夜間ノ動作ヲ區別スルコト

3、射撃スル場合

歩哨ハ努メテ射撃セサルヲ可トス之レ射撃ハ我位置ヲ敵ニ知ラシムル不利アリ射撃スル場合
概ネ次ノ如シ

- イ、敵ノ斥候ノ如キハ我レヲ發見セサル限り成ルヘク接近サセテ射殺ス
- ロ、敵ノ斥候我カ前方ニ、三百米ニ至リ我情況ヲ偵察シテ歸ル時
- ハ、土人間諜等ニシテ歩哨ノ命ニ從ハサル時
- ニ、歩哨カ自己ヲ防衛スル爲メ必要ナル場合（敵ノ斥候等ニ不意ニ圍マレテ危急ニ陥リタル時等）

ホ、敵襲ニ際シテ射撃ヲ以テ報告スル時

其他一般守則ニ定メラレタル場合

射撃動作ノ着眼點

- イ、敵情ノ判斷適當ナルヤ否ヤ
- ロ、射撃ノ諸動作正確ナルヤ
- ハ、精神沈着シアルヤ否ヤ
- ニ、目標ノ選定、其他隣歩哨トノ協同動作可ナルヤ否ヤ
- ホ、報告ノ時期適當ナルヤ否ヤ

實 施

射撃動作ハ銃ヲ使用シアル場合ニハ之レカ使用法ニ慣ラスカヨイ銃ヲ用ヒナイ場合ニハ姿勢ヲ取ラセルカヨイ

第三回 歩哨教育

一、課 目

- 1、復 習 （敵兵發見 射撃及報告動作）
- 2、問 查 法
- 3、隣歩哨トノ連絡
- 4、斥候トノ連絡（歩哨線出入者ニ對スル動作）
- 5、歩哨ノ交代法
- 6、軍使降參人ニ對スル動作

二、時間、二時間

三、演習地、前方稍開豁テ歩哨線ノ地形稍掩蔽シテ居ル位置ヲ選定ス
材料ノ整備及假設敵ノ配置ハ前要領ニ同シ

四、指導要領

- 1、小哨ノ位置ニ誘導ス
- 2、情況、命令ヲ下シ步哨ヲ配置シ步哨ノ間隔ハ約五十米ヲ距テテ三箇所ニ立哨ス
- 3、演習ノ目的ヲ示シ殘ツタ人員ヲ三分シテ各哨所ノ後方ニ至リ見學セシム尙指導員ハ直接指導ヲ行フ

情況

某地附近ニ於テ戰破レ〇〇方向ニ退却中ノ敵ハ目下前方約二里某地附近ニ停止シ其步哨線ハ何々附近ニアリ

命令

- 一、敵情前ニ同シ
中隊ハ前哨第一中隊トナリ何々附近ニ位置シ何地ヨリ何地ニ至ル間ヲ警戒ス
我騎兵斥候ハ前方何村附近ニアリテ敵ト觸接シ敵情搜索中ナリ
- 二、小隊ハ第二小哨トナリ某地方向ニ對シ敵方ヲ警戒セントス
- 三、某ハ三名ヲ率キ斥候トナリ約千米前方〇〇附近ニ至リ步哨配置ヲ掩護スヘシ(假想)
- 四、某ハ六名ヲ率キ第一複哨トナリ某地ニ至リ前方ヲ警戒セヨ

- 五、某ハ六名ヲ率キ第二複哨トナリ某地ニ至リ前方ヲ警戒セヨ
- 六、某ハ六名ヲ率キ第三複哨トナリ某地ニ至リ前方ヲ警戒セヨ
- 七、余ハ右方ヨリ步哨線ヲ監視ス

步哨出發後殘餘ヲ三分シ各位置ニ誘導ス

小哨長ハ右方ヨリ特別守則ヲ授ケタ後中央複哨ノ位置ニ至リ假設敵ヲ出シ次ノ課目ヲ演練ス

1、復習

イ、敵兵發見

1、情況判斷及監視

2、步哨ノ協同動作

ロ、報告動作

言語明瞭簡易ナルコト

ハ、射撃動作

1、步哨ノ協同動作

2、射撃ノ時機

3、地物ノ利用及射撃動作

2、問 査 法

着 眼

- イ、問 査ニ於ケル姿勢、態度、油断ナキコト
- ロ、言葉ニ活氣アルコト
- ハ、歩哨ノ協同動作他ノ一人ハ敵ノ動靜ニ注意シテ直チニ之ニ應シ得ル如ク準備ス

實 施

- イ、指導員先ツ模範ヲ示シ之ニ關スル説明ヲナス
 - ロ、指導員又ハ生徒ノ一人ヲシテ歩哨線ニ近接セシメ之ニ對シ歩哨ノ動作ヲ演練ス
- 3、隣歩哨トノ連絡

着 眼

- イ、連絡方法及通路ノ選定
- ロ、時機ノ選定
- ハ、途中敵發見時ノ動作

連絡ノ方法ニ次ノ二法カアル

- イ、通視法 歩哨一人カ其位置又ハ某地點迄行動シテ隣歩哨ヲ通視スル法ニシテ二人哨ノ時晝間ノ連絡ニ適ス
- ロ、動哨法 歩哨ノ一人カ其位置ヲ離レ隣歩哨ノ位置ニ至リ我情況ヲ聞キ歩哨ノ中間地區ヲ搜索シツツ連絡スルモノテアル此方法ハ三、四人哨又ハ下士哨テ夜間中間ノ監視カ充分出來ナイ時ニ行フ

連絡ノ時機(主トシテ動哨ノ場合)

- イ、特別守則ニ定メラレタ時刻
- ロ、歩哨カ其位置ニ就イテ變事ナク其位置ヲ離レテモ差支ナキ時
- ハ、隣歩哨ノ附近ニ變ツタ徵候ノアル時
- ニ、敵ノ斥候部隊等カ隣歩哨ノ方向ニ運動シタトキ
- ホ、夜間ニ移ル前地形暗識ノ爲メ行フ
- ヘ、隣歩哨ニ通報スル必要ノコトカ起ツタトキ

實 施

指導員ハ步哨及部隊ノ中間附近ニ位置シ假設敵ヲ現出シツツ指導ス又部隊内ニアル各人ニ其要旨ヲ徹底サセル爲メ所見ヲ聞キ諮問ヲ行フ等適宜啓發スルカヨイ

4、步哨ト斥候トノ連絡(步哨線出入者ニ對スル動作)

着眼

- イ、斥候ノ任務及経路ノ概要歸來時刻及位置ヲ聞ク
- ロ、立哨中知り得タ敵情ヲ告知ス
- ハ、步哨ノ位置ヲ敵ニ察知セラレルコトヲ防ク爲メ其側方ヨリ進出セシム
- ニ、歸來セル斥候ヨリ敵情ヲ聴取ル
- ホ、斥候ノ前方ニ於ケル行動ニ注意ス

實施

- 步哨ノ配置及斥候ノ區分ハ見學部隊ノ位置ハ前例ニ依ル
- 必要ナル距離(約五十米)ニ斥候ヲ出シ步哨線ニ接近セシム
- 步哨ハ斥候ノ近接ヲ知り敵情ニ應シ之ヲ停止セシメ或ハ迎フル如クシテ連絡スルモノトス
- 5、步哨ノ交代法

着眼

- イ、步哨ノ交代ハ必ス步哨掛(下士哨ニアリテハ其長)ノ立會ヲ要ス
- ロ、交代ハ新舊兩步哨カ敵ノ方ニ面シテ監視ヲ中絶セス且身體ヲ現ハササル如ク位置ヲ選ミ舊步哨ハ新步哨ニ向ツテ服務中ノ出來事ヲ傳フ
- ハ、前方ニ我斥候等在ル時ハ必ス其任務、経路、歸還時刻ノ大要ヲ告知ス
- ニ、信號用材料等ノ異狀ヲ檢シ引繼ヲナス

實施

各哨所ニ於テ敵兵發見ヲ行ヒタル後其敵情ニ關スル申送ヲ行ハシメ要スレハ見學者ヲシテ實施セシム

6、軍使降參人ニ對スル動作

着眼

- イ、速ニ發見シ報告スルコト要スレハ步哨ノ員數ヲ増加ス
- ロ、敵ニ欺カレナイコト特ニ其後方ノ敵情ニ注意ス
- ハ、無用ノ談話ヲシナイコト

ニ、步哨線外敵方ニ面シ停止セシム降參人ニシテ武器ヲ携帶スルトキハ放棄セシム
實 施

指導員ノ一人ヲ前方ヨリ無抵抗ノ狀態ニテ接近セシム
步哨ヲシテ之ニ對スル判斷ヲナサシメ然ル後著眼ニ示シタル要領ニ從ヒ動作セシム
此動作ハ熟練スルヲ要セス其取扱法ヲ知ルノミニテ可ナリ

第四回 步哨教育

一、課 目

- 1、復習 敵發見、報告及射擊動作
- 2、三(四)人哨(三年次)
- 3、步哨掛(四年次)
- 4、銃前哨
- 5、下士哨及小哨ノ動作(四年次)
- 6、敵襲ニ對スル動作

時間 約二時間

三、場所 野外不齊地ヲ選定ス

四、指導要領

情 況

敵ハ前方約二里某地附近ニ集結中ニシテ其步哨線ハ約一里前方〇〇附近ヨリ〇〇附近ニアリ
我軍ハ目下現在地附近ニ於テ隊伍整頓中ニシテ一、二日後ニハ攻撃ノ企圖ヲ有ス

命 令(地形ヲ偵察シタル後下ス場合)

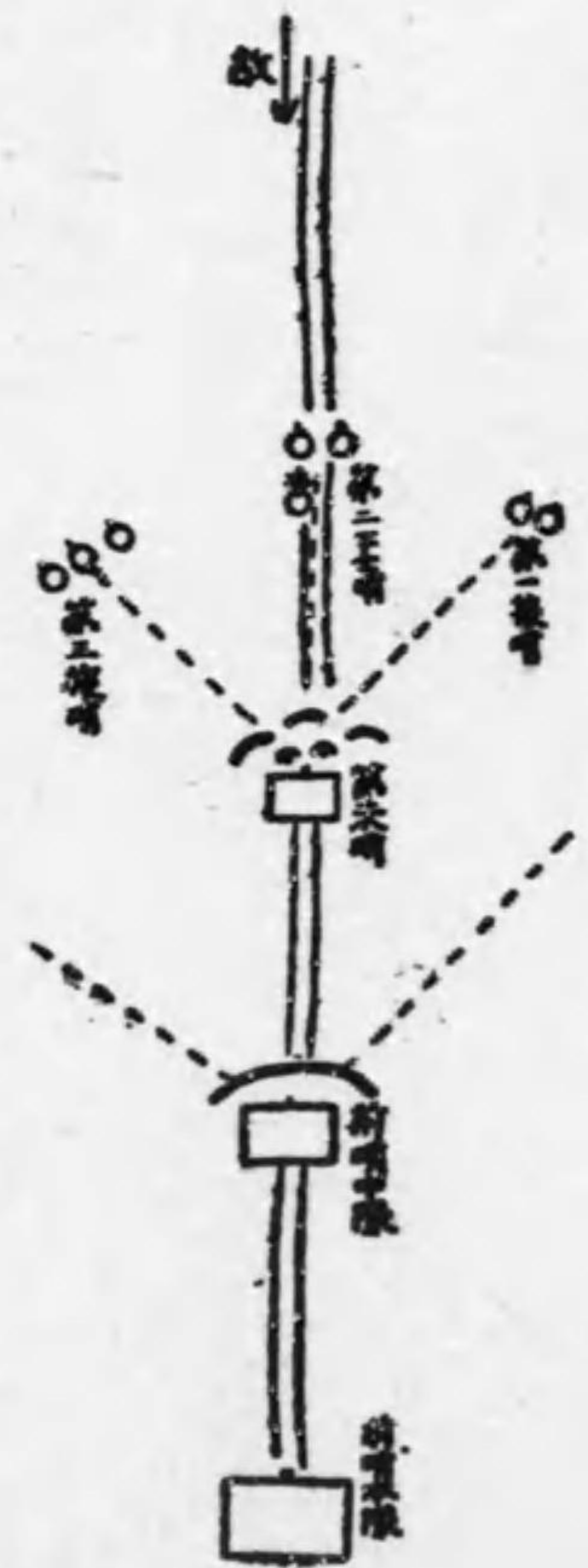
一、敵情ハ情況ニ同シ

前哨本隊ハ〇〇附近ニアリテ警戒シテ

リ中隊ハ某地ニアリ

我斥候ハ某地附近ニ於テ敵情警戒中ナ

リ



二、小隊ハ第二小哨トナリ現在地ニ位置シ某地點ヨリ某地點ニ至ル間ヲ警戒セントス

三、某外三名ハ第一斥候トナリ某地附近ニ至リ敵方ヲ警戒セヨ

四、某外六名ハ第一複哨トナリ〇〇附近ニ位置シ某方向ヲ警戒セヨ(長四年次者)

ニ、步哨線外敵方ニ面シ停止セシム降參人ニシテ武器ヲ携帶スルトキハ放棄セシム
實 施

指導員ノ一人ヲ前方ヨリ無抵抗ノ狀態ニテ接近セシム
步哨ヲシテ之ニ對スル判斷ヲナサシメ然ル後着眼ニ示シタル要領ニ從ヒ動作セシム
此動作ハ熟練スルヲ要セス其取扱法ヲ知ルノミニテ可ナリ

第四回 步哨教育

一、課 目

- 1、復習 敵發見、報告及射擊動作
 - 2、三(四)人哨(三年次)
 - 3、步哨掛(四年次)
 - 4、銃前哨
 - 5、下士哨及小哨ノ動作(四年次)
 - 6、敵襲ニ對スル動作
- 二、時間 約二時間

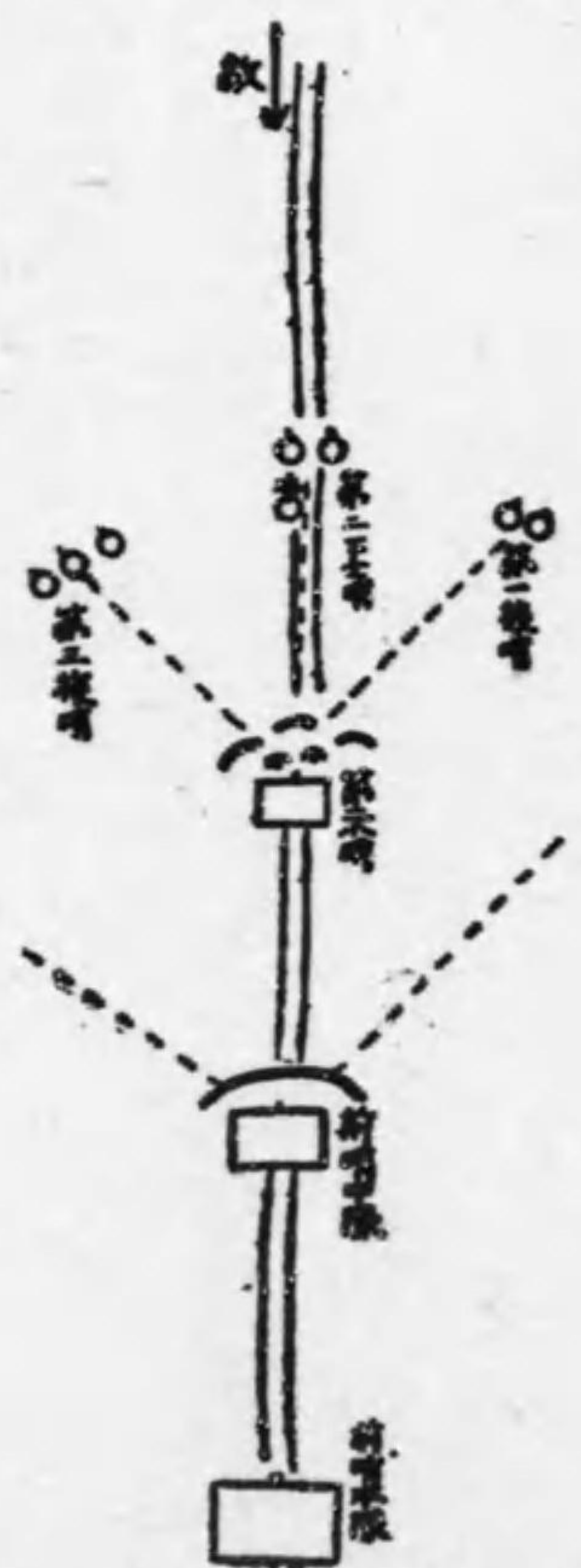
- 三、場所 野外不齊地ヲ選定ス
- 四、指導要領

情 況

敵ハ前方約二里某地附近ニ集結中ニシテ其步哨線ハ約一里前方○○附近ヨリ○○附近ニアリ
我軍ハ目下現在地附近ニ於テ隊伍整頓中ニシテ二、三日後ニハ攻撃ノ企圖ヲ有ス

命 令(地形ヲ偵察シタル後下ス場合)

- 一、敵情ハ情況ニ同シ
- 前哨本隊ハ○○附近ニアリテ警戒シア
- リ中隊ハ某地ニアリ
- 我斥候ハ某地附近ニ於テ敵情警戒中ナ
- リ



- 二、小隊ハ第二小哨トナリ現在地ニ位置シ某地點ヨリ某地點ニ至ル間ヲ警戒セントス
- 三、某外三名ハ第一斥候トナリ某地附近ニ至リ敵方ヲ警戒セヨ
- 四、某外六名ハ第一複哨トナリ○○附近ニ位置シ某方向ヲ警戒セヨ(長四年次者)

- 五、其外六名ハ第二下士哨トナリ〇〇附近ニ至リ前方ヲ警戒セヨ(長指導員)
 - 六、其外九名ハ三人哨トナリ〇〇附近ニ至リ警戒セヨ(長四年次者)
 - 七、其ハ銃前哨單哨ヲ配置スヘシ
 - 八、其ハ工事ヲ監督實施スヘシ(工事ハ假裝標示ニ止ム)
 - 九、余ハ第一複哨ヨリ順次巡視ス
- 某ハ傳令トナリ續行スヘシ

小隊長 某

歩哨ノ位置ハ教育上距離間隔ヲ短縮シ五十乃至百米ヲ適當トス

小隊長ノ命令ハ地形ヲ偵察スル餘裕ナキ場合ニ若干ノ兵員(第一回立哨ニ要スル人員六名乃至八名)ヲ引率シ豫想スル歩哨線ニ至リ逐次配置シテ歸還シ後歩哨配置ヲナスヲ可トスルコトアリ

1、復習課題

イ、敵發見及報告 假令 出シ(前ニ出シタ斥候ヲ假設敵トスルモ可ナリ)之ニ對シ動作セシ

着 眼 程度ヲ高上シ習熟セシム

1、發見報告、迅速ナコト及報告詞簡明ナコト

2、歩哨ノ監視中絶セナイコト

3、歩哨ノ協同動作確ルコト

4、敵情ノ判斷報告ノ經路適當ナルコト

ロ、射撃動作 程度ヲ高メ習熟セシム

2、三、四人哨(三年次以上)

イ、目的 三人哨、四人哨設立ノ目的次ノ如シ

1、監視ヲ嚴ニスル爲

2、地形掩蔽複雑ニシテ二人立哨ニテ不充分ナルトキ

3、連絡、報告ニ支障カナイヤウニスル爲

ロ、監視ノ方法

1、通常二名ハ前方ヲ監視シ他ノ者ハ側方後方ヲ監視ス

2、連絡及報告ヲ擔任スルコトモアル

3、地形上監視區域ヲ分ツコトアリ

- 4、敵ニ就テ發見セハ最初發見シタモノ速ニ報告スルヲ可トス
- 5、交代ハ全部同時ニ行フヲ普通トスルカ逐次交代スルヲ可トスルコトモアル

着眼

- イ、目的及監視ノ方法ニ合致スルコト
- ロ、其他ノ動作(連絡法、協同動作)ハ複哨ノ場合ニ同シ

實施

- イ、一時小哨ニ於ケル人員ヲ教育ノ目的ヲ以テ情況ニ於ケル三人哨ノ場所ニ誘導シテ見學セシメ説明ス
- ロ、三年次ノ人員小ナル時ハ三人哨ノ位置ニ全部配置スルヲ可トス而シテ二年次者ヲ見學セシメ或ハ四年次ヲ合混指導スルハ適宜トス

3、步哨掛

步哨掛ノ動作ハ次ノ如シ

- 1、小哨ヲ出發スル時ノ動作
- 1、任務ノ復唱

- 2、人員ノ選抜(立哨ニ耐ヘキモノ)

- 3、軍裝、彈藥ノ検査及補充

- 4、時計ノ照合

- 5、部下ニ任務ヲ示ス

- 6、裝填ヲナシ要スレハ着剣ヲナシ出發ス

ロ、豫定ノ哨所ニ至ル途中ノ注意

- 1、斥候ノ要領ニ從ヒ前進スルヲ要ス(警戒ヲ嚴重ニス)

- 2、途中ノ地形ヲ暗識ス

- 3、小哨ノ位置附近ニ認識シ易キ目標ヲ指示シ置クヲ要ス

ハ、豫定ノ位置ニ到着後ノ處置

- 1、哨所ニ適スル地點ヲ選定シ要スレハ遮蔽設備ヲナシ通常二人ヲ監視ニ任セシメ其他ハ近傍ニ遮蔽シテ位置セシムルカ時トシテ全員警戒ニ任スルコトモアル
- 2、哨所附近ノ地形ヲ偵察シ所要ノ設備ヲナス(遮蔽、射撃等ノ設備)
- 3、小哨長ノ來ル方向ニ誘導者ヲ出シ連絡シ置クコト

ニ、小哨長來着時ノ處置

- 1、到着後新タニ得タル敵情及地形ノ報告ヲナス
- 2、小哨長ヨリ特別守則ヲ受クル際ハ交代兵ヲ歩哨ノ位置ニ接近セシメ之ヲ聽聞セシム
- 3、守則ノ復唱ヲナス
- 4、守則ヲ歩哨及其交代兵ニ記憶理解セシメ猶前方ノ地形ヲ暗識セシム

ホ、爾後ノ動作

- 1、守則ヲ歩哨ニ理解セシメ位置ヲ決定シタ後交代兵ヲ率キ小哨ニ歸リ先任下士ノ指示ニ依リ又銃ヲナス
- 2、交代時間ニ達セハ交代兵ヲ率キ複哨ノ位置ニ至リ交代セシム
- 3、交代終レハ小哨長ニ報告ス

實施

小哨ノ位置ニ於テ小隊長ノ命令ヲ受ケ歩哨團ヲ引率シテ哨所ニ至ル

前哨等ニ歩哨掛ノ動作ヲ見學セシメ指導員ヲ附シ適宜指導ヲ行フモノトス

四年次者ノ優良者ヲ選抜實施セシムルヲ可トス他ハ一般ニ見學並ニ適宜實施セシムルカヨイ

敵情ノ變化ニ伴フ決斷ハ隨時指導員ヲシテ教習セシムルカヨイ

銃前哨

銃前哨ハ小哨又ハ前哨中ニ直接警戒ヲナス爲メニ通路附近ニ設クルモノヲ單哨若クハ複哨トス

銃前哨ハ動作ハ一般ノ歩哨ニ準スルカ其異ナル要點ハ概ネ次ノ如クテアル

イ、銃前哨ノ動作

- 1、前方ニアル各哨所(小哨、下士哨、複哨)等ノ位置ヲ承知シアルコト
- 2、我軍ノ斥候、傳令等ニ哨所ノ位置、小哨長、中隊長ノ所在ヲ知ラセルコト
- 3、前方ノ銃聲、事變、徵候等ハ細大トナク報告ス
- 4、報告ハ其位置ヲ低イ聲ヲナスコト
- 5、素リニ哨所ノ位置ヲ離ルル者ナキヤヲ注意スルコト

ロ、銃前哨ノ特別守則

- 1、其銃前哨ノ番號(第二小哨ノ第一銃前哨等)
- 2、敵情及敵ニ通スル道路

- 3、各哨所ノ位置、及此等ノ各位置ニ通スル経路
- 4、小哨長及中隊長ノ位置
- 5、他ノ銃前哨ノ位置

實施

銃前哨ハ小哨ノ位置ニ於テ適宜説明實施スルヲ便トス而シテ歩哨ノ動作ヲ修得スル時ハ特ニ容易ナルモノトス

下士哨及小哨ノ動作

下士哨ニ於ケル長及哨兵ノ動作次ノ如シ

- 1、下士哨長ノ動作
 - 小哨長ヨリ任務ヲ受ケテ出發シ後小哨長カ歩哨線ニ到リ守則ヲ授ケル迄ノ動作ハ歩哨掛ト同一テアル其他ハ次ノ要領ニ依ル
- 2、歩哨ハ通常二人ヲ以テ監視ニ任シ交代兵ハ其附近ニ遮蔽シテ位置セシム
- 3、歩哨ノ交代ニ立會ヒ必要ノ注意ヲ與フ
- 4、歩哨ヨリ敵情ニ關スル報告ヲ受ケレハ直チニ歩哨ノ位置ニ到リ共ニ敵情ヲ監視シ要スレ

ハ其一人ヲ小哨長ニ報告セシム然ルトキハ交代兵ヲ一時立哨セシムヘシ其他ノ報告ハ交代兵ヲ用フ

- 4、隣歩哨トノ連絡ハ交代兵ヲ用フルヲ通常トスル
- 5、歩哨ノ射撃スル場合ニハ交代兵ノ一部又ハ全部ヲ増加スルヲ要スルコトカアル
- 6、敵襲ニ對シテハ交代兵ヲ増加シ全員ヲ指揮シテ情況ニ應シ或ハ抗シ或ハ退キ小哨ヲシテ準備ノ時間カアルヤウニスル
- 7、下士哨ニ於ケル立哨兵ノ動作
 - 下士哨ニ於ケル立哨兵ハ復哨ト殆ント同様ナルモ下士哨長ノ指揮下ニアツテ動作スルヲ以テ直チニ其長ニ報告シ指示ヲ受ケルノテアル
- 8、下士哨ニ於ケル交代兵ノ動作
 - 1、交代兵ハ歩哨ノ後方テ遮蔽ニ便ナル所ニアツテ休息スルノテアルカ精神ヲ緊張シ急ニ應スルノ準備ヲ怠ルヘカラス
 - 2、交代兵ハ休息中モ銃ヲ手ヨリ放シ又ハ軍裝ヲ棄スヲ禁ス
 - 3、交代兵ハ其位置ヲ離ルル時ハ下士哨長ノ許可ヲ受ケルノテアル

實 施

第四年次者ヲ下士哨長トナシ第二下士哨ニ位置セシム

敵ニ對スル動作、其他報告、連絡等適宜、指導員ヲシテ指導セシメ要スレハ見學者ヲシテ實施セシム

部下ヲ指揮スルニハ其要領ヲ充分吞ミ込メ居ラナイト頗ル困難ナモノテアルカラ豫メ研究ヲ行ハシメ見學ト相俟テ懇切ニ指導ヲ行ハナケレハナラヌ突然任務ヲ命ジテ、實施サセルコトハ殆ント不可能ニ終ルモノテアル

小哨ニ於ケル動作

小哨ニ於ケル者ノ動作ハ概ネ次ノ如シ

- 1、小哨長歩哨線ヲ巡視スル時ハ先任下士ハ小隊ヲ指揮シ小隊長ノ指示ニヨリ行動ス
- 2、小哨ニ於ケル一線ノ者ハ長ノ命令ニ從ヒ休憩シアルモ服裝ヲ素シテハナラナイ但シ背囊ヲ下シ銃ヲ又銃線ニ懸ク置ク
- 3、小哨長ノ許可ナク其地ヲ離レルコトハ出來ナイ
- 4、休養中ハ喧噪テナイコト

5、敵襲ニ對スル動作

突然敵ノ襲撃ヲ受クル時ハ沈着シテ迅速ニ豫メ腹案セル處置ヲ施スヲ要ス左ニ處置ノ概要ヲ述ヘン

イ、特別守則ニ依リ定メラレタ處置ヲナス例ハ道路ノ阻絶ノ閉塞等ノ如シ

ロ、急劇ナル射撃ヲナシ警報ス此際亂射ニ陥ルコトナク照尺ヲ裝シ沈着シテ敵ヲ射撃スルヲ要ス

ハ、定メラレタル信號ヲ行フ、煙火信號、發火信號、電鈴信號等其場合ニ於ケル信號法ヲ遲滞ナク行フヲ要ス然レトモ情況ヲ確實ニ判斷スルコトニ注意セナケレハナラヌ

ニ、敵襲ニ對スル報告ハ味方ノ志氣ヲ興奮ナセルカラ正確ニ報告スルヲ要ス單ニ敵襲ト云フカ如キハ其對策ニ迷フモノテアル例ヘハ

「敵ノ歩兵約二百只今某森ノ方向ヨリ我ニ向ヒ前進ス」

ホ、歩哨後退スル時ハ敵ヲ見失ハナイヤウ小哨ノ正面ヲ避ケ小隊ニ合スルノテアル

實 施

演習ニハ假設旗ヲ以テ部隊ヲ標シ先ツ晝間四、五百米ヨリ離テ向ヒ展開ノ狀ヲ現出シ歩哨ニ

左ノ動作ヲナサシム

イ、敵情判断

ロ、射撃

ハ、歩哨ノ一人ハ報告一人ハ監視

ニ、特別ニ定メラレタ信號等ヲナス

ホ、敵情ヲ監視シツツ後退スル歩哨ノ動作

先ツ歩哨線ニ於テ歩哨ノ敵ニ對スル動作ヲ見學實施シ復哨、三、四人哨、下士哨ノ報告ヲ至近

距離ニテ受ケ後小哨ノ位置ニ小隊ヲ誘導シ陣地ニ據ル動作及防禦戰鬪等ノ戰鬪動作ニ移ル關係ヲ説明ス

第三款 夜間歩哨ノ動作

晝間ノ歩哨ノ動作ト夜間ノモノトハ其ノ趣ヲ異ニスルモノカ尠クナイ而シテ一般ノ夜間動作ニ慣熟スルコトカ必要ナルカ特ニ歩哨トシテ注意スヘキ點ヲ擧クレハ次ノ如クテアル

一、位置ノ選定

夜間ハ暗黒ナルトキハ物體ノ前方ニ位置シ高地ハ頂界線ヨリ前方斜面ニ位置シ又高所ヨリモ低所

ニ在リテ透視スルヲ可トスルコトカアル

二、監視法

1、夜間ハ主トシテ耳ヲ働カスカヨイカ明暗ノ度ニ依リ耳目ヲ活動スルコト

2、方向ヲ誤ラヌコト之カ爲晝間ヨリ前方ノ地物ヲ能ク暗識シ要スレハ敵ノ方向ニ竹又ハ木桿等

ニ白紙、白布等ヲ附着シテ樹テルトヨイコトカアル

3、敵又ハ疑ハシキ者近寄ルトキハ靜ニ低キ姿勢ヲシテ透視スルカヨイ

4、僅カノ徵候ニモ注意スル

三、問查法

1、夜間歩哨ニ近ツク者アラハ銃ヲ構ヘ「誰カ」ト問フ呼フコト三回ニ至ルモ猶ホ答ヘサル時ハ直チニ殺スヘシ

2、問查ハ前後左右何レノ方向ヨリ來ルモノニ對シテモ誰何スルモノテアル

3、問查ハ其對手ニ聞キ取り得ルヲ度トシカアル低キ聲ニテ行フ

4、問查ノ際ハ刺突射撃何レヲモ成シ得ル姿勢ト準備ヲ以テ行フヲ要ス

5、問查ノ際氏名ヲ問フヲ可トスルコトモアル

之ヲ要スルニ歩哨及斥候ノ教育ノ實際ノ地形情況ニ適應スルコト第一トシ單ニ空論ニ終ツテハナラナイ
殊ニ實修ハ努メテ各人ヲシテ實施セシメ見學ニ止ムルハ其效果渺キモノナルコトヲ感銘スルヘキテアル

第五節 遠 足

一、遠足ノ目的

遠足ノ目的ハ主トシテ不撓不屈、堅忍持久ノ精神ヲ養ヒ脚力ヲ練リ、且ツ僚友相互ノ情誼理解ヲ助成スル效カアル

軍歌ハ情操ヲ培ヒ男性的精神ヲ喚ヒ起スモノテアル

訓練生ノ遠足ハ各々其體格職業ニ依リ脚力ニ強弱アルヲ以テ一律ニ實施スルコトハ危險ヲ生スル虞カアリ殊ニ青年ハ元氣ニ盛リ稍々無謀ノ舉ニ出テントスル風アルヲ以テ計畫者ハ深く注意シテクレハナラヌ

第一款 出發前ノ注意

一、身 體

- 1、身體殊ニ足ヲ清潔ニスルコト
- 2、手足ノ爪ヲ適度ニ切ルコト
- 3、飲食ヲ慎ミ特ニ消化機ヲ健全ニシアルコト
- 4、睡眠ヲ充分ニナスコト

二、被服、裝具及着裝

- 1、清潔ニシテ破綻ナク身體ニ適合スルコト窮屈ナルハ害アリ
- 2、靴ハ穿キ慣レタ中古品ニテ革質ノ軟カナルモノカヨイ
- 3、雜糞、水筒、背負袋、背囊等ハ身體ニ適合スル如ク各部ヲ正スヘシ
- 4、着裝ニ際シテ時間ニ餘裕ヲ存シテ確實ニ行フカヨイ
- 5、靴ノ穿キ方ハ最モ注意シ靴下ニ皺ナク紐ハ少シク寛ク締メ靴傷膏ヲ塗布スルカヨイ

三、携 行 品

- 1、教練ニ必要ナル書類、手帳、鉛筆

- 2、辨當、水筒、雜囊
- 3、手拭、「ハンクチ」、塵紙、宿泊ノ際ハ齒磨楊子
- 4、幹部ハ繻帶包、藥品等ヲ携行ス

第二款 集合前ノ注意

- 一、朝食ハ適量ニ食シ食慾ノ進マナイ時ハ之ヲ携行シ途中テ食スヘシ
- 二、水筒ニ湯ヲ入レルコト
- 三、用便ヲナシ置クコト
- 四、忘レ物ナキ様注意スルコト

第三款 途中ノ注意

- 一、規律ヲ守リ徒勞ヲセヌコト
- 二、行進歩調ハ自由ナルモ歩度ハ均整ナルコト
- 三、隊伍行進ニ在リテハ規定ノ距離間隔ヲ保チ前後ニ重ナリ縱隊正面ヲ擴張セヌコト
- 四、特別ノ時ヲ除ク外ハ談話、唱歌ヲ許スモ體面ヲ損シ他人ニ迷惑ヲ及ボス言行ヲ慎ムコト
- 五、服裝ヲ素サスコト

- 六、隊伍ヲ離ルル時ハ幹部ノ許可ヲ受ケ隣人ニ告知スヘシ
- 七、「右」「左」ノ注意カアル時ハ速ニ之ニ應スヘシ
- 八、「井水」等ハ素リニ飲ンテハナラヌ

第四款 休憩間ノ注意

- 一、道路ヲ立塞クヘカラス
- 二、用便ヲナシ置クコト
- 三、穿物ノ不具合ヲ正シ殊ニ靴下ノ皺ヲ伸スコトヲ怠ラヌコト
- 四、足ニ熱ヲ感スル時ハ靴ヲ脱キ足ヲ冷シ靴傷膏ヲ塗ルコト
水泡ノ出來初メニハ特ニ注意スルコト
- 五、被服、裝典ノ具合ヲ正スコト
- 六、衛生ニ注意シ多量ノ湯茶ヲ飲ミ或ハ胸部ヲ開キ俄ニ冷氣ヲ通スカ如キハ宜シクナイ
- 七、糧食ハ携行セル定量ヲ食シ買食等ヲシナイ
- 八、休憩地ヨリ遠ク離レナイコト
- 九、湯茶ノ補充ヲナシ要スレハ幹部ノ指示ヲ受ク